令和 7 年度　専修大学　資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教　職　課　程

司　書　課　程

司書教諭課程

学校司書課程

学 芸 員 課 程

Devoted to the Development of Socio-Intelligence

SENSHU UNIVERSITY

Vol.28

専修大学21世紀ビジョン
「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）
専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

2020年9月16日、創立140周年

専修大学は、米国から帰国した４人の若者により、1880年（明治13年）に創立されました。日本で初めて、日本語で経済学と法律学を共に学べる高等教育機関「専修学校」の誕生でした。

以来、本学は創立者たちの建学時の精神を脈々と継承し、わが国の高等専門教育の確固たる歴史を築いてきました。

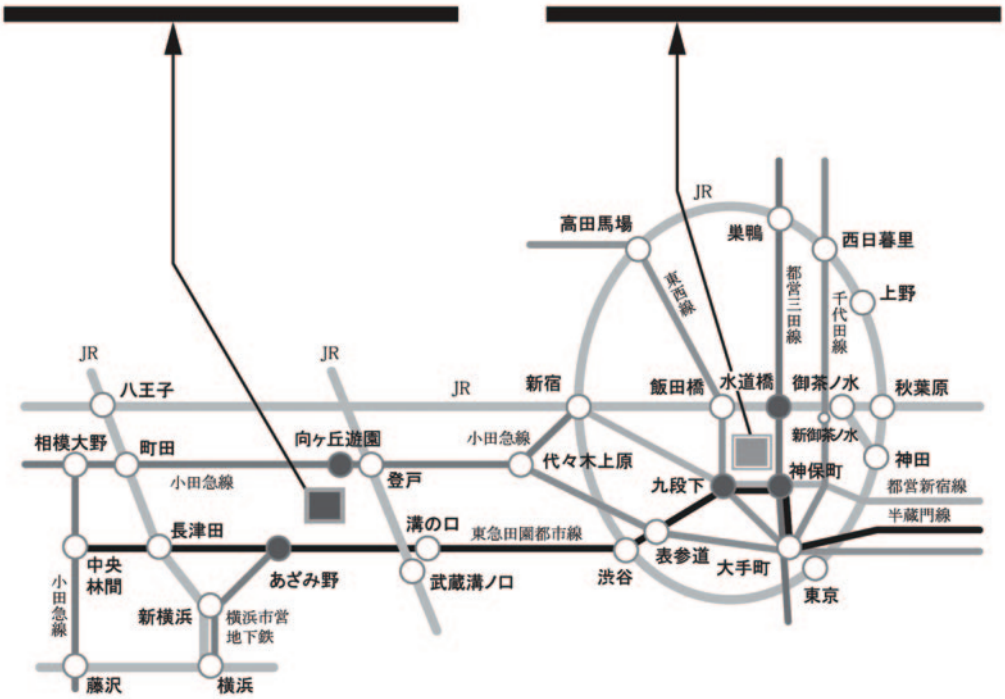
2020年に専修大学創立140周年を迎えた今、めざすは21世紀ビジョンとして掲げる「社会知性の開発」です。18歳人口が減少し、グローバル化やAIの台頭など社会構造が変化するなか、よりしなやかで力強い、社会で活躍できる多様な人材を輩出するため、さまざまな取組みを進めています。

生田キャンパス

●小田急線
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
●東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス（学生専用）約20分

神田キャンパス

●JR水道橋駅西口より徒歩7分
●地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
●地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



あなたの個性を活かした教育を！―「総合」のススメ―

教職課程協議会委員長　法学部　教授　森田　司郎

今、この『専修大学　資格課程年報「パッソ ア パッソ」』を手に取ってくれている皆さんは、教職、司書、司書教諭、学校司書、そして学芸員などの資格について少なからず関心を持ってくれていることと思います。まずは、皆さんの資格課程に対する興味関心に感謝しつつ、その想いに応えられるような教育を行っていくことの責任感を新たにしています。

私は教職課程を担当していますので、ここでは教師や学校教育に関するお話をします。しかし、これからお伝えしたい内容は、教職だけでなく他の資格についても当てはまることがあるのではないかと考えます。それは、これから仕事をしていく上であなたの個性を活かそうとすることを忘れないでください、ということです。とてもありきたりで当たり前すぎることかも知れませんが、私はこのことが、世の中に「あなたにしかできない仕事」を創り出すために重要なことではないかと考えています。

近い将来 AI やロボットによって代替されることのない、人間にしかできない仕事を残すことは、世界共通の課題です。このことは教職においても当然考えなければなりません。これに加えて、日本だけでなく世界各国で教師不足問題が進んでおり、教職の社会的意義や魅力を高めることが喫緊の課題となっています。こうした課題を乗り越えるため、単なる知識や技能を伝達するのではなく、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」教育[1]が必要とされています。さらに、これからは「様々な強みや専門性を持った教師」が求められています[2]。皆さんには、今のこの状況を「自分の個性が教育現場で役立つチャンス」だと捉えて欲しいと思います。子どもたちに「予測困難な時代」を幸福に生きていくために必要な能力を届けるためには、これまでの教師像の枠を超えて新しい教育にチャレンジしていくことが必要です。つまり、これからの教育現場では、皆さんそれぞれが替えの効かない個性的な教師として新しい教育に挑戦できる可能性が開かれています。ここで言う「個性」には、教科や指導の専門性といった“手堅い”ものもあるでしょうが、皆さんにはぜひ視野を広げ、自分が好きなことやワクワクすること、物事に対する考え方や感じ方なども含めて考えて欲しいと思います。なぜならば、一見「知識や技能」に還元されないこのような“ソフト”な教師の資質には、子どもたちの感性と共鳴して学びの質を一気に押し上げる可能性があるからです。例えば、教師の人柄や考え方、時には趣味などに触発されたことが自分の人生に大きく影響した経験や、教職を目指すきっかけとしてよく挙げられる「恩師の先生」の存在などは、この好例ではないでしょうか。

幸いなことに、現在の学校カリキュラムには、各教科の授業の他にも、皆さんの個性を存分に発揮できる場が用意されています。それは、総合的な学習（高校は探究）の時間（以下、「総合」）です。「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」様々な社会課題に主体的・協働的に取り組むこの時間は、子どもたちが予測困難な時代を逞しく生き抜いていくための力を身につけるための絶好の機会です。「総合」は小学３年から高校３年までの 10 年間を通して週に約２コマずつ行われます。この時間は教科ではなく、全ての教師が関わることができ、教師の自由裁量が大きく認められています。学習指導要領で「総合」を扱う頁数も、小学校で３頁半、中学校で３頁、高校では約２頁程度と最小限であり、その自由度の高さが分かります。個性を幅広く捉え、皆さんの興味関心、感じ方や考え方を思う存分に活かした「総合」のカリキュラムを創り出すことが、自分という人間にしかできない教育に繋がります。このような教師のオリジナリティー溢れる魅力的な教育こそが今最も求められているものであり、教職の社会的意義や魅力を高めることにも繋がるのではないでしょうか。

ぜひ皆さんには、ジャンルを問わずに、自らの趣味、好奇心や好みを探究し続け、個性を磨き続けて欲しいと思います。そして、あなたというオリジナルな人間にしかできない仕事を創り出してください。

---

[1] 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）』令和３年１月 26 日
[2] 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（答申）』令和６年８月 27 日

Passo a Passo

表題はイタリア語でパッソ・ア・パッソと読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目　次

充実した教育実習を目指して
　　ネットワーク情報学部　准教授　鶴田　利郎 …… 8
～教師を目指す皆さんへ～
　　経済学部　講師　宮崎　三喜男 …… 10
教師になりたい学生たちへの応援メッセージ
　　法学部　特任教授　黄　順姫 …… 12

教職課程

卒業生から …… 16
教員採用試験体験記 …… 20
教育実習を終えて …… 26
介護等の体験を終えて …… 33
教職公開講座に出席して …… 34
専修大学教育学会に出席して …… 35
教職総仕上げ「教職実践演習」 …… 36
教科研修生体験レポート …… 37
専修大学附属高等学校から
　　私立専修大学附属高等学校　教諭　皆川　諒 …… 38

司書・司書教諭・学校司書課程

実学だからこそ、学外でも学びを
　　経営学部　兼任講師　蓑田　明子 …… 40
図書館実習を終えて …… 42
卒業生から …… 43

学芸員課程

地方公共団体の文化財保護業務について
　　深谷市教育委員会文化振興課　中林　菖 …… 46
博物館実習を終えて …… 48

データ編（令和７年度）

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数 …… 52
教育職員免許状取得件数 …… 54
司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数 …… 54
教育実習先一覧 …… 55
図書館実習先一覧 …… 57
博物館実習先一覧 …… 57
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭・学校司書、学芸員）…… 58
資格課程年間行事表 …… 63
教職相談実施結果 …… 64
教員採用試験対策特別講義実施結果 …… 65
教員採用候補者選考試験（教員採用試験）説明会開催結果 …… 66
教職公開講座開催結果 …… 67
司書課程図書館実習報告会・司書課程就職（進路）懇談会・
　学校司書課程講演会・受講説明会開催結果 …… 68
学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告 …… 69
資格課程活動報告 …… 70
資格課程教員紹介 …… 71
編集後記

■5つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得（取得見込）した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>（令和７年度入学者）

学　部	学　科	種　類・教　科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	公民
	生活環境経済学科	社会	公民
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民
国際コミュニケーション学部	日本語学科	国語	国語

司書課程 … 「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障がいのある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

司書教諭課程 … 「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

学校司書課程 … 「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小・中・高等学校等において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第５条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、キャンパスで楽しく身につくなんて！！

教員を目指すあなたへ

教職課程

図書館で働きたいなら

司書・司書教諭・学校司書課程

博物館・美術館で働きたいなら

学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイダンス

教職課程	司書・司書教諭・学校司書課程		学芸員課程
1～4年次 教職課程履修登録 4月上旬	1～4年次 司書課程 学校司書課程 履修登録 4月上旬	1～4年次 司書教諭課程 履修登録 4月上旬	1～4年次 学芸員課程 履修登録 4月上旬
3・4年次 介護等の体験 （中学校教諭免許状取得希望者） 5月下旬～3月上旬			
4年次 教育実習 5月～11月	3・4年次 図書館実習 （希望者） 8月～11月		3・4年次 博物館実習 （館務実習） 7月～9月
卒業時（事前に申請した者） 教員免許状の交付 3月	卒業時（希望者） 司書資格取得証明書・学校司書課程修了証明書の申請および交付	卒業後（事前に申請した者） 学校図書館司書教諭講習修了証書の交付	卒業後（希望者） 学芸員資格取得証明書の申請および交付

司書・司書教諭・学校司書課程サポート

司書課程就職（進路）懇談会　12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、図書館関連の就職や大学院進学について懇談をしています。

学芸員課程サポート

学芸員課程セミナーを開催

令和6年12月に第3回学芸員課程セミナー「博物館、学芸員の様々なカタチ」を開催しました。

教職課程サポート

教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育課程の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加しなければなりません。

※経営学部ビジネスデザイン学科、商学部会計学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科はこのプログラムの対象外です。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

教職公開講座　10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に１度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修は、原則として半期または通年の、特定の曜日に行われます。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めるとしてもどのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では本気で教員をめざす者を対象に、教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生及び卒業生です。授業期間中は土曜日に実施しています。受験指導専門学校と提携していますが、経済的に大きな負担とならない受講料の設定となっています。１年間を通じて計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

教員を目指す

国公立・私立学校の教員になるためには教育職員免許状が必要です。

教　員　教員に求められる総合力を養う教職課程

国公立・私立学校を問わず、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園の教諭及び養護・栄養教諭になるには、各校種・教科ごとの教育職員免許状が必要です（小学校の場合、全科又は専科）。免許状は、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の教科及び教職に関する科目の単位を修得し、申請書類等の審査を受けて適格であると認められた者に授与権者（都道府県教育委員会）から授与されます。ただしその後、教員として採用されるには、以下のような流れがあります。

[公立学校の場合]　教員採用試験の出願から採用までの流れ

募集要項配布（1月中旬～4月上旬）

募集要項によって初めてその年の試験科目や試験日程が発表されます。販売されていないので都道府県･政令指定都市の教育委員会に問い合わせて入手しなければなりません。

受験願書受付（2月中旬～5月上旬）

必要書類をすべて揃えて、教育委員会へ提出します。提出方法は郵送の場合もあれば、直接持参しなければならない場合もあります。近年では電子申請による方法も増えてきています。

1 次試験（5月中旬～7月中旬）

全国的に筆記試験を中心に行われます。ただし、都道府県・政令指定都市によって試験科目は異なります。近年では実施時期を前倒ししたり、一部の試験を３年次に受検できるところもあります。

1 次試験合格発表（6月上旬～8月上旬）

受験者宛に郵送にて結果が通知されます。開示請求により、総合成績のランクなど、通知より詳細な結果を知ることのできる都道府県・政令指定都市もあります。

2 次試験（6月下旬～8月中旬）

日程は都道府県･政令指定都市によって異なります。内容は人物評価に関する面接や模擬授業などが中心ですが、論作文試験、実技試験、場面指導、適性検査なども行われます。

2 次試験合格発表（8月上旬～10月下旬）

２次試験に合格すると、名簿登載が決まります。ほとんどの場合、合格発表は郵送です。ランク登載の場合はそのランクも表記されています。

採用内定（10月上旬～翌3月下旬）

合格してから教育委員会や学校長による面接などを経て、赴任校が決まります。実際に採用が確定するのは 10 月上旬から翌３月下旬にかけてです。

教員として勤務（4月1日～）

教員採用試験の内容

教員採用試験では、基本的に次の５つの試験があります。

【筆記試験】
教養試験及び各教科の専門試験が行われます。教養試験は、教職教養と一般教養からなり、ほとんどの都道府県・政令指定都市が両方の試験を課していますが、片方だけを課すところもあります。

【面接試験】
個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など様々な形態で行われます。最近は人物的要素を重視する傾向が高まり、選考結果に占める面接試験のウエイトが大きくなってきています。そのため、1次・2次を通して 2～３回面接を行う都道府県・政令指定都市も見られるようになり、特に模擬授業は多くの都道府県・政令指定都市が取り入れています。

【論作文試験】
教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人格や教師としての考え方・資質を問う試験として、面接試験と同じく重要視されています。

【実技試験】
小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・書道・音楽・家庭・保健体育・工業などで行われます。主に、その教科に関わる基本的な技術・技能を見る試験ですが、情報化の進展に伴い、全志願者にパソコンの操作を課す自治体が増えています。

【適性検査】
教員に要求される資質を客観的に調べるために実施されます。主に、内田クレペリン精神検査、Y-G 性格検査などが用いられます。

[採用試験後の流れ]

公立学校の教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験（検査)」といい、教員として採用する候補として適した人材を選抜するものです。しかしながら、この教員採用試験に合格したからといって採用されるわけではありません。この点が民間企業と異なる点であり、この試験の大きな特色といえるでしょう。最終合格発表（2 次試験合格発表）は都道府県・政令指定都市によっても異なりますが、概ね８月上旬～10 月下旬頃に行われます。しかしその頃はまだ、次年度の児童・生徒数や退職教員数などが確定していない場合が多く、地域や校種、教科ごとに必要な教員数が判明していない状態です。そのため、合格者数が実際に必要となる教員数を上回れば、合格しても採用されないという状態が生まれてきます。しかし仮に内定が出なくても、合格後１年以内に欠員が生じた場合は中途採用もあるほか、１年間採用されなかった場合でも次年度の１次試験が免除される都道府県・政令指定都市も見られます。

[私立学校の場合]　採用までの流れ

それぞれに独自の教育方針や校風がある私立学校では、選考方法や基準も各校により異なります。したがって、志望に当たっては各私立学校に対して、その年の募集計画などを各自で直接確認することになります。また、各都道府県に設置されている私学協会が私学教員適性検査を実施していたり、窓口となって募集している場合もあります。その他、大学の求人票やインターネットなどにより公募を行っているケースもあります。

司書・司書教諭・学校司書・学芸員を目指す

司　書

【図書館の実践的な知識が身につく司書課程】

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の調査部、資料室などで、資料（図書、雑誌、CD や DVD 等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。

資格を取得するには、大学・短大の司書課程を履修するか、司書講習を受講する方法があります。司書課程を開講している大学・短大は少なくありません。その多くは、私立の大学・短大で、通信制大学もあります。

司書課程・司書講習では、子どもの読書、資料の選び方や整理の仕方、情報検索、著作権、出版流通の仕組みなど、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

【就 職】

1．公共図書館

各自治体で実施される公務員採用試験を受験します。「司書職」として採用される場合と、「一般行政職」として採用された後に図書館に配属される場合があります。前者の場合には、採用時までに司書の資格を取得している必要があります。いずれの場合でも非常に高い競争率です。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2．国立国会図書館

国立国会図書館職員総合職試験又は一般職試験（大卒程度試験）を受験します。試験内容はともに大学卒業程度ですが、総合職のほうが難易度が高いです。1 次試験は教養試験（多肢選択式）、2 次試験は専門試験（記述式）・英語試験（記述式）・小論文試験（総合職のみ）・性格検査・個別面接、3 次試験は集団討論（総合職のみ）・個別面接です。

3．国立大学法人等の図書館

地区ごと（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に実施される国立大学法人等職員採用試験を受験します。大学職員の「事務系（図書）」として働くことになります。試験内容は、1 次試験が教養試験多肢選択式（大学卒業程度）、2 次試験が専門試験および各大学での面接です。

4. 私立大学等の図書館

それぞれ独自の方法で採用しています。求人募集は、大学のホームページ等で行われています。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

司 書 教 諭

【学校図書館を活かす司書教諭課程】

「司書教諭」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。司書教諭は学校教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、直接児童・生徒たちに図書館や読書に関する指導や、教員に対して図書館や図書館資料を活用した授業展開ができるよう支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は、教育職員免許状を持つ者にのみ認められるので、教職課程と司書教諭課程のある大学で必要な科目の単位を修得し卒業すると「教育職員免許状」と「司書教諭」の資格が得られます。平成15年度から12学級以上の学校では必ず司書教諭を配置することになりました。有資格者へのニーズは高いです。

※経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では司書教諭の資格を取得することはできません。

【就 職】

公立学校の場合は、教員採用試験を受験しなければなりません。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用を実施しています。詳しくは P6 を参照してください。

学 校 司 書

【学校図書館を支える学校司書課程】

「学校司書」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。学校司書は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理などの「間接的支援」に関する職務、閲覧や貸出、レファレンスサービスなどの「直接的支援」に関する職務、授業の支援や情報活用能力の育成などの「教育指導への支援」に関する職務の３つの職務を担っています。

学校司書課程では、上記の３つの職務に必要な知識・技能を身につけるための諸科目を設けています。これらの科目の多くは、司書課程、司書教諭課程と乗り入れており、司書、司書教諭という関連する資格も取得しやすいように配慮しています。

学校司書の配置は努力義務ではあるものの、学校図書館の運営の改善と向上、児童生徒の学習活動や読書活動での活用への期待から、配置する学校は増加傾向にあります。こうした期待に応えられる人材が求められています。

【就 職】

公立学校の場合は、各自治体での採用試験を受験します。正規職員は、司書の採用試験の合格者が学校に配置される状況があります。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用しています。嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。求人募集は、ホームページ等で行われています。

学 芸 員

【博物館で専門職となる学芸員課程】

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第５条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門分野の知識を高めておくことも大切です。

【就 職】

1．公立博物館の場合

学芸員については定期的に採用試験があるわけではなく、採用は欠員の補充か、博物館の新設・拡充の際に行われます。その場合は教員や一般職員（公務員）として採用した人の中から、学芸員資格を持っている人を部署の配属・異動という形で学芸員に採用することがあります。また県立や大都市の博物館は、一般の採用試験（公務員採用試験）とは別に学芸員の採用試験を実施することが 多く、採用試験の実施はその自治体の広報紙やホームページで公開されます。

採用試験では一般教養のほかに、博物館学の知識と、募集する専門分野に関して広く深い知識や技能が問われます。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2．私立博物館の場合

それぞれ独自の方法で採用を実施しています。

充実した教育実習を目指して

ネットワーク情報学部　准教授　鶴田　利郎

１．はじめに

私はこれまで学生時代に小学校と高等学校（情報科）で２度教育実習を経験させていただいた。また高等学校（３校）での教員時代には教育実習生を指導する経験をした。本稿では、これから教育実習に臨む学生の皆さんの実習が少しでも充実したものとなるよう、私の経験を踏まえて意識していただきたいこと、心がけていただきたいことを４点述べていきたい。当然ながら、みなさんが教育実習の講義で学ばれることも含まれており、一部本稿の内容と重複する部分もあるが、その点についてはそれだけ重要であると理解していただければ幸いである。

２．教育実習で意識してほしいこと、心がけてほしいこと

（１）指導くださる先生とより良い関係を築くこと

みなさんが教育実習でお世話になる先生方は、日常の仕事に加えてみなさんを指導してくださることになる。だからこそ「良い実習にしてあげたい」と思っていただけるような立ち振る舞い、言動が大切になる。出勤、退勤の際の元気な挨拶、先生方から御指導いただく際の姿勢や言葉遣い、指導いただいたことは素直に受け止めて必ず次に活かす…など、社会人として求められる立ち振る舞いは決して欠かしてはならない。私自身がある高校で２人の実習生を指導した際、１人の実習生は直立した姿勢で一生懸命メモを取りながら私の授業を見学していた。しかしもう１人の実習生は、足を組んだりフラフラした姿勢で、大してメモも取らず、ぼんやり見学しているように見えた。私が授業をしながら両者の様子を見て、その後どちらの実習生の指導にエネルギーを注いだのかは、みなさんの想像の通りである。

また「将来先生になりたいです！」という気持ちをしっかり見せることも大切である。教育実習では、先生方に「採用試験は受験しますか」「将来教員になる意思はありますか」といったことを聞かれることがある。この場合、仮に自分としてはまだ将来のことが定まっていなかったとしても、先生になりたいという意思がしっかりと伝わるようにする必要がある。その気持ちが先生方に伝わると「それならしっかり指導してあげよう」という気持ちになるからである。逆に私と一緒に実習に参加していた同級生が「自分は先生にはなる気持ちは今のところないんです」ということをストレートに言ってしまい、その後私への指導と同級生への指導に違いが生じたことを経験した。私の教員時代の同僚であったある先生も「やる気のある子には、厳しく言うこともあるが私も本気で指導する。でもやる気のない子には、とりあえず、みたいな当たり障りのない指導になってしまう」と仰っていた。もし上記のようなことを聞かれなかったとしても、実習中は「将来先生になりたいです」という気持ちが先生方に伝わるような言動を心がけると良いだろう。

（２）表情、笑顔、発声の練習

教育実習に行くと「あの先生、どんな先生かな？」「話してみたいな～」などと児童生徒は実習に来られた先生に興味津々になる。そのような中で彼らに良い第一印象を持ってもらうためにも、笑顔、気持ちの良い声はとても重要である。笑顔で「これからよろしくお願いします！みなさんと過ごせる実習がとても楽しみです！」などと挨拶すれば、彼らはあっと言う間に寄ってきてくれる。逆にか細い声で、暗い表情で挨拶すると、近づきづらい感じになり、あっという間に彼らとの距離ができてしまう。

実習中の授業でも同様である。緊張していて多少顔がひきつっていたとしても、笑顔で楽しそうに頑張ろうとしていれば、彼らは一生懸命授業を聞いて、何とか１時間の授業がうまくいくようにと頑張ってくれる。私が高校の教育実習で初めて授業をしたときは、緊張でたくさん汗を流しながら授業をしていた。とにかく学習指導案通りに授業を進めることに必死であった。ただ、とにかく笑顔は忘れず楽しい雰囲気を作ることは常に心掛けていた。するとあるタイミングで、何かコソコソ話をしていた生徒２人が「先生すごい汗かいてるやん！１回汗拭いて、落ち着いてから授業したら？」「そんな緊張しなくても先生の授業楽しいから大丈夫やで」と言って緊張を解してくれた。それで教室全体がどっと笑いで盛り上が

り、私を一層応援してくれる雰囲気になり、その後の授業も楽しく進めていくことができた。

ある先生は「私は家で表情のトレーニングをしているんだよ。笑顔を作ったり、『これわかる？』などと問いかけるときに眉毛を動かしたり…、ものまね芸人さんのように顔でいろいろな表情を作れるように練習したよ。そうやっていろんな表情を授業で出せるようになると子どもたちも授業に乗ってきてくれるし、授業以外での子どもとの関係づくり、やり取りにも良いんだよ」と仰っていた。

（３）学習指導案の形式に適応する

みなさんもそれぞれの教科教育法の講義などで学習指導案の作り方を学ばれているであろう。当然ながら私も大学で学習指導案の作り方を学び、高校での教育実習に臨んだ。しかし、大学で学んだ学習指導案と、指導くださった先生の学習指導案は、もちろん共通する部分もあったが、指導案に記載する内容、形式などで異なる部分があった。また小学校で教育実習を経験させていただいた際、私は国語、算数、社会、体育、道徳の授業を担当したが、各教科によって少しずつ書き方が異なる部分があった。大学で学んだ学習指導案の書き方が絶対（指導案の書き方は１つしかない）と思い込んでしまっていた当時の私は、なかなか指導くださる先生の書き方に慣れることができず、指導案作りで苦労し、何度も先生を困らせてしまった。

今はインターネット上でも教育現場の先生方が作られた学習指導案が数多く公開されているので、ぜひ１つでも多くご覧いただきたい。そして「学習指導案には様々な書き方がある」「大学で学ぶ書き方はあくまで１つの方法である」ということを感じていただきたい。そして、教育実習が始まったらできる限り早く担当の先生に「先生が以前に作られたことのある指導案を見せていただいてもよろしいでしょうか」などとお願いし、その先生の書き方に早く慣れることができるようにすると良いであろう。

（４）授業に向けてできる限りの準備をする

何年も教員をされてきた先生方の授業に比べて、教育実習生の授業が様々な点で劣ってしまうことはある意味当然のことである。私自身も感じたことであるが、授業は経験すればするほど上達していくので、これについてはやむを得ない部分がある。一方で教育実習先の児童生徒も、学年が上がり、教育実習生の授業を受ける経験を何度も重ねていくうちにこのような事情を少しずつ理解してくれ、その上で「先生頑張れー！」という気持ちで一生懸命授業を聞こうとしてくれる。

だからこそ、児童生徒のその気持ちに応えるためにも、彼らの貴重な１時間の授業を無駄にしないためにも、できる限りの準備をして実習に臨むことが必要である。教育実習や教科教育法の講義などで行う模擬授業に真摯に取り組むことはもちろん、講義以外でも同級生同士で模擬授業を見せ合ったり、教育実習を経験された先輩、教員をされている先輩などに模擬授業を見てもらったりしながら何度も何度も練習して実習に臨むことが大切である。多くの人に模擬授業を見てもらうことで、先述した表情、笑顔、声だけでなく、教材（ワークシート）、机間巡視の仕方、板書など、様々な点で指導、助言をいただくことができる。私も教育実習前には研究室の先生、既に教壇に立たれている研究室の先輩、同級生など多くの人に指導していただき、実習中も同じ実習仲間や、実習担当でない先生に模擬授業を見て御指導いただいた。それでも教育実習本番の授業はとても緊張したが、そのおかげで「これだけ準備してきたのだから」という気持ちで臨むことができた。

３．おわりに

教育実習は、真摯に向き合えば向き合うだけ、学び得られることも多くなる。本稿で述べたこと、また大学の講義で学ぶことをしっかりと意識して教育実習に臨んでいただきたい。そして、充実した教育実習生活が送れることを心より祈念している。

～教師を目指す皆さんへ～

経済学部　講師　宮崎　三喜男

1　はじめに

2025 年 3 月まで高等学校の公民科教員として 22 年間、学校現場で勤務していました。4 月からは社会科・公民科教育法などを担当し、教師を目指す皆さんの力になれればという思いで生田の山を登っています。

私が専門とする公民科という教科は、社会や人間を対象とします。公民科の教師になろうと考えている人は、なぜなろうと思ったのでしょうか。地歴科や国語、英語、数学、商業、情報の先生になろうとしている方も、なぜその教科の先生になろうと思ったのでしょうか。まず、そのことを自分に問うてみてください。小さな頃からその教科に興味があった。中学生や高校生の時に良い先生と出会ってこんなに面白いことを次は自分も教えてみたい。今の世の中間違っているから、それを変える人材を育てるには社会科や公民科だ。本音を言えば、教科はなんでもよくて部活動指導がしたいから。などなど、いろいろあるでしょう。

その中で本当に自分が人を教える、さらに、その中でもその教科を教える動機をしっかり確認することを早いうちに深く考えてください。なぜなら、長い教員生活の中で、自分の原点がどこにあるのか、それを振り返らなければいけない事態が必ずくるからです。例えば、時代が変わって教える内容を変えなければならない事態が起こるかもしれません。生徒指導がうまくいかず、心が折れてもう教員をやめようかと思うことも起こるなんてこともあるかもしれません。その時に、生活のため、家族のためなどと外に要因を求めては自分が持ちません。そこで踏ん張りがきくのは、自分の原点です。その原点があいまいだと、錨のない船のように漂流することになりかねません。職業としての教員を選んだ、もしくは選択の一つとして候補にあげた段階で、一度はしっかり見つめる価値のある、いや見つめなければいけない問いです。

2　私はいかに教師となったか

上記の問いに直接答えるものになるかどうかは別ですが、書き手である私のケースを紹介してケーススタディとしてみましょう。

私は 1977 年生まれ。就職氷河期世代になります。就職氷河期世代とは、バブル崩壊後の雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代で、大学 4 年生の時に受験した教員採用試験は 399 人が受験をし、名簿登載者が 1 名（東京都中学校社会）というそんな時代でした。私もいわゆる教職浪人をし、専任として東京都に採用してもらった時は 25 歳になっていました。その間、志半ばにして教師の道をあきらめた仲間も多く、そのことがその後の教員人生の原点になっている気もします。また当時、「どのような教師になりたいか？」と問われたら「“いい授業”をしたい」。そんな思いを強く持ちながら教員採用試験の勉強をしていた思い出があります。

教員生活のスタートは全日制普通科高校、いわゆる中堅校でした。担当科目は、「現代社会」、担任を持ち、部員 60 人のバスケットボール部の主顧問も担いながら、まさに 24 時間 365 日教師漬けの 4 年間を過ごしました。そして当時の私は、“いい授業”を“楽しい授業”とはき違えていました。授業中に雑談を話し、生徒とのやり取りで場を盛り上げ、講義式ではなく生徒が発言する授業が“いい授業”だと思い込んでいました。

その後、教育課題校と言われる学校に異動しました。退学する生徒が 100 名を超え、授業よりも生活指導に追われる日々です。そのような環境ですから、生徒との人間関係を構築するのに時間がかかり、さらに授業もうまくいかずと悶々とした日々を過ごしました。この頃だったと思います。「メッセージ性のある授業」という考えにたどり着きました。目の前の生徒に、その一時間で何を伝えるべきなのか、年間を通してどのような力を身に付けさせたいのか、常にそのようなことを考えていた気がします。またこの時の管理職が、「このような環境だからこそ、教科指導をしっかりと勉強しなさい」と進言をしてくれました。その一言がきっかけとなり、外部の研究会に顔を出すようになり、そこから教科書の執筆、教育行政の仕事、外部団体との連携な

ど世界がひろがり、教員10年目には、東京都の大学院派遣研修に選んでいただき、一年間職場を離れて大学院で学ぶことができ、これが公民科教育に本格的に取り組むきっかけとなりました。

三校目の学校は、英語力が全国トップの進学校でした。大学院派遣研修での経験がどこまで通じるか、一度試みてみたいと思っていたので、この学校での経験は大変有難いものでした。またこの学校は、多様性を重んじ、「出ない杭は埋もれる」という言葉に象徴されるほど、何事にもチャレンジする生徒が集まる学校で、非常に刺激的な教員生活を経験することができました。

長々と自分史を語りすぎました。ここまでの歩みを、箇条書きにしてまとめてみます。

① 教職に対する強い憧れと教壇に立てない苦悩があったこと
② 変化のなかで、教師として生徒に伝えるメッセージは何かを考え続けてきたこと
③ 若い時に勉強しろと励まされ、研究会への参加、大学院に籍をおいたこと
④ 教科書の執筆、教育行政の仕事、外部団体との連携などの経験から世界が広がったこと
⑤ 多様性を重んじ、さまざまな挑戦をする生徒に恵まれたこと

などが私自身のライフコースの特徴として挙げられます。

3　教師を目指す皆さんへ

改めて、皆さんはどのような教師になりたいと思っているのでしょうか。私は、「学ぶ教師」、「伝える教師」、「比較優位を自覚する教師」、この三要素が教師として重要であると考えています。そしてこの三要素は皆さん全員が持っているはずです。その意味でも、この三要素をもう少し詳しく見てみましょう。

1）学ぶ教師

教師は教える職業です。教えるためにはまずは学ばなければいけません。そのためにまず、基礎基本となる変化しない知識（土台）をしっかり持つこと、その上で、変化する知識をフォローしてゆくことが求められます。インターネット経由の知識は便利ですが、自分が汗水流して獲得した知識には勝てません。

2）伝える教師

教科書の用語をわかりやすく伝えることも大切なことです。知識を確実に身に付けさせ、問題の解答を導き出す力を育むことも重要です。しかし、それ以上に授業者がその授業を通じて「何を伝えたいか」という「ねらい」を明確にしておかなければなりません。授業研究はそこからはじまります。学んだ後は授業づくりです。授業の要素は二つ、ねらい（ハート）と方法（スキル）です。自分が伝えたいメッセージを、いかに生徒に考えさせるかたちで提示できるか。その腕を磨く必要があります。

3）比較優位を自覚する教師

比較優位は経済学の用語です。絶対優位が相手より優れた部分であるのに対して、比較優位は相対的に優れた部分です。教え方も指導方法も優れた先輩先生がいます。新人教員は教え方も指導方法も、その先輩先生にはかないません。しかし、それでがっかりすることはありません。比較優位の法則から言えば、かならず人間は比較優位を発見できます。それは一人の人間が多くの優位性を同時に発揮することができない希少性の世界にいるからです。もちろん、例外もあります。でも、多くのケースでは、若い教員は指導方法、つまり若さや情熱で授業を押し切ることで生徒の心をつかむことができます。授業は、内容もさることながら、どんな場面でどんな様子で語っていったのか、という要素が多くあります。

4　最後に

教師というのはとても「人間性」が問われる仕事であり、授業というのはとても「人間性」が現れる場であると思います。他の方の技法を参考にすることは大事だし、盗むことも必要です。しかし、性格や人間性までは盗めません。自分の良さを生かしながら、自分のやり方を、自分の教師像を築いていくしかないのです。ぜひ皆さん、「自分らしい」先生を目指してください。

教師になりたい学生たちへの応援メッセージ

法学部　特任教授　黄　順姫

2025年4月に赴任し、「教育原論」、「教職実践入門」の教職科目を教えている。新任教員であるため、これまでどのような教育と研究をしてきたのかについて簡単に紹介させていただく。私は、1991年筑波大学に着任して以来、定年退職まで教鞭をとってきた。人文社会系に所属し、社会学主専攻にて学部から大学院博士課程に至るまで、教育社会学、文化社会学、スポーツ社会学を教えていた。他方、教育研究科修士課程社会科教育コースで、教師を目指す大学院生たちに、教育社会学、学校社会学、学校文化論、生徒文化論、教員文化論、若者文化論などの科目を次々に開講して教育を行ってきた。私自身は、韓国での大学院修士論文の指導教員であった安基成教授より、ご本人が留学していた九州大学にて勉強することを勧めてくれたことで、九州大学に進学し、教育社会学研究室の大学院博士課程を履修した後に韓国に帰国した。その後、韓国の大学で教鞭をとることになり、教職課程の「教育原論」の科目を2年間にわたって教えていたが、筑波大学にて博士学位を取得したことで再び来日した。その後は、筑波大学の講師に就任して、定年まで上記のような科目を教えると同時に、それぞれの分野の研究を行ってきた。

また、在職している期間中に、他大学で非常勤講師として教えることにより、多様な学生たちを教育する経験を持つことになった。男女共学の四年制大学だけでなく、女子大学でも、また、大企業を目指す学生が多い大学、地元での就職を希望する学生が多い大学など、さまざまな大学で教えた経験がある。さらには放送大学の大学院課程では多様な年齢の方々をも教えることになった。このような経験によって、大学の教員として多様な学生たちに合わせながら、質の高い教育を行うための教育方法を考えるようになり、学生たちの立場にたって授業の在り方の多様性を工夫してきた。このような長期間にわたる多様な教育経験が、本学での教育において効果をもたらすことになったと思われる。

前期の「教育原論」の授業の例を取り上げてみる。私は授業の中で、学生の意見を聞くために、マイクをもって教室のなかを歩き回りながら質問をすることが多い。マイクを受け取った学生はあまり迷うことなく、自然に意見を述べる。それに対して別の学生にマイクを渡すと、前に回答した学生の意見にコメントをしながら、自らの意見を遠慮なくいう学生もいる。他の意見があるかとみんなに聞くと、自ら進んで手をあげて答える人もいる。最初は遠慮していた学生たちが、授業の回数が進むにつれ、誰となく手をあげて、指名すれば、立ちあがって意見を述べていく。

また、授業では比較的に数多く課題を宿題として課しても、学生たちはしっかりやってくる。最初の授業では、まず、座っている席に近い人々でグループを作った。そして、グループ名を学生たちで工夫して決めさせた。学生たちはさまざまな理由で自らのグループ名を付け、その理由をみんなの前で述べた。グループが決まり、毎回の授業でグループでの討論が進むにつれ、クループについて共同体意識が芽生えてきた。その様子をみて、学生たちに、将来、教師になった後でも、グループ同士で交流を続けていくことを勧めた。学生たちは自ら名付けたグループに愛着をもって、授業に欠席することも少なく学んでいった。

さらに、授業中にグループ別に討論をさせてみると、学生たちはそのなかで積極的に意見を出し合って討論を行った。100人以上の受講生がいる大講義室でも、各グループの討論後、グループごとの意見を全体の学生たちに説明をする。その後は、グループの意見について全体で再度意見を述べさせるが、学生たちは迷うことなく

意見を述べる。前期の授業では1年生がほとんどであることを考えると、驚くほどである。

次に話は変わるが、私のこれまでの研究内容を少し紹介したい。教育社会学、文化社会学、スポーツ社会学を研究してきたのだが、ここでは教育社会学の分野での研究のみを紹介することにする。紙面の関係上、研究論文などは省略し、出版した本のみを簡単に紹介をしていくことにする。すなわち、『日本のエリート高校』（世界思想社、1988年）、『同窓会の社会学』（世界思想社、2007年）、『エリート教育と文化』（培英社新書、1994年、韓国で出版）、『学歴の専有と意味』（学文社、2024年）である。また、『身体文化・メディア・象徴的権力―化粧とファッションの社会学』（学文社、2019年）では、中学校・高校・大学の女子生徒たちの化粧、ファッション、身体管理等は、学校教育では教えないが、それぞれの時代に若者文化として共有し、自然と学校に持ち込む身体文化とみなして研究をし始め、全年齢を範疇にいれ、その身体文化がいかに社会的・文化的影響のなかで作られているかを分析した。以上の5冊の単著に加えて、家庭教育、教育社会学に関する二つの本を韓国語に翻訳し、韓国で出版した。

なおこれ以外にも、2002年日韓ワールドカップ・サッカー大会に関して、両国の研究者たちと共にシンポジウムを行い、編者として纏めて編著を出版した。すなわち、黄順姫編『W杯サッカー熱狂と遺産』（世界思想社、2003年）である。最後に、アメリカでも、ハーバード大学、イェール大学、ニューヨーク州立大学出版会からの出版本の場合も、編著のなかで一章を担当して執筆をした。結果的に、国内及びグローバルに研究発表を行い、日本語、韓国語、英語で学会誌を初めとする研究論文や専門書を執筆し、出版活動を継続してきた。

最後になるが、以上のように私が担当する教科で教職科目を履修する学生たちに、授業を通して身体化してほしいことがもう一つある。それは、「グローバル共存・共生」の意識と実践である。学生たちがいずれ教師になって仕事をしていく際に、彼らが教える学校のなかでは多様化が一層進んでいくであろう。生徒たちの多様性を尊重しながら、学校全体の凝集性とのバランスを維持していくために、グローバル共存・共生の運営が重要になっていくだろう。現在担当している「教育原論」「教職実践入門」の科目を通して、これまでの教育の歴史、思想を振り返って、今後のグローバル及びグローカルな社会で、未来世代を教えるであろう、今の学生たちを教えることの大切さを感じている日々である。日頃、授業が終わるときに、授業の感想文を書いてもらうことが多い。それと共に、授業が終わって片づけるときに、学生たちに直接、「今日の授業はどうでしたか」と、聞くことがある。学生たちは笑顔で、「楽しかったです」と話してくれる。

私も彼らの同じ年頃の学生時代に、「教育原論」の授業を履修していた。この科目は科目の性質上、受動的に知識を受け取るだけの、いわゆる伝統的な教育方法で学ぶ科目のように思えていた。そこで私はこの授業で「伝統的な授業・学習方法」とともに、「アクティブ・ラーニング」の積極的・能動的な授業・学習方法も取り入れ、この両方を使用している。換言すれば、私からのみでなく、学生が自ら学ぶようにしている。したがって、学生たちが「授業が楽しい」というのは、彼等自身が自らの成長に満足していることである。このような学生たちの反応は、担当教授にも教えることの喜びと楽しさを再認させてくれる。いずれ彼らが教員になり、母校に戻って後輩たちに話をする日々を想像してみる。授業の大切さと楽しみを覚える今日この頃である。大学にて38年目の研究と教育の日々は、天職のように思えてくる。

10 号館（神田キャンパス）

教 職 課 程

10 号館（生田キャンパス）

卒業生から（国語）

川根本町立光の森学園　教諭　青山　円香（平成31年度文学部日本文学文化学科卒業）

はじめに

私は現在、静岡県にある川根本町立光の森学園で国語科の教員として勤務しています。小学１年生から中学３年生の９学年がひとつの学校で学ぶ義務教育学校です。児童生徒１年生から９年生合わせて 63 名の小規模校ですが、毎日校舎には子どもたちの明るい笑い声が響いています。

教科指導について　～ 教員も学ぶ ～

「授業が一番大切」ということは、教員１年目のときからよく言われてきましたが、私は正直、教科指導に少し苦手意識があります。他の先生方の授業を参観させていただいたり、教科のことについて話したりすると、自分には足りない知識や力があると強く感じます。だからこそ私は、授業研究の時間を大切にしています。「どうすればわかりやすい授業ができるだろう。」「どんな工夫をしたら、子どもたちが楽しく学ぶことができるだろう。」様々なことを毎日考えていますが、いまだに正解はわかっていません。正解がわからないからこそ、やりがいがあるのだと思います。私はいつも、子どもたちと一緒に自分自身も学ぶつもりで教壇に立っています。教員が一方的に教え込むのではなく、子どもたちの中から生まれる問いが大切だと思っています。子どもたちと共に学ぶ１時間は毎日とても楽しいです。自分自身が楽しみながら授業を行うことの大切さを実感しています。

昨年度までは中学校に勤務していたため、中学生の授業しか担当していませんでしたが、今年度は、義務教育学校に勤めさせていただいていることもあり、小学生の授業も担当しています。小学生の授業を担当して、授業をするうえで改めて大事だと感じたのが、「指示の簡潔さ」です。子どもたちがやるべきことを明確にすることで、子どもたちが自信をもって活動に取り組むことができます。子どもたちが力を 100 パーセント発揮できる環境づくりが大事だと実感しました。

５年生 授業の様子

生徒指導について　～ 関わり・会話 ～

私は、子どもたちとの些細な会話を大切にしています。子どもたちが悩みや不安を吐き出しやすい存在でありたいと思っているからです。悩みをなかなか相談できない子どももいます。しかし、担任をしている学級の生徒だけでなく、様々な子どもたちと関われる教員という仕事はとても面白いです。

もう一つ大事にしていることは、教員間での情報共有です。「生徒指導ってどうすれば…。」と心配に思う方もいると思います。私もすごく不安でした。しかし、自分一人で抱え込まず、チームで取り組むことの大切さを実感しました。自分一人の考え方だと、どうしても偏った考え方になってしまうことがあります。いち早く、そして、正しく対応するためにも、周りの力を借りることが必要だと思います。学生時代から、多くの方との関わりを大切にしてください。

７年生 授業の様子

おわりに

「言葉を大切にできる生徒を育てたい。」私はこの思いを胸に、国語科教員という道に進みました。言葉は、思いを伝え合ったり、心を温めたりすることができる素敵なものです。しかし、その一方で簡単に人を傷つける凶器にもなるものだと思います。言葉の大切さや日本語の美しさを教えることができる教員という仕事は、とても素晴らしいものだと実感しています。教員の仕事はブラックだと思っている人もいると思います。実際に６年間働いてみて大変なことありましたが、その何十倍も幸せな時間を味わうことができる職業だと私は思っています。また、６年前より働きやすい環境になっていると感じます。皆さんもぜひ自分が決めた目標に向かって頑張っていってください。皆さんのこれからが充実した時間となるよう願っています。

卒業生から（英語）

鎌ケ谷市立第三中学校　教諭　細谷　将汰（令和3年度文学部英語英米文学科卒業）

1　初めに

初めまして。令和４年に文学部英語英米文学科を卒業した細谷将汰と申します。卒業後、千葉県の鎌ケ谷市立第三中学校で勤務を始め、４年目になります。学部で学んでいる皆さんは教授法について学ぶ機会に溢れていると思いますので、今回は少し違うことを書かせていただきました。気になるところを読んでいただければと思います。

2　君はどうしたいの？

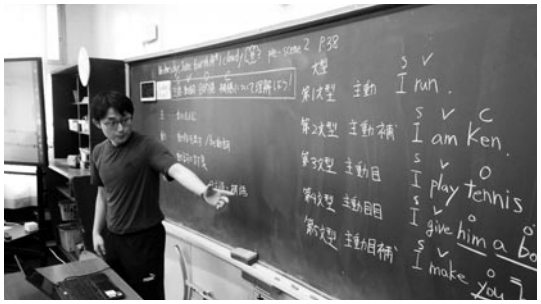
私は現場に入る前まで「英語教師の能力は生徒の英語の技能をどれほど伸ばせるかにかかっている。それが一番大切だ。」と考えていました。似た考えの人もいるでしょうか。英語の教授法ばかりに注目していて、授業を受ける生徒をあまり見ようとしていなかったのです。そしてすぐに壁にぶつかることになります。

英語の授業は特に問題なく進みました。初任の年は初任者指導の先生が助けてくれます。生徒のおかげもあり、改善の余地はあれど授業が立ち行かなくなることはありませんでした。しかし、担任を持ったり、行事の担当になったりすると、どれだけ生徒を見ていたかが問われます。修学旅行を例に挙げましょう。まず、計画を立てるにあたって「生徒たちにどうなって欲しいか」を考える必要があります。目標を決めたら、実現するための手段を考え、盛り込んでいきます。目指す姿が「伝統文化に親しみが持てる生徒を育てる」だとしたら手段は「能楽鑑賞を行う」などになるわけですが、会場に集まるのにどれくらいかかりそうか、お礼の言葉は誰が適任か、といったことも生徒のことをよく見ていなければ計画できません。そもそも「伝統文化に親しみがある」とはどんな状態なのか、のような質問をいただくこともしばしばです。相談した先生方に聞かれたのは「生徒に何をさせたいの？君はどうしたいの？」という質問でした。授業の手法のみに注目していた私はこの質問に答えられませんでした。そしてどんな生徒を育てたいのか考えている頃、ある言葉に出逢います。

3　英語の授業は生徒にナイフを授けるようなもの

2019 年にグローバル・ティーチャー賞でトップ 10 に選ばれた正頭英和先生の研修を受けた時に聞いた言葉です。

この言葉は衝撃的でした。英語の授業を通して生徒の英語の力を伸ばすことは、刃を研がせ形の良いナイフを作らせることです。しかし実際のナイフも英語も、使い方を知らずに誤った使い方をしてしまうと人を傷つけてしまいます。だからこそ、授業内で生徒が持っているナイフの扱い方を教えていく必要があります。研修を受ける前の私は手当たり次第に鋭利な刃物を渡そうとしているやばい奴だったと気づき、自分を恥ずかしく感じました。授業も学校生活の一部なのですから、生徒をよく見ずにそれが成立することはあり得ません。それにようやく気づいた瞬間でした。それからは、「人の気持ちが考えられる生徒を育てる」という目標のもと、英語の教師として、また担任として生徒にどういう接し方をするべきか考えるようになりました。



4　信念が幹になる

上記の経験を踏まえて私が皆さんに伝えたいことは、「どんな生徒を育てたいのか」を少しでも考えてみてほしい、と言うことです。それが信念になります。自分のエゴを生徒に押し付けるようで申し訳ない気がする人もいるかと思いますが、あらゆる指導法が存在する教育現場で、迷ったときに自分の軸を思い出させてくれるのが信念です。逆にそれが無いとあらゆるところで迷ってしまい、生徒に伝えることが日によって変わる、なんてことも起きてしまいます。生徒を良い方向に持っていきたい、悪い方向に持っていきたくない、という思いは悪いものではありません。正解、不正解の無い教育現場で自分の考えを持って働くためにも、自分の育てたい生徒像を持っていてほしいと思います。

皆さんと一緒に教育現場で働ける日を楽しみにしています！

卒業生から（小学校）

横浜市立小学校　教諭　R．K．（令和5年度経済学部現代経済学科卒業）

○はじめに

私は横浜市採用試験に合格し、今年で教員2年目になります。毎日のように新たな発見、学びがあります。わずかなものですが、現場での経験を皆さんに届けられればと思います。

○子どもとの日々

毎朝8:00になると、「おはようございます！」という元気な声が学校中に響き渡ります。子どもたちは、朝からエンジン全開で、授業も中休みも給食も掃除も、すべてにおいて全力です。どこからそんな力が湧いてくるのだろう、と不思議に思うこともありますが、その姿からこちらが元気をもらう毎日です。

そんな日々の中で、必ず起こるのが小さなケンカです。ドッヂボールの線をまたいだ、肩がぶつかった、順番を抜かされたなど、大人からすると「そんなことで？」と思ってしまうような出来事ばかりです。しかし、その一つ一つは、子どもたちにとって大切な学びの場なのだと思います。

ケンカやトラブルが起きたとき、子どもたちが自分のしたことを正直に話してくれることが何より大切だと考えています。そのために、日頃から一人一人の味方であることを言葉や態度で伝え、信頼関係を築くことを意識しています。もちろん、やってはいけないことは、やってはいけません。やってはいけないことはきちんと伝えますが、失敗してしまったときには、「どうしてそうなったのか」「次はどうすればよいか」を一緒に考えることを大切にしています。次につなげることが指導だと思うからです。

子どもたちは、失敗を繰り返しながら、人との関わり方を少しずつ学んでいきます。「ごめんね」と言えるようになったり、相手の気持ちを考えた言葉を選べるようになったりする姿に、確かな成長を感じます。

○教員の学びの場

「教員になる＝教える立場になる」。私も、教員になる前はそんなイメージを持っていました。しかし、実際に現場に立ってみると、先生になってからも学び続ける場が数多くあることを実感しています。

私の自治体には、採用から5年目以内の教員を対象とした「メンター」という制度があります。これは、同世代の教員がチームとなり、年間を通して指導案の検討や授業研究を行う仕組みです。年齢が近いからこそ、若手ならではの悩みを率直に共有でき、授業がうまくいったときの達成感も分かち合えます。一人で抱え込まず、仲間と学び合える環境があることは、大きな支えになっています。

また、教員の学びは授業だけに限りません。学校の仕事は多岐にわたるため、自分の得意分野を生かして専門性を高めることもできます。私はICT分野が得意なことを生かし、今年「ICTコーディネーター」の資格を取得しました。この資格は、ICTの導入や活用を教育効果の向上や学校運営の改善という視点から企画・助言する役割を担うものです。1年間、ICTについて学びながら、学校の実態に合った取り組みを考え、先日は校内研修を行いました。

○おわりに

教員という仕事は、完成形のない仕事だと感じています。正解は一つではなく、日々の実践の中で考え、学び続ける必要があります。大変なこともありますが、その分、子どもたちの成長や自分自身の変化を実感できる仕事でもあります。

この2年間の実感が、皆さんそれぞれの立場や進路を考える際の一つの材料になれば幸いです。

卒業生から（商業）

ＮＨＫ学園高等学校　教諭　宮坂　恵美子（令和2年度商学研究科商学専攻修了）

はじめに

はやいもので教員になって 22 年目となった。大学卒業当時、商業科教員の採用は、ほぼなかった。その為、2 年間、東京都立高等学校（定時制・全日制）において、臨時的任用教職員として勤務した。その後、縁があって「NHK 学園高等学校」（広域通信制）に職を得て、現在まで商業科の教員として勤務している。ＮＨＫ学園高等学校は、日本ではじめて放送を利用して学習をすすめる広域の通信制高等学校として 1963 年に開校した。

通信制高等学校のしくみと業務

通信制高等学校であるＮＨＫ学園高等学校の学習方法は、大きくわけると「自宅での学習活動」と「学校での学習活動」の２つになる。自宅での学習活動では、「ＮＨＫ高校講座の視聴」（教科書にあわせた番組となっている）と「レポート（添削指導）」。学校では「スクーリング（面接指導）」と「試験」。そして、特別活動（学校行事・生徒会活動等）。これらをバランスよく取り組むことにより、単位認定となり、最短で３年間で高等学校卒業となる。

教員の業務内容は多岐にわたり、大きく分けると教科・分掌・担任・地区担当の４つの業務になる。私の場合、教科科目業務は商業科・ビジネス基礎担当である。スクーリング対応、レポートの作成と添削、試験問題の作成と採点等がある。分掌業務は現在、試験、教材・学習サポート係の統括教諭として、試験問題作成やレポート・教材作成等、生徒の学習がスムーズに進むよう、他の部署や業者と連携して業務を行っている。また、担任業務として、現在、登校コース（週３日間、登校するコース）3 年次の担任をしており、進路指導の真っ最中である。現在、登校コースの担任のため地区担当はない。登校コースの担任になる前までは、京都・大阪・名古屋等の担当だった。ＮＨＫ学園高等学校は、北海道から沖縄までスクーリング会場を設置している。つまり、全国に生徒がいる。（海外に在住し、スクーリング時に日本に戻ってくる生徒もいる。）基本は、現地にいる先生方と生徒の情報を共有しながら対応していく。また行事・保護者会・三者面談等の時には、現地へ行き生徒対応等を行う。生徒とは直接会う機会は少ないが、電話・メール・オンライン等で話す機会が多い。その為、はじめて対面した時も、はじめて会った感覚は全く感じることはない。

進路指導中の様子

商業科（ビジネス基礎）の指導

ビジネス基礎の履修者は、579 人（１月現在）。スクーリングは、年間４回程度。生徒は、ＮＨＫ高校講座・教科書・学習書・学習ノート（科目作成）で自学自習で、基礎基本を身に付ける。ビジネスの世界は、発展のスピードが速い。その為、最新情報を取り入れ、わかりにくいところは、身近な例を提示しながら年に数回、動画配信を行っている。レポートにおいては探究問題を入れることにより、理解を深め、さらには地域ビジネスに目を向け視野を広げていくような指導を行っている。

おわりに

通信制高等学校に通う生徒数も通信制高等学校の校数も増え続けている。様々な経験・悩み・思い等を抱え、多様な学びができる通信制高等学校への入学を希望する生徒がいる。その為、保護者、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら生徒指導を行っていくことが重要である。勤務校は教育相談を強化していることもあり、特別支援学校教員免許、社会福祉士の資格等を取得している教員が多い。私自身も特別支援学校教員免許を取得した。生徒指導は、必ずしもマニュアル通りにはいかない。前回、うまくいったからといって、次も、同じ対応でうまくいくとは限らない。様々なケースを想定して、臨機応変に対応していく必要がある。その為一人で抱え込まず、チーム一丸となって、生徒にとって一番良い選択肢を一緒に考え、みつけていくことが重要である。また、専修大学卒の教員も多くいる。一人ではない、仲間がいること忘れずに！

教員採用試験体験記

国際コミュニケーション学部日本語学科4年　都築　柊人

この度、令和８年度採用予定の茨城県公立学校教員選考試験（令和７年度実施）国語科において合格を頂くことができました。

私は大学在学中、教職課程を履修してはいましたが、進路の中心は一般企業への就職活動に置いていました。進路を本格的に考える時期になっても、取り組んでいたのは主に企業説明会や選考であり、教員という進路は「選択肢の一つ」として常に意識していたものの、すぐに踏み切ることはできず、一般企業と教員の間で迷い続けていました。正直なところ、卒業を目前にした今でも、完全にどちらか一方に割り切れているわけではないというのが率直な気持ちです。

教育実習の様子

そのような状況の中で受験したのが、茨城県の令和８年度採用予定（令和７年度実施）の教員選考試験でした。私が受験した茨城県の一次試験は教職教養の試験がなく、担当教科のみの受験でした。私の場合は国語科を受験しましたが、受験科目が担当教科に限定されていたことは、就職活動と並行して教員採用試験に挑戦する決断を後押しする要因の一つとなりました。もっとも、茨城県の一次試験は５月11日と、他県と比べても実施時期が早く、就職活動と並行して十分な準備時間を確保することは容易ではありませんでした。限られた時間の中で闇雲に勉強することは現実的ではないと考え、私はまず過去問題に取り組み、出題傾向を把握することから始めました。過去問題を通して見えてきた茨城県の試験は、出題傾向が比較的明確であり、対策の方向性を立てやすいものであったと感じています。問題の難易度については、体感として大学入学共通テストと同程度、あるいはそれよりもやや易しい印象でした。そのため、共通テストで７割から８割程度の得点が安定して取れている場合には、十分に合格を狙うことができるのではないかと考えます。

二次試験では、面接と模擬授業が行われました。面接については、一般企業での面接経験が非常に役立ったと感じています。企業の役員の方々を前に何度も面接を受ける中で、面接という場そのものに慣れたことに加え、自分の考えを整理して伝える力や、質問の意図を考えながら答える力が身につきました。また、想定外の質問に対しても落ち着いて対応する姿勢は、この経験があったからこそだと思います。この点は、教職一本で対策をしている方と比べて、少しだけ強みになった部分かもしれません。逆に言えば、教職一本で準備を進めている方は、面接練習そのものは十分に積んでいる場合が多いと思います。そのため、実際の面接に近い緊張感のある場をどのように作るかが、重要になってくるのではないかと感じました。模擬授業では、学校での模擬授業で指摘された点や、受験する自治体が求めているテーマで授業をすることさえ気を付けていれば、その他の特別なことはいらないです。ただ、私は教育学部ではなく日本語学科なので、教育的な知識では教育学部の方達に劣ります。そのため、私が日本語学科で得た知見をどう授業で生かすか、という点を重視して授業準備を行ないました。

二次試験全体を通して特に重要だと感じたのは、受験する自治体の教育方針をどの程度理解しているかという点です。教育委員会のホームページを確認するのはもちろんですが、可能であれば教育実習先の先生方に、現在教育委員会から求められていることや、現場で話題になっていることを聞いてみるとよいと思います。私自身、先生方から伺った内容が、そのまま試験で問われる場面がありました。

最後に、ここまで述べたことはあくまで一学生の体験に基づくものです。進路に悩んでいる人は不安に感じることも多いと思いますが、悩むのは真剣な証拠です。自分としっかり向き合っているという証だと思います。周りと比べて焦るのではなく、しっかり悩んで、考えて、選択をして欲しいなと思います。この体験記が少しでも皆さんの励みになれば幸いです。

教員採用試験体験記

文学部英語英米文学科4年　松尾　心音

【はじめに】

この度、横浜市教員採用試験に合格し、来年度より中学校英語科教員として勤務することが決まりました。ここでは、私が実際に行った試験対策や、受験を通して感じたことをまとめています。私の経験が、これから教職を目指す皆さんの参考になれば幸いです。

【一次試験対策】

私は大学３年生の１月から本格的に勉強を始めました。教職・一般教養については、まず過去問を解いて出題傾向を把握することから取り組みました。横浜市の問題は、神奈川県・川崎市・相模原市と共通しているため、これらの過去問と参考書を購入することで効率的に対策ができます。過去問で間違えた問題をその都度参考書に戻って復習することで、着実に力をつけることができたと感じています。参考書に載っていない法令などについては、自分で印刷し、赤シートを使いながら毎日確認しました。教職・一般教養は範囲が非常に広く、どこから手を付けるべきか迷うこともあると思います。しかし、過去問を繰り返し解くことで、頻出分野とほとんど出題されない分野が明確になり、学習範囲を絞ることができます。専門科目についても同様に、過去問を通して出題傾向を掴むことが重要だと思います。

小論文については、横浜市では一次試験で実施されますが、点数は二次試験の評価に含まれます（一次試験合格者のみ採点されます）。私は４月から対策を始め、過去問を解いた後、大学の教職相談の先生やゼミの先生に何度か添削をお願いしました。小論文は一人で書いているだけでは課題に気づきにくいため、第三者に見てもらうことの大切さを実感しました。添削を通して、自分の成長を感じることができ、先生方にはとても感謝しています。

はじめは時間を気にせず最後まで書き切ることを意識し、慣れてきてから制限時間を測って練習しました。漢字や送り仮名、原稿用紙の使い方などの基本事項にも注意しながら、繰り返し練習することが大切だと思います。また、教育実習先の校長先生が横浜市の試験官を務めていた経験があり、小論文や二次試験の出題傾向について教えていただきました。実習中に、指導教諭の先生や校長先生に相談してみるのも一つの方法だと思います。

【二次試験対策】

横浜市では、一次試験のおよそ１か月後に二次試験が行われます。私は教育実習が終わった６月頃から本格的に対策を始めました。

まず、出題される可能性が高い基本的な質問を予想し、その回答をまとめたフラッシュカードのようなものを作成しました。それを使い、質問と回答を声に出して繰り返し練習しました。次に、自分の回答から深掘りされそうな点を想定し、追加の質問と回答を用意して同様に練習しました。ただ暗記するのではなく、どのような質問にも柔軟に対応できるよう、日頃からさまざまな事柄に目を向け、多角的な視点を持つことが大切だと感じました。

また、大学で開催されていた二次試験対策講座にも参加しました。実際の試験と同じ形式で練習できたことは非常に有意義で、小論文と同様に、第三者からの客観的な評価を受けることの重要性を実感しました。さらに、他の受験生の受け答えを見ることで、自分にはなかった考え方や表現方法を知ることができ、とても勉強になりました。

【おわりに】

合格するまでの中で、「この勉強で合っているのだろうか」と不安になり、心が折れそうになることもありました。そんな時は、なぜ教職を目指したのかを思い出し、自分の気持ちを支えにしながら前に進んできました。

また、家族や大学の先生方など、親身になって支えてくださった多くの方々の存在があったからこそ、ここまで頑張ることができたと感じています。その支えへの感謝を忘れず、私も子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合える教員になりたいと思っています。

今取り組んでいる努力は、すぐに結果が出なくても、必ず自分や子どもたちの力になります。思うようにいかない時も、自分の目指す姿を信じて続けてほしいです。これから教員を目指す皆さんの挑戦を、心から応援しています。

教員採用試験体験記

経済学部国際経済学科4年　野村　智貴

〈はじめに〉

私が教員を志すようになった原点は、中学生の頃に出会った先生の存在にあります。当時の私は、授業の面白さだけでなく、生徒一人ひとりに向き合い、日常の何気ない会話も大切にしてくれる先生の姿に強い憧れを抱いていました。その思いは一時的なものではなく、高校生活、大学生活を通して心のどこかにずっと残り続けていました。高校、大学でも多くの良い先生方と出会い、「やはり自分は教員になりたい」という気持ちは次第に確かなものへと変わっていきました。そうした経験から、私は東京都の中学校社会科教員を目指し、教員採用試験に挑戦することを決意しました。

〈教員採用試験の対策〉

教員採用試験への準備にあたって、私が最も大切にしていたことは「一気にやろうとしないこと」と「一人で抱え込まないこと」です。正直に言えば、私はもともと計画的にコツコツ勉強することが得意なタイプではありませんでした。そのため、自分一人で試験勉強を進めていたら、途中で挫折していた可能性は高いと思います。そんな私を支えてくれたのが、大学で行われている教職相談の存在でした。

私は大学一年生の後期から、教員採用試験が終わる四年生まで、毎週欠かさず教職相談に通いました。教職相談では、現場経験のある、教職課程の先生が親身に相談に乗ってくださり、その週にやるべきことの整理や、長期的なスケジュールの確認を一緒に行ってくれました。「今週はここまでやればいい」「今は焦らなくて大丈夫」といった具体的な指針を示してもらえたことで、私は常に見通しを持って学習を進めることができました。この毎週の積み重ねが結果的に大きな力になったと強く感じています。

自分自身で大学受験のように毎日必死に勉強するのは、大学のスケジュール的にも難しいと思います。毎週、時間を見つけて、少しずつ進めました。そして、教職教養や専門教養のワークは自分で購入しましたが、過去問は都のホームページや図書館を活用し、勉強をしました。まずは過去問を解き、形式慣れをしていき、足りないところを補っていくようにしていくことが、効率的に対策を進めていけると感じます。

〈早期選考の活用と不安との葛藤〉

東京都の三年次早期選考に挑戦したことも、私にとって大きな転機でした。三年生の段階で筆記試験を受験し、合格できたことで、四年生では教育実習や論作文、面接対策に時間を割く余裕が生まれました。結果として、試験全体を見通した準備が可能になり、精神的な負担も軽減されたように思います。一方で、論文や面接対策は決して簡単なものではなく、何度も壁にぶつかりました。特に論文では、自分の考えを言葉にする難しさを痛感し、先生方に何度も添削をお願いしました。しかし、その過程で「自分はどんな教師になりたいのか」「なぜ教師を目指しているのか」を深く考える機会を得ることができました。東京都であれば、論作文はしっかりとした準備と訓練が必要です。自分だけでの対策は難しいので、教職相談で添削をしてもらい、書き方を教えてもらい、一つ一つ確認していくことが大事だと感じます。

最終的に名簿登載を知ったとき、真っ先に感じたのは喜びよりも大きな安堵でした。教員採用試験は結果が出るまでの期間が長く、不安な気持ちと向き合う時間も多くあります。それでも最後まで踏ん張ることができたのは、「教員になりたい」という初心と、支えてくれた先生方の存在があったからだと思います。

〈これから教員採用試験にチャレンジする皆さんへ〉

これから教員採用試験に挑戦する皆さんに伝えたいのは、完璧を目指さなくてもいいということです。一気に詰め込む勉強よりも、週単位、月単位でこつこつ積み重ねていくことの方が、確実に力になります。そして、ぜひ周囲の力を借りてください。教職相談や仲間、先生方は、必ず皆さんの力になってくれます。私自身、その支えがあったからこそ、合格までたどり着くことができました。特に、教育相談を活用している学生は少なく、もっと活用する学生が多ければいいのになと思っていました。専修大学には、教員になるためのサポートが充実していますので、あとは皆さんの気持ち次第です。

この体験記が、これから教員を目指す誰かの背中を少しでも押すことができれば幸いです。いつか同じ教育現場でお会いできる日を楽しみにしています。

教員採用試験体験記

法学部法律学科4年　中原　慎乃祐

○はじめに

私は令和８年度教員採用試験において埼玉県教育委員会より合格を頂きました。その過程で専修大学資格課程係及びバンビの会に多くの助けを頂きました。今度はこれから教育現場を目指す皆様の手助けになる番だと考えたため、自分がしてきた対策について埼玉県・中学校・社会科の経験から出願前、１次試験、２次試験の順でまとめさせていただきます。

○出願前

現在の教員採用試験は複雑化しています。従来４年生でしか受験できなかった採用試験ですが、現在は３年生から受験が可能となり、夏だけでなく秋にも試験を行う自治体が増えるなど我々受験者にとってはありがたい一方、早くからの試験対策が求められるだけでなく、受験予定の自治体や受験区分が早期選考を行っているのかを入念に調べる必要が出てきました。実際私が受験した埼玉県は、私が３年生の時の令和７年度試験が初めて３年受験が開始された年でした。早めに興味のある自治体について調べ、余裕を持った出願から合格までのスケジュールの把握が大切になります。また、そもそも自治体により試験内容に違いがあり、一般教養の試験の有無や集団面接（集団討論）の有無など試験内容についてもしっかりと理解する必要があります。

○1 次試験

私が受験した埼玉県・中学校は一次試験では、一般教養、教職教養、専門教養の３つが試験内容でした。私は３年受験をしたため３年生のとき一般教養と教職教養、合格後４年生のとき専門教養を受験しました。まずこの試験範囲がとても広いです。一般教養は、国数英理社など主要５科目は勿論美術や技術、家庭科などの知識も出るので早くから対策が必要になります。教職教養は、大学の教職課程科目で習う内容も出題されるため比較的親しみやすいですが、法規の内容が出るため法律名、条文と内容の暗記が求められます。専門教養は、自身の知識量に合わせて採用試験用テキストから大学入試用のテキストなど幅広く使用する必要があります。私自身が対策するうえで意識したことは、何を重点的に学習するかを明確にしたことです。協同出版の採用試験の過去問集には、過去数年分の出題傾向が載っているためまずはそこからどんな問題が出るのか、どんな問題は出ていないのかを徹底的に調べました。具体的には、埼玉県・中学校の一般教養は主要５科目は各４問出題され、副科目は２問ずつ程度でした。数学は、図形もしくは体積を求める問題と関数やグラフ、２次方程式に関する問題は毎年出ていたので多くの時間を割きました。専門教養については、世界史や倫理については出題先例がほぼなかったのであまり時間を割きませんでした。このように、採用試験の１次試験は範囲が広いので重点的に対策するところとさらっと確認するところを出題傾向に合わせる必要があります。

○2 次試験

埼玉県の２次試験は小論文、集団討論、個人面接の３つの試験内容でした。小論文も１次試験のように自治体により出題テーマや文字数に色がでます。対策としては過去問を行い、教職科目の教員に添削してもらうことが大事です。小論文に限らず２次試験の対策には協力者が必須です。埼玉県では埼玉県教育委員会のスローガンなどをどう捉えているかなどの出題もあったのでただ書く練習だけでなく情報を集めることにも注力しました。集団討論は本当に１人では対策できないので、バンビの会や資格課程係が開く対策講座に参加しました。喋りすぎてはいけませんが喋らないことも評価されないので周りとの協調が鍵であり、討論中はライバルというよりも仲間という感覚が重要になります。個人面接は多くの人と面接をすることが１番の対策です。集団討論と同様にバンビの会や対策講座に積極的に参加することが合格の近道です。頻出する質問内容については紙にあらかじめ答えを書いておき、すらすらと答えられるようにしておくとよいですが、あくまでも面接は会話なのでキャッチボールを心掛けるといいと思います。とにかく２次試験対策は使える人脈をフルで使い人に頼ることが重要です。１人でできることに限りがあることを理解しておきましょう。

教員採用試験体験記

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年　山崎　綾子

１．はじめに

私は令和７年度東京都公立学校教員採用候補者選考に合格し、令和８年度から情報科教員となります。今回は、これから教員採用試験を目指す後輩の皆さんが試験の全体像や具体的な対策方法を知ることができるよう、私自身の体験をもとにまとめたいと思います。

２．教員を目指したきっかけ

妹に勉強を教えていたとき、「お姉ちゃんが先生だったらよかったのに」と言われたことがあります。その一言が心に残り、「誰かの学びを支える仕事に就きたい」と思うようになったことが、教職に興味を持つきっかけでした。さらに、高校３年生で受講した選択科目の情報科の授業で、情報技術が社会を支えていることや、学習内容が身近な生活と結びついている点に魅力を感じ、情報科の教員に進路を決めました。

３．東京都教員採用試験の概要と３年生前倒し選考

私が受験した令和７年度の東京都の情報科の倍率は、応募者数 83 人に対し、名簿登載者８名で、約 10.4 倍でした。東京都の教員採用試験は一次試験と二次試験に分かれており、一次試験では教職教養・専門教養と小論文、二次試験では面接が行われます。

私が特に活用してよかったと感じているのが、「3 年生前倒し選考」という制度です。この制度では、大学３年生の時点で教職教養と専門教養を受験でき、仮に不合格でも４年生で再受験し合格すれば問題ありません。私はこの制度を利用して３年生で教職教養と専門教養に合格できたため、４年生では小論文と面接に集中でき、余裕をもって試験に臨むことができました。

４．試験内容の詳細

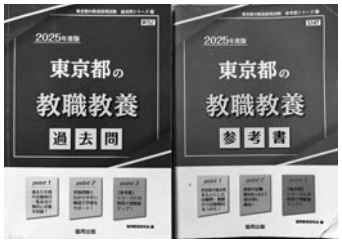
一次試験は７月前半に実施されました。私は教職教養・専門教養の勉強期間として約２か月を確保しました。ネットワーク情報学部の３年生ではプロジェクト科目などもあり忙しい状況でしたが、優先順位を意識し、空き時間を活用して勉強時間を確保しました。

教職教養・専門教養はいずれもマーク式で、試験時間は各 60 分です。教職教養は、共通問題 23 問と校種別問題２問の計 25 問、専門教養は 20 問が出題されました。また、小論文では当時課題となっている教育問題がテーマとなり、910 字から 1,050 字以内を 70 分間で書く形式でした。

二次試験の面接は８月中旬に実施され、３人の試験官を相手に行われました。面接に先立って、事前に面接シートを記入し、当日に試験官へ提出します。事前に記入した面接シートを当日提出し、主にその内容をもとに質問されるため、自分の言葉で答えられる内容を書くことが重要だと感じました。

５．勉強方法

教職教養の勉強には、協同出版の『東京都の教職教養参考書』と『東京都の教職教養過去問』を使用しました。まず参考書で基礎を固め、その後過去問を解くことで出題傾向をつかみました。専門教養については、東京都公立学校教員採用ポータルサイトに掲載されている過去問を中心に対策しました。



小論文対策では、東京都が公開している用紙を使用し、比較的新しい過去問を選んで練習しました。文部科学省が公開している「東京都教育ビジョン」や「東京都教育施策大綱」を読み込み、東京都がどのような教育を目指しているのかを把握しました。書いた答案は、小論文のポイントを学習させた生成 AI に評価してもらい、構成や論点の改善点を確認しました。

６．おわりに

教員採用試験は長期間にわたる挑戦であり、不安や焦りを感じることも多いですが、制度を上手に活用し計画的に準備を進めることで、合格に近づくことができると思います。

今後は情報科教員として、「誰かの学びを支えたい」という思いを忘れず、生徒に寄り添いながら成長を後押しできる教員を目指していきたいと考えています。この体験記が、これから教員採用試験に挑戦する後輩の皆さんの不安を少しでも和らげ、一歩踏み出すきっかけになれば幸いです。

教員採用試験体験記

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科3年　長橋　優斗

私は大学３年生の段階で教員採用試験に合格することができました。

正直、教育実習もこれからという時期での受験であったため、様々な不安がありました。しかし、早くに目標を明確にしたことにより、様々な準備を積み重ねることができ、良かったと思います。

まず、私が教員を志した理由は、小学生時代に出会った先生の影響が大きいです。どんな状況でも丁寧に向き合い、時には優しく、時には厳しく生徒に寄り添ってくださる姿に憧れ、私も同じように寄り添い、生徒がより良い将来を切り拓くサポートができる存在になりたいと思いました。この気持ちが大学に入ってからも揺らぐことはなく、早い段階から教員採用試験の情報を集めるようになりました。３年生での受験を目指したのは、１年でも早く挑戦し、受験の仕組みや自分の実力を把握しておきたいと考えたためです。

私が３年生での受験に向けて特に力を入れたのは、小論文試験と面接試験の対策です。小論文では、教育現場で求められている教師像や、教育課題に対する自分なりの考えを、限られた字数の中で論理的に表現する力が求められました。そこで、大学の講義内容や教育に関する資料をもとに、日頃から自分の考えを文章にまとめる練習を行いました。過去の出題傾向を参考にしながら、「結論→理由→具体例→まとめ」という構成を意識して書くことで、安定して自分の考えを表現できるようになりました。

また、面接試験の対策には早い段階から取り組むことが重要だと感じました。大学の教職相談の先生やバンビの会の先生方に協力していただき、模擬面接を重ねる中で、教師としての言葉遣いや姿勢、自分の考えを簡潔に伝える力を磨いていきました。３年生という立場上、教育現場での経験不足は否めませんでしたが、塾講師としての経験を通して大切にしてきた「生徒に寄り添う姿勢」や「質問しやすい雰囲気づくり」などを、具体的なエピソードとして伝えることを意識しました。

特に印象に残っているのは、個別面接で「あなたが教員として大切にしたいことは何ですか」と問われた場面です。私は、生徒とのコミュニケーションを何よりも大切にしたいと答えました。まずは日常の会話を通して信頼関係を築き、その上で学習面や生活面の悩みにも寄り添っていきたいという考えを、自分の経験を交えて伝えました。この考えは、大学で学んだ教育相談の授業や、実際に生徒と関わる中で培われたものです。

受験準備は、振り返ってみると、「早くから準備を始めておけばよかった」と感じることが多くありました。しかし、「周囲のアドバイスを素直に受け入れ、修正に励むこと」が合格につながった要因だったと思います。不安なことがあっても、相談すれば先生方は丁寧に助言をくださり、友人も励ましてくれました。自分一人で抱え込まず、支えてくれる人の存在を力に変えられたことが、最後まで努力を続ける原動力になりました。

最後に、これから教員採用試験に挑む皆さんに伝えたいことがあります。それは、「自分を追い込みすぎず、今の自分を認めながら努力を続ける」ということです。試験準備の過程では、周囲と比べて焦ったり、不安になったりすることもあると思います。しかし、日々の積み重ねは確実に力になります。自分ができることを一つずつ増やしていく意識で取り組んでほしいと思います。

私自身、まだ教師としてのスタートラインに立ったばかりです。これからも学び続け、生徒にとって信頼される存在になれるよう努力を重ねていきたいと考えています。本体験記が、これから挑戦する皆さんの背中を少しでも押すことができれば幸いです。

教育実習を終えて（国語）

滑川市立早月中学校　国際コミュニケーション学部日本語学科4年　糸氏　育夢

３週間の教育実習を経て、多くのことを学ぶことができた。最初の１週間は生徒との関係を築くために積極的にコミュニケーションを取ることで、中学校の一員になることを心掛けた。また、学校運営や生徒指導などの講座では、教員の働き方や生徒との接し方、現在の教育現場の問題点などを教わった。実習校ではチーム担任制を導入しており、教員の負担を減らしつつ、きめ細やかな指導ができるように取り組んでいる。部活も 17 時までに完全下校が完了するように徹底されていた。校長先生はこれらの取り組みは、教員のワークライフバランスを整えるために重要なことであるとおっしゃっていた。教員の生活を充実させることが授業の質だけでなく、学校運営にも良い影響を与えると考える。実際、先生方の表情は明るく、授業もメリハリがあり、とても良い雰囲気であった。生徒だけでなく教員一人一人を大事にしていることが伝わった。

２週目から授業が始まった。私が担当したのは中学３年生の「作られた『物語』を超えて」という論説文であった。論説における具体と抽象の関係性を理解し、筆者の主張を捉えることが単元の目標であった。まずは具体と抽象を理解しないことには、この論説を読み進めることができないので、最初の１時間を教科書を用いずに具体と抽象のトレーニングを行った。

作られた「物語」を超えて ②　山極寿一

三年　組　番　氏名（　　）

目標…

○本文をまとまりで分ける

段落 見出し	内容
序論	○ライオンやトラを（　　）動物 ○キツネやタヌキを（　　）動物 ＝人間の都合のいいように解釈してきた（　　） ＝人間が作った（　　）
本論①	○ゴリラ（　　）動物 人間が（　　） ○ゴリラは、アフリカ熱帯林にすんでいることを示す。 呼びかけ、不安を誘い出すような音を持つ。 ○人間が「物語」を作りだしたことによって、ゴリラは（　　） ○人間が発明した言葉には自分の体験を（　　）した方がある。言語はこうした方がある。言語はこうした方がある。言語になることもある。 ＝「物語」は人間社会にも（　　）をもたらす。 ＝「物語」が強力かつ（　　）を増幅しかねない。
本論②	○人から伝えられた「物語」と実際に向かい合っている現状を照らし合わせ、これまでの（　　）を疑ってみる。 ○（　　）と解釈を通り、意識を疑うこと。自分の立場を相手の立場に置き換えて考えてみることが重要である。
結論	

ワークシートを作っているときは自分なりに分かりやすくできたと思っていたが、授業をしてみると、想定外の解答が出てきて臨機応変に対応することができなかった。担当の先生からは生徒の目線に立って考えてみることが重要であるとご指導いただいた。「このくらいはできるだろう」と考えるのではなく、幅広いレベルの生徒がいることを前提として授業づくりを行うことで授業の質が向上することが分かった。そのためにも授業中の発問を工夫したり、活動においてもスモールステップを用意したりするなどして、すべての生徒が授業に参加できる体制を整えるように改善した。さらにより主体的な学習になるように、常に４人班で授業を行うということを試みた。私の指示するとき、ワークシートに書き込むとき以外は話しても良いという授業形態にすることで、対話を増やし深い学びに繋がると考えた。初めのうちは指示が通りにくかったり、班の中で関係ない話をしてしまうことがあった。だが、大きい質問に付属する質問をいくつか用意したり、質問の難易度を調節することでメリハリのある授業を行うことができた。18 コマの授業を通して、中学生の特に国語では、常に活動を行うことが生徒のやる気を引き出せるのではないかと感じた。実習中多くの授業を見学したが、活動の多い数学や英語は生徒が積極的に参加している姿が多く見受けられた。だが実験の結果をまとめる回の理科や社会は、板書するだけになっているため寝てしまう生徒や集中していない生徒が多く見られた。国語科では音読や意見交換、作文、発表など多くの活動が授業を構成している。この特性を活かして、教壇に立った際には活動を充実させ、生徒が積極的に参加できる授業づくりを心掛けていきたい。

教育実習全体を通しての課題として、臨機応変に対応するということが挙げられる。指導案の流れに沿って授業することを意識しすぎて、生徒の反応よりも流れを優先してしまった場面が何度かあった。生徒がより深い学びを得るには、生徒が疑問に思ったことをその場で取り上げ解決することが重要である。そのやり取りは、疑問を持った生徒だけでなく、他の生徒にとっても良い学習の機会となると考える。生徒のリアルな反応を大事にすることを何よりも優先して取り組んでいきたい。

今回の実習はとても有意義なものであったと感じている。教員になったときにはこの経験を糧にして精進していきたい。

教育実習を終えて（英語）

川崎市立有馬中学校　文学部英語英米文学科4年　林　真生

１．はじめに

私は 2025 年 6 月 2 日から 6 月 20 日までの 3 週間、川崎市立有馬中学校にて教育実習を行い、中学 1 年生の英語科 4 クラスを担当しました。実習校では「Round システム」を取り入れており、物語を段階的に理解し、最終的に教科書の内容を知らない人へ向けて“Story retelling”を行うことをゴールとしていました。私はその中の Round3 を担当し、本文の音読や内容理解、語彙の確認を中心に授業を行いました。これまで学んできた英語教育とは異なる、生徒主体で進む授業スタイルの中で、私が感じたこと、学んだことについて述べたいと思います。

２．教育実習

実習校での授業は、生徒の発話を重視しており、教師が一方的に説明する講義型とは異なり、対話を通して学習を深めていくものでした。教科書よりも先生方が丁寧に作成されたプリント類が中心で、書く活動よりも話す活動が重視されていました。生徒たちは ALT との会話にも積極的で、英語を使おうとする姿勢が強く、常に前向きに授業へ臨んでいました。

一方で、私は授業運営の基本となる「声の大きさ」や「指示の出し方」に苦戦しました。中学 1 年生は元気で切り替えが難しく、指示をしても届かない場面が多くありました。指導教諭からは「静かになるのを待つ」ことを勧められ、勇気を持って一度声を止め、生徒の注目が集まる瞬間を待つことを実践しました。すると、少しずつクラスの動きがそろうようになり、指示が伝わる感覚をつかむことができました。

授業冒頭の chat 活動では、生徒がペアの会話を通して出てきた質問を共有する場面があり、自分の語彙力不足を痛感しました。そこで黒板に新出表現を書くようにし、音声と文字の両方から理解できるよう工夫しました。また、机間指導で同じ質問が複数の生徒から出た際には、全体で共有する時間を設け、質問しづらい生徒にも学びの機会が行き渡るよう意識しました。

さらに私は実習前に、「担当する生徒全員と一度は会話する」という目標を立てていました。給食の時間には毎日異なる班で過ごし、学習以外の話題でも交流することができました。授業実践では「緊張しているので助けてほしい」と素直な気持ちを伝えることで、生徒と協力しながら授業をつくる姿勢を共有できたと感じています。生徒たちは純粋で学びに前向きで、集中すべきところと楽しむところの切り替えを自然に行う姿が印象的でした。

毎授業後には丁寧なフィードバックをいただきました。初めの頃は「声が届いていない」「説明が長い」「黒板の使い方がもったいない」など基本的な点での指摘が多く、反省が続きました。しかし回数を重ねるうちに、話す間や言葉選び、活動へのつなぎ方を意識できるようになり、後半には「指示が明確になった」「生徒の反応を引き出せていた」と評価いただける場面も増えました。特に、生徒の発言を拾って全体に共有し、積極的に称賛することで、教室全体の雰囲気が明るく前向きになっていくことを実感しました。指導教諭からいただいた「授業は、生徒が主役。教員は、生徒が様々な場所で輝くためのサポート役」という言葉は、実習後も忘れられない学びとなりました。

３．教育実習を終えて

３週間の実習を終えて最も強く感じたのは、「自分一人では授業は成立しない」ということです。生徒の前向きな姿勢、指導教諭の丁寧な助言、実習仲間との励まし合い。そのどれが欠けても、この 3 週間を乗り越えることはできなかったと感じています。また、授業とは“教員が中心”ではなく、“生徒が主体となって学びをつくる場”であることを改めて理解しました。実習を通して得た「効率的に動く力」「時間管理力」は、社会人としても必ず役立つ力だと感じています。また、英語力そのものの不足も痛感したため、今後も学習を続けていきたいです。

４．おわりに

３週間はあっという間でしたが、毎日が濃密で、学びと反省が絶えない日々でした。うまくいかないことも多くありましたが、その度に周囲の助言や生徒の姿から多くの気づきを得ることができました。「完璧な授業」よりも「生徒と一緒につくる授業」を大切にする姿勢を忘れず、今後の学びにつなげていきたいと思います。

最後になりますが、失敗を恐れず楽しみながら臨むことで、良い人生経験に繋がると思います。大変だと思いますが、素敵な教育実習になることを願っております。

教育実習を終えて（地理歴史）

東京都市大学等々力中学校・高等学校　文学部哲学科4年　横山　翔海

１．はじめに

私は2025年５月24日から６月16日の三週間、母校である東京都市大学等々力中学校高等学校で教育実習を行いました。担当教科は地理で、ホームルーム担当は高校２年７組、授業担当は高校２年生３クラスと中学１年生２クラスの計週10授業を受け持ちました。中学と高校の両方で授業を担当できたことは貴重な経験となりましたが、発達段階や学習レベルが大きく異なる２学年を扱うことの難しさを痛感する日々でもありました。

２．教育実習

実習で最も苦労したのは、発達段階の異なる中学１年生と高校２年生の両方に適した授業を行うことでした。中学生の授業では、グループワークなどの活動を取り入れると活発に参加してくれますが、興味を引く導入や工夫がなければすぐに集中力が途切れてしまいます。一方、高校生は教師の説明を集中して聞くことができますが、演習の時間になると生徒間の理解度の差が顕著に表れました。理解の早い生徒に合わせると遅れる生徒が出てしまい、逆に遅い生徒に合わせると早い生徒が時間を持て余してしまうという、授業進行のバランスの難しさに直面しました。

さらに、同じ内容を扱っても、クラスによって生徒の反応は大きく異なりました。積極的に発言する生徒が多いクラスもあれば、静かに授業を受けるクラスもあり、それぞれのクラスの特性を理解して授業を組み立てる必要がありました。事前に生徒の反応を想定しながら授業計画を立てていましたが、実際にはクラスの雰囲気を把握することが想像以上に難しく、指導教官の先生から助言をいただきながら試行錯誤を重ねました。

地理という教科の特性上、教材研究にも多くの時間を要しました。特に中学地理では、教科書だけでは内容が十分ではないと感じ、資料集を活用したり、独自にトピックを調べたりする必要がありました。グループワークやジグソー学習のための教材を一から作成することは、創意工夫を凝らせる楽しさがある一方で、非常に時間のかかる作業でした。

このような授業作りの課題を克服するうえで、他教科の授業参観が大きな助けとなりました。地理だけでなく、歴史や公民などの社会科系科目、さらには数学や物理といった理系科目の授業を見学することで、多様な指導方法や生徒への問いかけ方、授業展開の工夫を学ぶことができました。指導教官との相談はもちろん重要ですが、担当教科に関わらず幅広く授業を参観することで、自分の授業に活かせる引き出しが増え、授業改善のヒントを得られたと感じています。

３．教育実習を終えて

教育実習を通して、教師には授業力だけでなく、生徒一人ひとりと向き合う姿勢や、多様な背景を持つ生徒たちが安心して学べる環境を作る力が求められていることを学びました。授業準備に追われる忙しい日々でしたが、放課後に部活動の指導に参加したり、担当クラスの生徒たちと時間を取って授業の感想を聞いたりすることが、より良い授業作りやより豊かな経験につながると実感しました。三週間という限られた時間だからこそ、生徒との関わりを大切にすることの重要性を改めて認識しました。今後も、常に新しい知識や教育方法を学び続ける姿勢を持ち続けたいと思います。

４．おわりに

実習中は授業準備や教材研究、クラス運営など、何をするにも時間が足りないと感じるほど多忙な日々でした。はじめは思うように授業ができず、挫けそうになることもありましたが、指導教官からの的確なアドバイスや生徒たちの反応を真摯に受け止め、一つひとつ改善していきました。生徒たちの貴重な時間をいただいて授業をさせてもらっているという意識を常に持ち、誠実に向き合うことの大切さを学びました。これから教育実習に臨む皆さんには、失敗を恐れず、様々なことに積極的に挑戦していただきたいと思います。充実した教育実習になることを心から応援しています。

教育実習を終えて（商業）

群馬県立前橋商業高等学校　経営学部経営学科4年　吉澤　碧

１．はじめに

私は、群馬県立前橋商業高等学校にて２週間の教育実習を行い、商業科目の中でも「簿記」の授業を担当いたしました。大学では理論的な知識や模擬授業の経験を積んできたつもりでしたが、いざ実際の教育現場に立ってみると、想像以上に多くの課題に直面し、改めて「教える」という行為の奥深さを実感しました。生徒と正面から向き合い、授業を通して理解を促すという営みは、単に知識を伝えるだけでは成り立たないという現実に気づかされました。２週間という限られた時間ではありましたが、教育とは何か、教師としての在り方とは何かについて、真剣に向き合う時間となりました。

２．授業実践と現場での気づき

研究授業では「当座預金と当座預金出納帳」を題材とし、少しでも印象に残る授業になるよう工夫を凝らしました。生徒たちが能動的に学べるように、グループワークを積極的に取り入れ、４～５人の班で当座預金の流れを演技形式で確認したり、協力して問題に取り組んだりと、生徒同士の学び合いを促しました。PowerPoint と連動したプリントを作成し、視覚的にも理解しやすいよう構成を工夫しました。しかし、授業内容を詰め込みすぎたことで、時間内にすべてを終えるのが難しく、展開がやや慌ただしくなってしまったことは反省点です。時間配分の重要性を痛感すると同時に、授業中に生徒の理解度を見極めながら進度を調整することの難しさにも直面しました。自分の中での「うまく進めなければ」という焦りと、「生徒一人ひとりに丁寧に向き合いたい」という気持ちの間で揺れ動きながら、現場の先生方がどれほど多くの判断を瞬時に行っているかを思い知りました。また、声量や話し方についても何度かご指導をいただきました。高校の教室は広く、外からの雑音もあるため、大学の模擬授業とは異なり、声の出し方一つにも工夫が必要でした。そうした些細な点にも気を配る必要があることを学び、教壇に立つということの責任や配慮の重みを改めて感じました。

３．生徒との関わり

実習を終えて振り返ると、最も悔いが残るのは、生徒との関係づくりに消極的だったことです。休み時間や掃除の時間に声をかけようと何度も思ったものの、「今話しかけてもいいのだろうか」と迷ってしまい、結局その一歩を踏み出せずに終わってしまうことが多くありました。結果として、生徒との距離が期待した程には縮まらないまま終わってしまったことは、大きな反省点です。今でも、掃除指導の時間は、生徒との自然な会話が生まれやすい貴重な機会だったと思います。実際に、生徒との距離が近い先生方の授業では、生徒たちがリラックスしながらも集中して取り組んでおり、教室全体に活気が満ちていました。今日、教師と生徒の信頼関係が、授業の雰囲気や成果に大きな影響を与えるという現実を、目の当たりにしました。

これから教育実習に臨む人には、授業の準備と同じくらい、生徒との日常的な関わりも大切にしてほしいと伝えたいです。限られた期間だからこそ、「迷う前に一歩踏み出す」ことが、実習を実りあるものにする鍵になると私は思います。

４．おわりに

この２週間の教育実習は、私にとって非常に価値のある経験となりました。特に、「人と向き合うことの難しさ」と「何かを伝えることの重み」は、どのような職業に就くにしても、今後の人生で必ず生きてくる学びであると確信しています。また、教育とは、単に知識を伝えるだけではなく、相手の立場に立って考え、心を動かすことだと実感しました。実習中に感じた悔しさや葛藤も含めて、すべてが私自身の成長に繋がったと思います。この経験で得た気づきや感情を、これからも大切に育てながら、どのような場面においても「人と誠実に向き合う姿勢」を持ち続けていきたいです。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった群馬県立前橋商業高等学校の校長先生をはじめ、実習を受け入れてくださった全ての先生方に心より感謝申し上げます。特に、授業指導を丁寧に行ってくださった担当の安田先生には、日々のご指導のみならず、教育現場のリアルを間近で学ばせていただきました。そして、実習に至るまでの準備やアドバイスを親身にサポートしてくださった大学の池田先生にも、この場を借りて深く感謝申し上げます。皆さまのおかげで、実習を通して多くの学びと気づきを得ることができました。本当にありがとうございました。

教育実習を終えて（情報）

神奈川県立海老名高等学校　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年　古賀　巧実

１．はじめに

５月22日からの２週間、母校である神奈川県立海老名高等学校にて教育実習を行った。担当ＨＲは３年３組で、教科「情報Ⅰ」では１年１組から６組までの６クラスを受け持った。ここでは、教育実習を通じて得た知見や気づきについて記述する。

２．教科指導について

実習期間中、計15回の授業を担当した。クラスごとに授業回数や進度にばらつきがあり、同じ単元であってもクラスによって授業の盛り上がり方や理解度が大きく異なる点が特に印象に残った。その都度、生徒の反応に応じて授業の構成や説明の仕方を柔軟に調整する必要があった、たとえば、理解が浅いと感じた場合には補足説明を加え、逆に理解が進んでいると判断した場合には、生徒に自ら考えさせる時間を増やすなどの工夫を行った。このように、生徒の様子を見ながら即座に授業を組み立てる経験は、自分にとって大きな学びとなった。

授業全体の目標としては、生徒の主体的な学びを引き出すことを重視した。担当教員からは、単元の終わりに小テストを実施する方針が示されていたため、その内容を逆算して授業内容を構成した。基本的な授業資料は提供されていたが、自分なりの理解や意図に基づき、形式や構成を変更したり、生徒がグループで話し合いながら考える場面を多く取り入れたりすることで生徒が受け身にならない授業を目指した。

教壇授業では、失敗・反省した部分も沢山あった。たとえば、生徒から予想外の意見や質問が出た際に、説明用スライドを直ちにで作成する判断をし、授業の流れを一時的に止めてしまったことがあった。この経験から、教材研究の段階でより多くの反応を想定し、それにどう対応するかまで事前に考えておく重要性を実感した。

研究授業では、「音のデジタル化」に関する単元を扱った、サンプリング周波数についての理解を深めることを目的とした「人間の可聴域を超えるサンプリングに意味があるのか」という問いを軸に授業を構成し、３クラスで実施した。前回までの授業の復習で、問題を考えるための土台を作ることができていたため一部の生徒は問いに対して本質的な考察を行うことができていた。授業はグループ活動、全体共有、再びグループで議論、そして正解の提示という流れで進めたが、生徒同士が活発に疑問をぶつけ合うような、より深い学びの場づくりにはまだ自分の力不足を感じた。

３．学校運営について

授業以外にも、進路指導や行事、ＨＲ経営など、教員としての業務を幅広く体験させていただいた。その経験の中で授業以外の業務でも多くの先生方が同じ方向を向いて進められているのは、授業で目的を示すように、学校も経営方針などの同一の目的意識を持って運営されているからであるという事を認識することができた。

また、職員室や廊下で交わされる先生方同士のやり取りを実際に目にする中で、生徒一人ひとりを支えるために、日々細やかなコミュニケーションが取られていることを実感した。教師とは、個々に完結して授業を行う存在ではなく、互いに連携しながらチームとして生徒を支えていく役割を担っていることを、自分の目で確かめることができた。この姿勢を肌で感じられたことは、大きな学びであった。

４．おわりに

教育実習の２週間は、想像以上に内容が濃く、得るものが多かった。「なぜ３週間にしなかったのか」と何度も思うほど、充実し、楽しさと課題に満ちた時間であった。今回の経験を糧に、今後も教職の道を進む上での基盤を築いていきたい。

教育実習を終えて（数学）

神奈川県立有馬高等学校　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年　山道　創太

１．はじめに

私は、母校である神奈川県立有馬高等学校で、5月26日から6月13日までの3週間、教育実習をさせていただいた。担当HRは1年7組で、教壇実習では1学年の3クラスを対象に数学Iを担当した。生徒は入学して間もない時期であり、学校生活にも徐々に慣れ始めている時期だったため、授業を通して「高校の数学」に対して興味や前向きな気持ちを持ってもらえるよう意識した。また、授業以外の場面でも、生徒との日常的な会話や清掃指導、部活動の見学などを通して、生徒との関わり方や信頼関係の築き方について多くを学ぶことができた。ここでは、教育実習を通して得た学びや感じたことをまとめていく。

２．教科指導について

数学Iについて、1学年3クラスを担当し、計13回の授業を行った。期間中に体育祭の準備などが重なり、当初の予定よりも授業数が減ったが、その分1回ごとの授業の質を高めることを意識した。指導教諭の先生からは「自分らしくやってみていい」と言っていただいたが、生徒が混乱しないよう、基本は先生の授業スタイルを踏襲しながら進めた。

授業では、生徒が数学を少しでも身近に感じられるように工夫を凝らした。スライドには身近な題材を取り入れ、ゲームやクイズ形式で数学的な考え方を体感できるようにした。また、命題の導入では、日常生活の中にある事例と結びつけて説明することで、抽象的な内容をイメージしやすくした。「数学らしさ」を和らげ、苦手意識を持つ生徒にも入りやすい雰囲気づくりを心掛けた。結果として、生徒からは「説明が分かりやすい」「数学の授業が楽しかった」といった前向きな感想をもらうことができ、授業づくりの喜びを感じた。

３．学校行事・部活動について

実習期間中には体育祭があり、実習生は準備や片付けのほか、競技の進行補助や生徒の誘導などを担当した。私は主にグラウンド周辺の巡回を行い、安全確認や次の種目に備える生徒たちの誘導を手伝った。部活動対抗リレーにも「実習生チーム」として参加し、生徒たちからの声援を受けながら走ったことで、教壇では得られない一体感を味わうことができた。

部活動では、自分が高校時代に所属していた硬式野球部の活動に参加した。実習生としてキャッチボールやノックの補助、練習メニューの準備などを通じてサポートを行い、練習の合間には部員から進路や勉強について相談を受けることもあった。自分の経験を活かしてアドバイスをする中で、「教える立場」としての責任とやりがいを感じた。

４．実習生同士について

今回は自分を含めて11人の実習生が参加しており、待機室では授業に向けた相談や教材の見せ合い、休憩時間の雑談などを通じて和やかな雰囲気が生まれていた。授業前後にアドバイスを送り合い、見学を通して意見を交換することで、互いに刺激を受けながら成長することができた。特に他教科の実習生との交流は、自分にはなかった視点を得る良い機会となった。

授業準備や指導案の作成で夜遅くまで学校に残る日もあったが、同じように残って頑張る仲間の存在が大きな支えになった。互いに励まし合うことで最後まで前向きに取り組むことができ、慣れない環境を乗り越えられたのは、実習仲間のおかげだと感じている。

５．まとめ

教育実習を通して、教師という職業の大変さとやりがいの両方を実感した。授業準備や行事対応などで多忙な毎日だったが、生徒の「分かった！」という表情や、何気ない会話の中で見せる笑顔に触れたとき、教育の持つ力を強く感じた。また、先生方が忙しい中でも生徒一人ひとりに丁寧に向き合う姿勢に深い尊敬の念を抱いた。

これから実習に臨む方々には、完璧を求めすぎず、一つひとつの授業を大切にしてほしいと伝えたい。思い通りにいかないことがあっても、反省を次に生かすことで必ず成長できる。また、仲間や先生方と支え合いながら取り組むことで、実習はより充実したものになるだろう。

短い期間ではあったが、この経験を通じて「教えることの難しさ」と「人に伝えることの楽しさ」を学ぶことができた。今後もこの学びを糧に、人と真摯に向き合う姿勢を忘れずに歩んでいきたい。

教育実習を終えて（小学校）

千葉市立轟町小学校　法学部法律学科4年　下川　真悠子

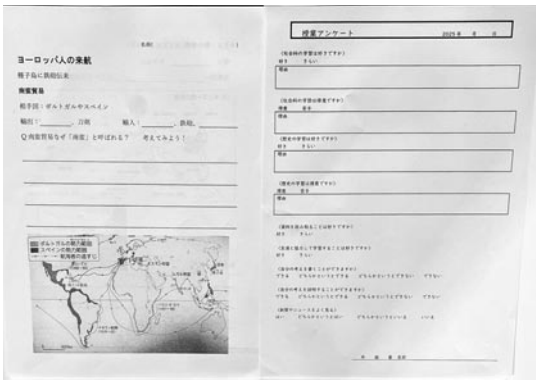
１．はじめに

私は令和７年10月20日から10月31日の２週間、母校である千葉市立轟町小学校で教育実習を行いました。実習では第６学年のクラスを担当させていただきました。最高学年らしい落ち着きがありつつも活気があり、児童同士の仲が良いのが印象的な学級でした。実習期間は研究授業や初任者研修の授業など指導教員の授業だけでなく先生方が快く承諾してくださり多くの授業の見学をさせていただきました。また自分の専門科目であり、精錬授業もさせていただいた社会に加えて、道徳や国語、算数の授業をさせていただきました。そして陸上大会に向けての練習にも参加させていただきました。

２．授業についての学び

私は教育実習で２つのことを学びました。１つ目は教員が安易に答えや解決策を提示せず、児童が自ら思考するための「沈黙」や「時間」を確保することの重要性と、その実践の難しさを深く痛感しました。どうしても小学生にわかりやすい授業をしなくてはという思いから、少しでも教室が静かになったり、手を挙げる人が少数かつ固定化されていると答えを伝えてしまっていました。しかし、教員が待つことで児童が考え抜き、解決のために行動する力を育成することにつながることを教えられました。そして、その後の授業をする時には沈黙や待つことを心掛け、授業を見学させていただく時にも注目するとその静かな時間の中で児童が一生懸命考えて、必死に言葉を紡ごうとしていることを感じることができました。沈黙の中で待つことはとても勇気がいりますが、その空白の時間が児童の自律的な思考を育む土台になることを学びました。

２つ目は授業中の声かけの大切さを改めて感じることができました。発問によって児童の活動の活発さやその内容まで変わってくることはもちろん、児童の考えを深めたり、広げたりするためには個人や全体に向けた追加の声かけが必要であることを実感しました。学習補助として考えたり自分の考えを言葉にすることが苦手な児童を助けるだけでなく、児童が先生は私の考えを肯定してくれる、先生は私を見てくれているという安心感を与えて、クラスの取り組みへの集中力の向上や活動や発言の活発化に直接繋がってきます。教員が発する言葉の持つ影響力の大きさを身をもって実感しました。



３．児童との関わり

小学校の大きな特徴の１つとして、担任と過ごす時間が他の学校種と比べて長く、１日の生活のほとんどを共にします。授業中だけでなく、朝や帰りの会、給食の準備をして共に食べ、休み時間には一緒になり遊び、少しの時間もおしゃべりをする、こうした何気ない時間もまた大切にするべきだとご指導いただきました。そして、その中での何気ない会話や行動から児童の個性や人間関係を理解し、児童との信頼関係を築くことを学びました。その信頼関係が学級運営や授業内の活発な活動や集中した取り組みにつながることがわかりました。また、多くの先生方から誉めることの大切さを繰り返しご指導いただきました。何かができたということだけでなく何気ない習慣や行動、言葉を掬い上げ褒めることが価値づけにつながり、児童の自己肯定感を高め、児童の意識に働きかけ学級をより良いものへとし、学級を児童が安全と思える場にしていくことになるのだと確信しました。

４．おわりに

小学校での教育実習はたった２週間という短い期間でしたが、私とってかけがえのない貴重な経験となりました。たくさんの児童や指導教員をはじめとする先生方から多くのことを教えていただきました。改めて教員という職業のやりがいと責任を感じることができました。この実習で得たこと、感じたことを忘れずにより良い教員を目指して研鑽を積みたいと思います。

介護等の体験を終えて

文学部哲学科3年　根岸　圭吾

１．はじめに

私は、神奈川県立中原支援学校２日間と特別養護施設旭ホーム５日間にて計７日間の介護等の体験をさせていただきました。体験前と体験後で介護等の体験に対するイメージが変わり、教職を目指す学生にとって必要不可欠であり貴重な経験であると感じたので、本稿では実際に介護の現場で感じたことや学んだことをまとめました。

２．特別支援学校

私は高等部１年生のＡ部門に配属されました。Ａ部門では、知的障害を持ち、所々自立が困難であると感じる生徒が在籍しており、配属先の教室では７人の生徒と３人の教師が生活していました。初めての環境に置かれた私は何をすればよいか分からず教室の後ろで黙って立っていました。すると、数名の生徒が緊張しながらも私に話しかけてくれ、すぐに教室の雰囲気になじめることができました。体験中は主に生徒の横で授業や掃除、作業のサポートを行い、休み時間に生徒とコミュニケーションをとりました。初日では全く打ち解けられなかった生徒もいましたが、２日目には先生からの手助けもあり、生徒の好きな話をする等、工夫をしたので、距離を縮めることができました。

２日間の体験を通じて、私は「生徒の可能性を尊重すること」の大切さを深く実感しました。「障害」という側面だけで生徒を一律に判断し、指導の可能性を狭めてはいけません。生徒一人ひとり、どの生徒にも必ず秀でている部分や才能が存在します。ある生徒は初日こそ全く打ち解けられませんでしたが、二日目に好きな話題について話し始めた途端、誰よりも生き生きとして知識を披露してくれて打ち解けてくれました。最後のお別れには、私に感謝の手紙を頂戴しました。介護等の体験をしてよかったと心から感じました。このことから、生徒の「困難なこと」ではなく、他の生徒にはないその子だけの「秀でた部分や情熱」に焦点を当て、その可能性を見出して尊重していく姿勢こそが、教師に求められるべき姿だと感じました。

３．社会福祉施設

社会福祉施設は同時期に私一人での活動となりました。体験内容としては、午前中は利用者のシーツ交換や清掃といった施設業務の補助を担い、午後は利用者の方々とのコミュニケーションを中心としました。午後のコミュニケーション活動では、日常の何気ないお話から、戦後の生活や時代の変遷といった貴重な体験談を伺うことができました。多くの利用者が認知症を抱えており、会話中に何度も自己紹介をしたり、同じ話を繰り返され、まるで時間が巻き戻されているかのような感覚は特に忘れられない経験になりました。そして、最終日には自分が考えたレクレーション発表を施設利用者に向けて行いました。ご高齢の方々に向けて企画を考案することや運営することの難しさはあったものの、そしてレクを楽しんでくださったときの達成感を味わうことができました。

５日間、利用者の生活と声に触れる中で、一人ひとりの人生はかけがえのないものであり、「敬意」をもって接することの大切さを学びました。この体験で学んだ、一人一人の人生や尊厳を重んじる「敬意」の視点を、生徒の個性や可能性を尊重して真摯に成長を見守る教育の基盤としても大いに活かしたいと考えました。

４．おわりに

介護等の体験を通して、教師になるための資質を学ぶ貴重な機会であったのと同時に、人間として成長することができたと思います。これから教師を目指す学生には、介護等の体験を大学のカリキュラムだからと受け身で参加するのではなく、目の前の人々の人生や尊厳に真摯に向き合い、自分の成長の場として主体的な姿勢で臨むよう勧めたいです。

教職公開講座に出席して

文学部歴史学科4年　青柳　拓

＜はじめに＞

近年、教員の働き方改革がICT機器の活用などを通して進められている。私自身も教員を目指す上で、福利厚生や働き方改革に大きく関心を持っていた。教育実習の際には、指導教諭から「よりよい授業を行うために教材研究を徹底してほしい。」とのご意見をいただいた。そのため発問や授業のねらいを常に考えながら教材研究をして、効率よく、そして生徒との関わりを大切にして実習を行った。今回、現役教員の方の働き方や学校の特性に応じた授業構成を学ぶことができると考え、教職公開講座を受講した。

＜先生方のお話から＞

私は第一部で社会・地理歴史・公民科の講演に出席した。講演者は中学校教員の泉颯人先生と高等学校教員の佐藤康平先生で、それぞれの授業実践や働き方についてのお話をいただいた。泉先生は、個別最適な学びを実現するために生徒同士が考えを共有したり、ディスカッションをしたりする時間を多く設けていると話されていた。私は教育実習や模擬授業を通して、生徒が考えやすく話し合いが深まる発問をどのように作成したらよいのかということについて、少しわからなくなってしまっていた。泉先生は1時間の授業で扱う教科書の内容を少し厳選することで、生徒が授業内容の理解だけにとどまらず主体的に授業に参加したり、自分の考えを他者と共有したりできるような授業展開を行っているとのことだった。以上のことについて、私は時間がかかると思うが、授業のねらいに即して教科書の内容を選択し、生徒に考えさせられる授業を展開できるようになりたい。

佐藤先生は、ユニバーサルな授業展開について話してくださった。特にプリントについては左側に授業の発問や番号が付いていてわかりやすく、右側にはメモ欄が設けられていて、授業を受ける生徒が自ら工夫して自分だけのプリントを作ることができると感じた。また、科目ごとに授業形態を変えることで、科目の特性を活かすとともに、生徒が主体的に授業に参加できるように工夫をしているとのことだった。

生徒指導についてはお二方ともに課題を抱えているとのことで、生徒との適切な距離を保つことの難しさについて話されていた。私は川崎市の学校サポーターを2年間継続していて、生徒と適切な距離を保つことは生徒一人ひとりのよさや可能性を見出す上で大切なことと考える。生徒一人ひとりを大切に指導する際には、生徒と信頼関係を築くとともに一定の距離を保ち、客観的に生徒を捉える必要があると改めて実感した。その他に佐藤先生は、コーチングスキルやリーガルマインドを持って生徒指導にあたることで生徒・教員ともにその目的や手段を明確にできると話されていて、私もそういった意識を持って、指導にあたりたいと思った。働き方については学校の特性によって異なるということで、各学校によって生徒や環境を異なるため働き方は自分で見出していく必要があると感じた。

第二部では、山本周一校長先生の今後の教員に期待することについてのお話をいただいた。特に教科教育のお話の中で、授業内容の深い理解としての専門性や単元・領域のねらい等に関わる教育としての専門性、学習指導案等の授業におけるポイントをお聞きすることができた。そのお陰で、教員になる前の現段階で自分には何ができるのか、何をしなければいけないのかといったところを明確にすることができた。これからは、残りの卒業までの期間をより充実させたいと思う。

＜おわりに＞

今回の教職公開講座は働き方や授業実践、教員に期待されることといった教員を目指す人の不安を少しでも軽くするような内容で構成されていたので、今後教員になる学生や教員を目指すか迷っている学生にとって、とても貴重な機会になったと思う。

専修大学教育学会に出席して

国際コミュニケーション学部日本語学科4年　石橋　優

１．はじめに

「未来をつくる学び―学校教育×社会教育協働のチカラ」というテーマで、倉持伸江先生から現代社会における教育の意味や、社会に開かれた教育課程の実現のポイントについてお話しいただいた。また、社会教育の実践報告として真壁直人先生から「地域学校協働活動とコミュニティスクール」、武田麻紀子先生から「社会教育の３つの視点―国際教育・先人教育・防災教育―」についてお話しいただいた。

２．学校教育と社会教育の協働

現代社会の特徴として、予測困難で変化の激しい「VUCA 時代」や少子高齢化社会、AI との共生が求められる社会など、数多くのことが頭に浮かぶ。そして、今回の先生のお話を通して、私は新たに「生き方が多様化する人生 100 年時代」という視点を学ぶことができた。今日では、やりたいことや生きがいも多様化し、再発見・再創造を繰り返す循環型へと変化していることを知った。そのことが、学校だけで子どもたちを支えることが厳しくなっている現状と結びついていると感じた。だからこそ、学校・家庭・地域が、子どもを核において協働することの重要性を強く感じた。

一方で、協働の促進が求められる中でも、「まずリスクが浮かんでしまい、初めの一歩を踏み出しにくい」というお話があった。今回、「子ども・学校・地域」の三者の立場における協働のメリットとデメリットについて、周りの人と考える時間が設けられた。多様な視点から意見を出し合うことが、リスクを正しく理解し、共に支え合う関係性を築く基盤になると実感できた。

そして、協働を促進するために、課題や目的、家庭で得られた達成感などを共有し、あらゆる立場の人が「ともに育てている」という実感を持てる機会をつくることが鍵であると学んだ。その機会として、現在、登下校の見守り、地域行事への参加などの地域学校協働活動が推進されている。このように、学校と地域の協働が目指されている現状について考えることができ、これから教育に携わる身として貴重な機会となった。相手を尊重する姿勢を大切にしながら、教育課題や日々の取り組みと向き合っていきたい。

３．実践報告

真壁先生による実践報告では、市民センター館において、地域と共にある学校づくりを推進されており、コミュニティスクールの拡大や、学校と地域・社会や産業界のマッチングの推進などに取り組まれていると紹介いただいた。先生のお話から、地域と共に子どもを育てていくために、「学校そのものが開かれたもの」となるよう、取り組みや成果の共有を継続的に行うことが大切であると学んだ。また、今関わっている人だけで支えるのではなく、持続可能な体制を構築し、子どもたちに一貫した学びと環境を紡いでいくことの大切さにも気づかされた。そして、一人ひとりが自分にできることを具体的に考え、発信していく意識と、それを支える環境づくりが大切だと感じた。

武田先生による実践報告では、JICA での経験や博物館勤務など、学校以外の現場経験を活かした教育について知ることができた。先生のお話を聞いて、どんなことにも学びがあり、自身が経験したことは、将来的に教育活動の糧になると感じた。また、学校という枠から離れた視点を得ることで、これまでの自分の立場を客観的に見つめ直すことができ、自身の成長に繋がると感じた。私も興味関心をもって様々なことに取り組み、自分の世界を少しずつ広げていきたいと思う。そして、お話の端々に地域への愛を感じ、学校を核としつつも地域を理解する姿勢を持ち、相互に歩み寄ることが、連携から協働へと深化を目指す中で大切だと感じた。

４．おわりに

学会を通して、どのような状況でも今の自分にできることを考え、行動に移していきたいと強く感じた。また、取り組みの過程で出会う人との繋がりが温かなものとなるよう、相手を尊重する姿勢や、前向きな学びや気づきの共有を日々大切にしていきたい。

教職総仕上げ「教職実践演習」

法学部政治学科4年　山本　紘正

１．はじめに

教職実践演習とは、これまで４年間の教職課程の科目と教育実習の集大成として履修する授業である。この教職実践演習を通じて最も強く感じたのは、「経験は振り返って言語化することで知へ変わり、財産となる」ということで、教育実習や教職課程の出来事を整理し直し、他者と共有することで将来の糧となる貴重な知的財産を得ることができた。まさに、経験を未来の武器に変える授業であった。

２．授業を通じて学んだこと

授業前半では、教育実習や教職課程を振り返り、自身の学びや他者の経験談を共有した。実習中は、授業準備・生徒対応・学級経営などが同時進行し、どうしても反省の部分が「うまくいった」「難しかった」程度で終えがちである。しかしこの授業の共有の時間では、「何が起きたか」「なぜそうなったか」「どうポジティブに生かすか」と分解して考えることで、反省を具体的な改善案へ変えることができた。また周囲の共有によって、自分が経験していない場面も経験談として聞くことができるため、学びは一人で完結せず、共有した分だけ視野が広がっていく感覚があった。

中盤では、森田先生が提示する現場の課題について、多角的かつ活発な議論が行われた。例えば「運動会屋」などの教員の負担軽減と行事の質を両立させるために、「ビジネスであり教育」という観点から、外部の専門性を活用する選択肢を議論した。また「担任の先生週替わり」といった一風変わったテーマも、教員不足の課題を根性論で抱え込むのではなく、仕組みで解決しようとする実際の学校の事例を通して議論を重ねた。自分たちがどう現場に生かし、落とし込むかを軸に、これまでの経験を踏まえて議論する時間は本当に学びを深める大切な時間であった。先生のユニークな角度からの課題提示は、自分の中にあった「学校はこうあるべき」という先入観や頭の固さを痛感するとともに、いかに「型」に縛られずに自由な視点を持って教育にアプローチしていくか、という姿勢に気づけたのも日々の議論のおかげである。

終盤には班を作り、「大学生に有意義なプレゼン」をテーマに複数の班で発表を行った。テーマが漠然としていたため当初は案が出ず困ったが、漠然である反面、非常に自由でもあった。私の班は学費など大学生活のお金に焦点を当て、大学４年間でどれだけの費用が掛かってきたかを改めて知るプレゼンを行った。一方で、大喜利大会のように場を沸かせた班もあった。教科書通りの正しさよりも、相手に届く工夫が理解や共感につながることを体感した。重要なのは自由さとユニークさ、そして「型」に縛られないかである。しかし同時に、「自由」を求められた瞬間に自由すぎて固まってしまう自分たちの未熟さや弱点にも気づいた。「型」に縛られない自由な視点からの教育アプローチ、今回のプレゼンはまさにその最後の実習であったと感じる。

３．おわりに

本授業を通して、成功と失敗の体験を分解し、仲間との共有を通じて再現性を突き詰めていくことの大切さを再確認でき、現場課題を捉え続ける姿勢の重要性も学ぶことができた。特に、ネガティブな出来事をポジティブに変換し、次の行動へつなげる姿勢は、教職問わず重要であると感じた。課題に向き合う姿勢は周囲にも影響するもので、チームの学び方や成長の仕方、時には生徒の学びの手本にもなるからである。４年間の集大成として得たこの学びを、今後社会に出てからも振り返りと言語化を重ね、仕事や人との関わりの中で活かしていきたい。最後に、教職の枠を超えて一社会人として必要な視点・資質・姿勢を示してくださった森田先生をはじめ、共に「教職実践演習」という授業を創り上げてきたメンバーに心より感謝をしたい。

教科研修生体験レポート

商学部マーケティング学科３年　山田　和孝

私は９月下旬から約２ヶ月間、情報科の教科研修生として専修大学附属高等学校にて１年生の「情報Ⅰ」の授業を見学させていただきました。週１回の活動でしたが、毎回の授業では様々な発見があり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

私が教科研修生に応募した背景には、以下の２点にあります。第一に、来年度行う教育実習に向けて、実際の学校現場がどのような状況にあるのかを知りたいということです。第二に、私自身は商業高校出身だったため、情報科の授業は商業科の別科目に代替されており受けていませんでした。そのため、普通科の高校で開講されている情報科の授業は、これまで受けてきた商業科の授業と比較して何か違いがあるのかなどに興味関心を持っていたということにあります。

専修大学附属高等学校の情報Ⅰの授業は、１時間目と２時間目の２コマ連続で開講されています。この２ヶ月間の私の役目は、授業の観察および２時間目の課題実施時の机間巡視でした。また 11 月中旬から下旬には、授業内での実技試験が行われ、その際の巡視も行いました。

教科研修生の活動をしていく中で、様々な学びがあり、今後行われる教育実習ではこの活動で学んだことを活かした授業実践を行っていこうと感じました。今回は学んだことの中から２点紹介したいと思います。

第一に、想定外の質問が来ても解決する力を有する必要があるという点です。研修期間の授業では表計算ソフトウェアの Excel を扱う回が多くありました。私自身は高校３年間ずっと授業で Excel を学習し、大学でも１年次生の授業でアシスタントとして Excel を教えていたことから授業内で出てくる質問には対応できるだろうと研修開始当時は考えていました。しかしながら、実際に生徒から質問を受けた際、しばしば私自身が想定しない点を問われることがあり、生徒に正確な答えを返せなかった時がありました。その際私は、その時点で持っている知識をフルに活用しながら、生徒と一緒に解決方法がないかを考えることにしました。生徒もこれまで学習してきたことを思い出しながら試行錯誤を重ねてくれ、結果として問題を解決することができました。今回のこの経験を通して、私は想定していなかったことに関する質問が来ても柔軟に対応していくことを、今後意識して取り組んでいかなければならないと考えました。一方で振り返ってみると、今回生徒から投げかけられて答えに苦慮したいくつかの質問は、私に知識があれば答えられたことでした。そのため、どのような質問にも答えられるよう知識をより多く習得することも併せて取り組んでいこうと考えました。

第二に、机間巡視の重要性です。課題を実施している間私が教室内を巡回していると、課題にしっかり取り組んでいる子、取り組み方がわからずにいる子、授業とは全く関係のないことをしている子など、様々な生徒がいることがよく分かりました。このことから、机間巡視は生徒の状況を理解するうえで大切な方法であることを強く実感しました。今後行われる教育実習での教壇実習や研究授業においては、机間巡視を定期的に行い生徒ひとりひとりの状況を確認し、あまり理解ができていなかったら基礎に戻ってもう一度指導するなど、柔軟な授業進行に努めることを意識していきたいと考えました。

最後になりましたが、今回教科研修生として受け入れてくださいました専修大学附属高等学校の先生方、生徒のみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

研修最終日に生徒へ感謝の言葉を述べている様子

専修大学附属高等学校から

私立専修大学附属高等学校　教諭　皆川　諒

１．はじめに

私は、令和７年度より専修大学附属高等学校で芸術科美術の教諭として勤務しています。また、合わせて東京学芸大学教職大学院に進学し、美術・工芸科教育の研究をしています。実際の教育現場に立ち、日々感じていることや大切にしていることなどを述べていきたいと思います。

２．日々の授業実践

本校では、芸術科は美術Ⅰと音楽Ⅰを１年次に選択で履修するカリキュラムになっています。美術の授業では、初回に学びのキーワードとして「観察」と「試行錯誤」という言葉を示しています。表現活動は、鑑賞活動も含めたインプットとアウトプットの繰り返しです。美術作品に限らず日々の暮らしや社会にも目を向け、日常に溢れている美の要素を感じる心や、それを共有する中で多様な価値観に触れることが大切だと考えています。そこで、「観察」を軸に、鑑賞活動を表現活動と絡めて意識的に取り入れたり、生徒の身近な事柄と題材を関連させたりする工夫をしています。また、表現は素材や道具に触れる中で広がっていく部分もあります。そのため、偶然性を活かした授業題材の開発や、柔軟な創造力や豊かな想像力を育むために、生徒が「試行錯誤」できる余白をつくることを大切にしています。

さらに、美術教育では「美術の教育（美術家教育）」と「美術による教育（美術科教育）」という言葉で語られることがあるのですが、教師はその教科の専門家を育てることではなく、教科の学びを通してどのような資質・能力を生徒に身につけさせるかという視点を常にもつ必要があります。そして、そのためには単に学習指導要領を理解するだけでなく、授業者の教育観や思いも非常に大切な要素になるということを、授業づくりや実践の中で改めて実感しています。

３．担任としての取り組み

担任業務に関してはこれまで経験がなく、正直なところ指導の在り方を日々模索しながら生徒と過ごしています。そのため、ここでは初任者という未熟な立場ながらも、担任をする中で考え、取り組んでいることを述べさせていただきます。

よく教育現場では学級経営という言葉を使いますが、私は経営の主体はあくまでも生徒であり、教師はそれを丁寧に見取り伴走していくという姿が理想であると考えています。そこで、生徒一人一人に係や委員などの役割を与えて、学級の一員という意識と責任をもたせるようにしています。また、生徒が主体的に活動できる土壌づくりとして、日頃から学級や生徒を観察し、対話による生徒理解を大切にしています。具体的には、学級の授業を担当している先生方に生徒の様子をうかがったり、教科柄教室にいる時間が少ない分、なるべく放課後は教室に滞在して生徒と交流したりするように心がけています。

もちろん、実際には学校種や学校・学級の実態に合わせて指導の在り方は変えていくことが求められますし、はじめから生徒の主体性に委ねることは難しいため、そのバランス感覚は経験によって身につけていく必要があると感じています。

４．おわりに

以上、授業実践と担任業務に焦点を当てて、日々の取り組みや大切にしていることを述べてきました。おそらく、１年後にはまた違った考えや取り組みになっているのではないかと想像します。しかし、人を相手にする仕事である以上、正解など無いため迷うことは当然であり、むしろ時代や社会、人の変化に合わせて柔軟に変わっていく姿勢こそが教師には求められているのではないでしょうか。

今後も学び続ける姿勢を忘れず、生徒とともに試行錯誤しながら教育活動に精進してまいりたいと思います。この文章をお読みいただいた皆さんと、教育現場でお会いできることを楽しみにしています。

司書・司書教諭・学校司書課程

図書館本館（生田キャンパス９号館）

実学だからこそ、学外でも学びを

経営学部　兼任講師　蓑田　明子

１．図書館情報学は実学

司書や司書教諭の資格取得のために学ぶ学問領域は主に図書館情報学です。図書館学と情報学、もちろん両者に分けがたい領域もありますが、いずれも図書館や情報センター、データベースといった実務と密接にむすび付いている実学です。『精選版　日本国語大辞典』小学館によると「実学」は「（理論的研究・基礎的研究に対して）習った知識や技術がそのまま社会生活に役立つような学問。商学・工学・医学など。」と定義されていて、皆さんも納得できると思います。

実学である図書館情報学（本稿では司書、司書教諭資格課程（以下、司書課程）の科目と言い換えてもいいでしょう。）の学びは、大学の教室での座学、あるいは教科書や関係文献を読むだけでは十分ではありません。授業で学ぶ、グループ討議などの積極的な発言といった講義形式での学習をきちんと積み重ねることで、専門用語や法律など図書館の背景を学習します。情報組織論などの科目で分類や目録、資料の扱い方、児童サービスなどについての実技の知識を体系的に身に付けることも基礎となりますが、資格取得を目指す皆さんには、実学の特徴を理解し、もっと学習を広げ、深めていただきたいです。

ちょうどこの原稿を書き始めた頃、８月31日付東京新聞で本学の山田健太教授のコラム「時代を読む」の「沖縄で学ぶことの大切さ」が目に留まりました。内容は夏の５日間を沖縄で行う実習講義の様子です。山田教授は「大学の教室で学べることはたくさんある。…ビジュアルの教材やアーカイブも近年急速に整備されてきた。それでもやはり、現場に赴く意義は大きい。それは間違いなく、体験の重みだ。」と言います。司書課程も外にも場を求めることで、教室での学びも深まり、一層、図書館の可能性を具体的に考察できるようになります。

２．現場を見る

「体験の重み」を一番実感できるのは、「現場」を見ることでしょう。図書館はもちろん、書店も参考になります。「図書館を見る」はまずは普段利用している図書館を改めて観察してみるのもいいですし、旅先でふらりと寄ってみる、あるいは個人や団体できちんと事前申込みして「見学」するなど色々な方法があります。先日、看護師の方と話していて、私が「旅先でつい図書館を見に行く」と話したら驚かれました。確かに医療関係者が旅先で病院を訪ねても待合室くらいしか体験できません。でも、図書館は開かれている施設ですから、その図書館の利用者のつもりであちこち観察できます。

2025年度の図書館制度・経営論では夏休みに課外活動として、東京国立博物館資料館（以下、東博資料館）の見学会を行いました。きっかけは授業で各館種を学習した際に、「専門図書館に行ったことある人」に手が上がらなかったことでした。では、どこか行ってみようと企画したのです。見学先はいくつか候補がありましたが、博物館も見られることも魅力で東博を選びました。団体で見学する場合は「個人でふらり」とは違い、先方と日程や目的、見学内容などを調整し、受入態勢をとっていただくことが大事です。気持ちよく受け入れていただければ、きちんと対応していただけます。今回は夏休み期間中に設定したので、候補日を複数挙げて学生に

希望調査をし、人数が多かった９月11日にしました。

現地集合で当日、体調不良などで欠席もあり、参加は３人でした。館内は利用者がいるので、施設の概説をエントランスロビーで聞いてから、館内に入りました。東博は明治５年（1872）に日本初の博物館として開設されました。当時は人文科学も科学（今は国立科学博物館）も、あるいは書籍館（国立国会図書館の前身）、動物園（上野動物園）も含めた総合博物館だったそうです。資料館は博物館付属図書館として、明治５年以来の館史資料も多く所蔵しています。所蔵資料は東博が日本・東洋美術工芸品の博物館なので、その収蔵品関係の資料、国内外の博物館・美術館の展示会カタログなど博物館関係資料といくつかの性格があります。それらのコレクションの特徴について、書架を実際に回りながら説明を聞き、一般利用者では入れない閉架書庫にも案内していただき、資料整理の方法や配架方法は受入順の棚もあるなど、公共図書館とは「利用」と「保存」のバランスの考え方が違うことなどが学べました。特徴的な資料として圧巻だったのは、開架室のかなりのスペースを占める写真カードのキャビネットです。Ａ４サイズ程度の厚紙の台紙に資料情報を記載し、大判写真を貼り、１枚ずつ分類ごとにキャビネットに収納しています。中には古い寺院で現物は焼失していて様子が分かるのはここだけという写真もあるそうです。台紙は赤茶けたもの、角が丸くなっているものもあり、歴史の古さと利用されている様子が見て取れました。

最後は会議室で運営体制や利用者の傾向、種別の資料数、他機関との連携や電子化などの近年の状況を詳しく聞きました。見学後は、思い思いに東博や道の反対側の国立国際子ども図書館へ向かいました。

事前に見学先の基礎情報を調べておくと理解が深まります。また、公共図書館を見るポイントは図書館友の会全国連絡会が「図書館を良くして行く為の「私たちの図書館宣言」確認項目」をHPに掲載しています。現地では入口から案内はどうかに始まり、施設の全体像を把握し、館内を回ります。利用案内や館報など広報物も館毎に特徴があるので収集したいです。どんな資料がどう並んでいるか、利用者はどう過ごしているか、職員はどんなサポートや対応をしているかも観察すると興味深いです。自分なりに観点、チェックポイントを決めると他との比較ができ、様々であることを実感できます。図書館見学は良い所も気になることも含めて発見の連続です。

３．講演会などに参加してみる

図書館関係の講演会やワークショップは自分で情報を探す必要がありますが、参加すると最新情報や現場の実例を知ることができます。開催情報は日本図書館協会HPのイベント情報ページや国立国会図書館HPのカレントアウェアネスポータルに【イベント】として載る場合もあります。

４．ニュースを知る

ネットの図書館関係のニュースサイトも情報収集には便利です。「出版・図書館系ニュースClip」や先述のカレントアウェアネスは出版界や外国の事情も見つかるなどそれぞれ特徴があるので、どちらも必見です。

５．おわりに

教室の外での学びは、授業時間以外に取り組むのかと思われる人もいるかもしれませんが、それ自体が科目を限定しない授業の予習復習となるはずです。ぜひ、日常生活の中でも「図書館」に接する考える機会を作ってください。

図書館実習を終えて

文学部日本文学文化学科3年　瀧口　知花

私は８月１日から15日にかけて埼玉県所沢市立所沢図書館本館にて８日間の実習をさせていただきました。所沢市立図書館は本館１つ、分館８つ、地域開放型図書館１つの計10館の図書館が連携してサービスを展開しています。また、全国でも珍しく流動式書架のシステムを採用しているため図書の場所が定まっておらず常に移動し続ける方式となっているのが大きな特徴です。今回実習をさせていただいた所沢市立所沢図書館本館は私の地元の図書館なのですが、普段は分館を利用しているため初めて伺う場所での実習となりました。

８日間の実習では本館の業務である、児童室・資料室・参考室・一般室全ての図書館業務を体験させていただきました。

１つ目は児童室の業務です。児童室はその名の通り児童に関連する業務全般を担っています。

特に印象に残った業務は、毎月の子ども向け定例行事である「親子おはなし会」です。絵本やわらべうたなどを職員や外部の保育士さんを招いて紹介するというものなのですが、子どもたちに一緒に楽しんでもらうための工夫や通常の読み聞かせでは中々見られない大型絵本での読み聞かせがあり、非常に勉強になりました。また、この親子おはなし会は親同士の交流の場にもなっているため、図書館は本を読むだけの場所ではないということを身を持って実感しました。

他にも絵本のPOP作成を行わせていただきました。絵本の選定から行わせていただき、見やすさや文字のデザインなど気をつけるべきポイントがたくさんありました。いつか自分のPOPが子どもたちの絵本を選ぶ理由になればいいなと思いました。

２つ目は資料室の業務です。主に図書館の裏方の業務を行なっており新刊の購入や古くなった本の廃棄、新聞・雑紙などの定期刊行物の管理など図書館の裏方に関わる業務を行っています。

今回本館の業務である、分館用の本の選定作業を行わせていただきました。本のジャンルが偏らないようにすることや、人気の本は大きい図書館に多く置くなどの利用者の方が使いやすいような細かな工夫が知れました。また、図書を長く持たせるための透明なカバー（通称ブッカー）をつける作業も行わせていただきました。図書館の分類ラベル貼りから１つ１つ手作業で行っているためとても時間のかかる作業ということがわかりました。この作業では本が反らないようにカバーをかけることが大変だったのですが、無事に作業が出来て安心しました。図書館の裏方業務は普段利用している際には見ることができないので今回の図書館実習を通じて知ることが出来てとても勉強になりました。

３つ目は一般室の業務です。一般室では主に図書館への本の配架・在架集め、相互貸借の受付、レファレンス業務など多くのことを行わせていただきました。

所沢図書館本館では全ての分館の相互貸借本の受け入れをし、分別する作業を担っているため毎日多くの本が本館に届いていました。分館への仕分け作業など重要な業務をやらせていただき、非常に身の引き締まる思いでした。

また、企画展示を行うという想定で展示コーナー作成をさせていただきました。自分の好きな題材で作成して良いとのことで私は自分の好きな「ミュージカル」で行わせていただきました。作るにあたって実際の展示コーナーを見学したり図書館の蔵書検索から着想を得たりしながら作成を進めていきました。本館や分館から本を集め展示棚を作り、POPの作成まで行うのはとても大変な作業となりましたが、終わった際の達成感は何物にも代えられません。

最後に参考室です。参考室では図書館を利用者のレファレンスサービスを主に行なっており、児童本以外の複写サービス、自習室・館内インターネットの貸出も行っています。

私は過去に所沢図書館に来た実際のレファレンス内容を使い、レファレンス業務練習をさせていただきました。本を探すものからその地域ならではの資料集め業務まで幅広く行わせていただきました。また、レファレンスカウンターが混んでいるときは実際に利用者の方の対応をさせていただき、職員に非常に助かったと声を掛けていただきました。レファレンス業務は正確性が求められるとても重要な業務です。そのため、実習中のなかで特に成長を感じることができる業務でした。

この８日間、実際に図書館で実習を行うことで、座学では知ることの出来ない貴重な体験をさせていただきました。図書館業務の幅広さ、職員から、様々なお話を聞くことができ、とても勉強になりました。

最後になりましたが、お忙しい中ご指導くださった所沢市立所沢図書館の皆様に、心より感謝申し上げます。

卒業生から

株式会社ブレインテック　森本　未祐（平成28年度文学部日本文学文化学科卒業）

●はじめに

私は在学時に司書課程を履修していました。理由は図書館で働く司書になりたかったからです。ですが、現在は図書館ではなく、図書館システムのメーカーに勤めています。私がなぜこの道を選んだのか、そして今どのように働いているのかをお話しながら、「司書になる以外の司書資格の活かし方」をお伝えできればと思います。

●会社について

私が勤務する株式会社ブレインテックは、図書館業務用システムの開発・導入支援・サポートを自社で一貫して行うメーカーです。「図書館業務用システム」というのは要するに図書館員の業務を支援するための道具です。例えば資料データの管理や、貸出・返却の記録、資料の棚卸し作業など、日々の業務を円滑にするための仕組みを提供しています。みなさんも図書館で資料を探す際、OPAC（Online Public Access Catalog）で検索することがあるかと思いますが、こういったことができるのも、その図書館がシステムを導入しているからです。

当社が対象とするお客様は、大規模な公共図書館や大学図書館というよりも、スタッフ1～2名で運営しているような中小規模の図書館です。館種も幅広く、学校の図書室、大学図書館、病院図書室、企業内の図書室など全国約900館で稼働しています。

OPACでの検索

●就職活動

私が図書館関連企業への就職を意識したのは、大学3年生の時に「図書館総合展」という図書館業界の展示会に参加したことがきっかけでした。本来は図書館関係者が情報収集のために参加する場ですが、学生向けのツアーが開催されていたため就職活動の一環として参加をしました。そこでは図書館関連のIT企業もあれば、資料の除菌システムもあり、図書館業務のアウトソーシング、書棚や図書館ゲートなどの什器、図書館用品、レファレンスツール、電子書籍を扱う企業など、世の中には図書館の運営を成立させるために、様々な仕事があるということを知りました。司書資格を活かすのであれば「図書館」で働くという道しかないと思っていましたが、「様々な図書館を支える」働き方をしたいと考えるようになり今に至ります。

●入社から現在まで

入社後はカスタマーサポートの部署に所属し、お客様の問い合わせやトラブルの解決、導入作業やメンテナンスなどを行っていました。当社のシステムを通じて図書館の課題が解決し、運営がスムーズになっている場面に立ち会えた時、この仕事の醍醐味を感じていました。現在は広報・総務系の部署に移り、バックオフィス業務を担当しています。図書館に関連する業務からは遠ざかったように見えますが、「『様々な図書館を支える』人たちを支える」という役割になり、より広義の「図書館を支える」仕事になったと感じています。

会社のエントランス

●おわりに

私にとって司書資格は、働く上でお客様と信頼関係を築く助けになっています。当社のお客様は「一人職場」の方が少なくありません。日々一人で考え、一人で業務をしていらっしゃいます。そうした方に対し、図書館の役割や司書の業務を理解している存在として相談に乗り、システム面で補佐できるのが今の仕事だと思っています。

名刺に「有資格：司書」の記載があると安心していただけることが多く、それは図書館学の前提知識があるということで「自館の課題を理解してもらえる」という期待を寄せてくださるからだと思います。その分プレッシャーもあるのですが、資格という形で信頼の足がかりとなっている点では取得してよかったと思います。

「司書になる以外の司書資格の活かし方」をお話しましたが、就職先を考える際は司書という職種だけではなく、その周辺領域にも目を向けてみてください。幅広く情報を集めた上で、みなさんが納得できる進路を選び、活躍できるよう願っています。

Knowledge Base（神田キャンパス 10 号館）

学 芸 員 課 程

展示実習室（生田キャンパス２号館）

地方公共団体の文化財保護業務について

深谷市教育委員会文化振興課　中林　菖

１．はじめに

私は令和３年に修士課程を修了した後、深谷市教育委員会文化振興課に就職しました。勤務場所は深谷市役所ですが、発掘現場や文化財管理センターなどを往来しながら、日々埋蔵文化財に関する業務を行っています。ここでは、その業務内容を①発掘調査、②整理作業、③公開・活用事業の３つに分けて紹介していきます。

２．業務内容について

深谷市は埼玉県北西部に位置しており、市内には様々な時代の文化財が存在しています。私の所属する深谷市教育委員会文化振興課では、こうした文化財の調査・保存・普及活動などを主に行っています。この中でも、私は埋蔵文化財保護業務を担当しています。埋蔵文化財とは、文字通り土地に埋蔵されている文化財のことであり、主に遺跡（貝塚・住居跡・古墳など）や遺物（遺跡から出土した土器や埴輪など）のことを指します。開発工事によって埋蔵文化財が破壊される可能性がある場合、我々は開発側と協議を行い、事前に試掘・発掘調査を行うことで、遺跡の記録保存を行います。これが私の主な業務内容であり、年間業務の大半が屋外、あるいは文化財センターでの作業となります。

（１）埋蔵文化財の発掘調査

日本の各市町村では、毎年約 8,000 件の発掘調査がおこなわれているとされています。深谷市では、大小含め年間で５件程度の発掘調査を実施しています。この発掘調査は、遺跡の記録作業でもあると同時に破壊行為でもあるため、遺跡を調査前の状態に復元することはできません。そのため、本来であれば遺跡の現状保存が最も望ましく、開発工事が判明した場合は、まずは我々も遺跡の保護を最優先で考えています。つまり、発掘調査は遺跡保護ができない場合の最終手段であり、我々は好き好んで各所で土を掘っているわけではないのです。

この発掘調査の手順としては、はじめに重機で調査区全体を掘り下げ、細部は人の手で慎重に掘削していきます。そして、その途中で出土した遺物の位置や深さ、土の堆積状況などを図化していきます。これらが遺跡の年代を考えるための重要な手がかりとなります。合わせて写真撮影や測量を行いながら、可能な限り情報を書き残していきます。

当然ですが、こうした発掘調査は、必ず決められた予算と期限の中で行わなければなりません。我々職員は、任用する作業員の数、調査の手順、測量方法などを考え、費用や作業日数をうまく調整していく必要があります。作業期間は雨や強風など天候によって前後する場合が多いため、梅雨の時期は常にお天気アプリから目を離せません。順調に進まないことも多いですが、こうした調査の中で、貴重な遺構や遺物と巡り合えた時の喜びは格段に大きいです。

発掘調査の様子

（２）埋蔵文化財の整理作業

調査が終わればそれで終了ではなく、次に出土遺物や図面類を整理する必要があります。深谷市では、川本出土文化財管理センターという施設に市内から出土したすべての遺物や資料を収蔵・管理しています。センター内では整理作業員 14 名程度を任用しており、遺物の洗浄や接合、注記、実測などを行ってもらいます。その業務を取りまとめ、指示を出すことも私たち埋蔵文化財専門職員の仕事です。時には小指の爪ほどの小破片を探し回り、時には夥しい数の土器の実測図を作成するなど、根気と忍耐力を求められる場面も多々あります。また、出土遺物が多い調査では、整理作業に数年もかかることもあります。実際、令和５年度に実施した発掘調査では、1,000 点以上の土器が出土し、その整理作業には２年近くの時間がかかっていま

整理作業の様子

す。こうした地道な作業を経て、最終的には遺跡発掘報告書という冊子を刊行します。この報告書は、基本的に実施した発掘調査の概要や成果、遺物実測図や写真などから構成されており、より正確で簡潔な内容が求められます。自身の手で発掘した遺物を観察・検討し、調査成果をまとめることは簡単な作業ではありませんが、無事に報告書が刊行された際の喜びと達成感は何ものにも代えることはできません。そして、この報告書を各市町村や図書館に配布することで、遺跡および調査の周知を図っています。

（３）埋蔵文化財の公開・活用

埋蔵文化財は国民の共有財産とされており、できる限りその情報を国民に公開する必要があります。当然ながら、どれだけ調査・保存を積み重ねたとしても、この情報が地域住民に還元されなければ何の意味もありません。近年では、この文化財活用事業に力を入れる自治体が多く、深谷市としても様々な取り組みを行っています。特に、川本出土文化財管理センター内の展示室では、市内から出土した様々な遺物を展示しています。また、令和６年度は、「発掘された古代の幡羅地区」と題し、奈良・平安時代に焦点を当てた企画展示を実施しました。この展示担当者は私でしたが、その企画から実施に至るまで、学生時代に学芸員課程で学んだ多くの知識・経験を活かすことができたように思います。特に、何をメインにレイアウトするか？展示遺物の量は適切か？解説パネルは読みやすいか？来館者の導線は確保できているか？など、様々な観点から展示全体を客観的に検討することができました。実際にゼロから展示内容を考えることで、これまでの知識が改めて身についたと実感しています。以降の展示作業では、来館者目線を一番大切にし、誰もが分かりやすい展示作りを意識しています。さらに、最近では、近接する周辺市町村と協力した地域連携展示も実施しており、文化財公開の場を広げています。こうした取り組みを通じ、他市町村の職員との交流を深めることもできています。

展示以外でも、市内小学生を対象とした土器作り体験教室の開催や、出前授業の実施など様々な取り組みも行っています。小学生は新鮮な反応をしてくれる反面、興味を失うタイミングも早く、いかに彼らの関心を引くかを考えつつ、自分も楽しみながら話すよう心がけています。学習の最後に、歴史がすごく好きになりました！という言葉をもらった時には、非常に感動しました。また、予期せぬ鋭い質問をされることも多く、内心は常にハラハラしています。

企画展示の様子

３．おわりに

簡単ではありますが、以上が私の主な業務内容になります。文化財の調査から活用事業に至るまで、一貫して１つの文化財事業に向き合うことができる点がこの仕事の魅力であり、面白いところだと思っています。言い方を変えれば、文化財を生かすも殺すも担当者次第になるので、最低限の文化財の扱い方を把握しておく必要があります。私自身、日々の調査や整理作業を通じて様々なことを学んでいますが、こうした根底には、やはり学芸員課程で学んだ知識や経験があるのだと常々感じています。

文化財保護業務といっても、その業務内容は各自治体によって多岐にわたります。普段はこの業務内容は見えにくいとは思いますが、展示やイベント・講演会など、文化財に触れる機会も数多く設けられています。こうした場所に積極的に足を運び、知見を広げてみることも大切だと思います。来館者ではなく、運営側の視点から全体を考えてみることで、色々と見えてくることもあるかもしれません。何より、各地域にどのような文化財があり、それをどのように活用しているのかを少し把握しておくだけでも、将来の職種・勤務場所選択の際に大きく役立つと思います。将来的に学芸員を目指さないとしても、地域の歴史や文化財に対する見方や考え方は確実に変わると思います。

これまで長々と述べてきましたが、地方公共団体の文化財職員の業務内容やそのやりがいについて少しでも知っていただき、学芸員課程を履修している方、履修を考えている方々の今後のお役に立てたのなら幸いです。

博物館実習を終えて

大田区立郷土博物館　文学部哲学科3年　荻野　弥英

私は８月19日から28日の間に計９日、東京都大田区にある大田区立郷土博物館で実習を行いました。大田区立郷土博物館は、人文学系の博物館で考古・歴史・民俗の各分野の資料を取り扱い、区民の文化・学術の発展に寄与することを目的とした施設です。

実習では博物館業務や展示に関する講義、体験学習会のお手伝い、そして自分たちでパネル展示を企画し制作するという実践的なことも経験させていただきました。

まず、実習先を選ぶにあたり、私は当初歴史系の博物館を希望していませんでした。それは、私が哲学科に所属し、歴史学が専門ではなかったため、歴史系の博物館での実習を不安に思っていたからです。しかし、高島先生に相談させていただいた際に、歴史系の博物館でも専門である哲学を活かすことは十分にできるとアドバイスをいただき、チャレンジをしてみようと思い、この館を実習先に選びました。実習を行っていく中で、私が当初抱いた不安はただの杞憂だったとわかりました。今回の実習では大田区立郷土博物館に所属する６人の学芸員の方から指導を受けました。それぞれの方は自分の専門という軸を持ちつつ、専門以外のことも興味を持つことで、広い視野を得ていました。調査・研究を担う学芸員にとって、固定観念にとらわれずに多角的な視点を持つことが重要なのだとわかりました。

そして、実習の中で特に印象に残ったことが２つあります。１つ目は体験学習会「多摩川台公園古墳めぐり」です。この体験学習会では、主に小学生とその保護者を対象とし、多摩川台公園内にある古墳展示室、多摩川台古墳群を巡りながら学芸員の方が解説を行います。体験学習会の中では、会場設営、受付をさせていただき、その後学習会の様子を見学させていただきました。その中で、担当の学芸員の方からお話を伺うこともできました。多摩川台公園は近隣の方にとって身近な場所です。しかし、公園内に古墳があることを知らない人も多く、周知を行っているものの成果が上がっていないことに、頭を悩ませていることを知ることができました。また、体験学習会後には学芸員の方とともに学習会をよりよくするために実習生と意見交換も行いました。対象の年齢に合わせ、簡単なクイズ形式でわかりやすいように工夫を行っていましたが、現状に満足せずにより参加者が楽しく理解できるように考え、改良を続けようとする姿勢がとても印象的でした。このことから、周知や学習のためには地道な努力が重要なのだと実感しました。

２つ目は、パネル展の制作です。今回の実習では私を含め９人の実習生がおり、３人１組になり、実習の２日目からその他の実習の合間を縫いながら企画をし、最後の３日間で展示制作を行いました。大田区立郷土博物館のエントランスの一画を使ったパネル展で、１つの班で使用するスペースは１メートル四方も無い小さな展示でしたが、企画・構成にはとても苦労しました。展示制作を通して、工夫することの大切さを学びました。

実習生によるパネル展示（全景）

私の班で制作したパネル

限られたスペースで魅力的な展示を作成するためには、文字の大きさや行間、画像の配置、パネルどうしの間隔を工夫する必要がありました。文章を作成する中でも、見た人が誤解を受けないよう、わかりやすく簡潔に伝えるために班員と相談したり、学芸員の方にアドバイスをいただいたりしながら、工夫を重ねていきました。実習の最終日には制作したパネル展示の解説を学芸員の方々に対して行い、講評もいただきました。まだ改善する部分も多く、納得する出来とは言えませんでしたが、パネルを制作する中で大田区の歴史をより深く学び、班員と協力する大切さも身にしみて感じることができました。

９日間の実習と通し、多くの資料に触れ、学芸員の方々の交流を持ったことで、座学だけでは学ぶことのできないことを経験することができました。今回の実習で学んだことを糧にして、今後の学びを深めていきたいと思います。

博物館実習を終えて

対馬博物館　文学部歴史学科3年　阿比留　彩

私は、９月９日から13日にかけての５日間、長崎県対馬市の対馬博物館にて実習を行いました。対馬博物館は、対馬の歴史や自然について展示を行っている総合博物館です。また、長崎県立対馬歴史民俗資料館の後身となる長崎県対馬歴史研究センターが博物館内に設置されており、宗家文書の調査研究等を行っています。

私は神奈川県の出身ですが、首都圏の博物館は４年次が優先の館や面接が必要な館も多く、教職課程の実習と重なってしまう可能性があったため、地方の館で実習を行おうと考えました。中でも、対馬は祖父の出身地であり、私自身も大学で対馬の近代史について勉強していたため、対馬博物館で実習を行いました。実習生は私含め２人で、もう１人は対馬の昆虫について研究している方でした。その方はホテルに宿泊していましたが、私は祖父の家からバスに乗って博物館まで通いました。

資料を扱う実習では、資料を燻蒸室から運び出し、クリーニングや整理を行い、収蔵庫に収めるまでの一連の作業を行いました。離島である対馬には、燻蒸に使用する化学物質を持ち込むことが難しいため、窒素を使用して無酸素状態にすることで燻蒸を行っていました。

文書資料のクリーニング 作業

また、収蔵庫には、鍵がかかったスペースがあり、そちらには歴史研究センターの資料が収蔵されていました。学芸員の方は、ゾーニングは資料の保管性と職員の利便性のバランスをどう取るかで対応が変わってくるため、対馬博物館のようにひとつの建物に複数の組織が入っている場合は、ゾーニングの考え方の統一が必要とのことでした。館の組織や立地ならではの運用がなされていることを学びました。

資料としては、文書資料・考古資料・標本資料の３種類の資料を扱いましたが、特に印象深かった資料は文書資料です。実習で扱ったのは、対馬の有名な醤油屋から寄贈された文書で、写真や手紙、日記などの様々な資料が混在していました。ハケを使って煤や汚れを除去するクリーニング作業では、ページが綴じられている中央部分は重点的に掃除する、カラー印刷がされている部分は優しく掃除するといった知識について、実際に資料を扱う中で学習しました。自分が専門としている近代史の資料に実際に触れる貴重な経験になりました。

来館者から見える部分での実習としては展示業務・監視・ワークショップの手伝いを行いました。展示業務では、大きな絵を壁に展示しました。当初は絵を貼るための磁石を水平に設置しましたが、絵が布地に描かれていたため、皺になってしまう問題が出てきました。そのため、直線に合わせることよりも綺麗に見せることを優先して、試行錯誤を重ねながら設置しました。

特別展の展示作業（右が筆者）

ワークショップではニホンミツバチの採蜜体験を行いました。実習生は補助的な役割だったため、参加者のお子さんのサポートや、ワークショップに参加していない一般の来館者の対応などを行いました。参加者は全て地元の方でしたが、来館者は韓国の方中心に海外からの方も多く、何度か英語で話しかけられる事がありました。学芸員の方の中には韓国語や英語が話せる方も多く、来館者と関わる上でコミュニケーション能力や語学力も必要であると感じました。

今回の実習では、博物館の具体的な業務について、資料に触れ、来館者の方と関わりながら学ぶことができました。実習中、担当学芸員の方が「最善の対応ではなくても、最適の対応を模索することが必要」と仰っていたことが印象に残っています。実際に、実習を行う中で、講義で習った対応とは異なることも多くありました。実際の業務では資料の種類や館の状況等に応じて最適な措置が求められており、柔軟な対応・運用が必要であることを学びました。この経験を今後の活動に活かし、資格取得に向けて努力を続けていきたいと思います。

「私立専修大学」と改称した頃

データ編

２号館・３号館（奥）（生田キャンパス）

令和７年度　教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

令和７年５月１日　現在

区分	学部	学科	１年次	２年次	３年次	４年次	合計
一部	経済	経済	－	－	－	0	0
		現代経済	4	8	7	5	24
		生活環境経済	14	6	12	9	41
		国際経済	9	10	6	4	29
	法	法律	13	30	17	24	84
		政治	8	17	5	10	40
	経営	経営	10	18	12	8	48
	商	マーケティング	21	8	14	7	50
		会計	4	1	4	3	12
	文	日本語	－	－	－	0	0
		日本文学文化	24	19	16	13	72
		英語英米文	18	28	18	27	91
		哲	13	10	4	6	33
		歴史	54	46	43	29	172
		環境地理	9	5	12	3	29
		人文・ジャーナリズム	－	－	－	0	0
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	25	15	21	18	79
	人間科	心理	2	6	3	2	13
		社会	14	15	8	13	50
	国際コミュニケーション	日本語	10	17	8	21	56
	小計		252	259	210	202	923
二部	経済	経済	－	－	－	0	0
	法	法律	－	－	－	0	0
	商	マーケティング	－	－	－	0	0
	小計		－	－	－	0	0
合計			252	259	210	202	923
科目等履修生			－	－	－	－	5
大学院生			－	－	－	－	3
総合計			252	259	210	202	931

1　４年次には，５年次以上も含む。
2　経営学部ビジネスデザイン学科,文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は，履修できない。

司書課程

区分	学部	学科	１年次	２年次	３年次	４年次	合計
一部	経済	経済	－	－	－	0	0
		現代経済	0	1	1	2	4
		生活環境経済	1	0	2	0	3
		国際経済	1	0	0	1	2
	法	法律	0	1	2	1	4
		政治	0	1	3	0	4
	経営	経営	0	0	2	0	2
		ビジネスデザイン	0	0	0	1	1
	商	マーケティング	0	1	1	0	2
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	－	－	－	0	0
		日本文学文化	7	12	26	9	54
		英語英米文	2	2	6	3	13
		哲	0	5	8	1	14
		歴史	0	3	8	4	15
		環境地理	0	0	1	0	1
		人文・ジャーナリズム	－	－	－	0	0
		ジャーナリズム	2	5	6	8	21
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	2	3	3	8
	人間科	心理	0	3	2	3	8
		社会	3	2	6	4	15
	国際コミュニケーション	日本語	0	4	2	0	6
		異文化コミュニケーション	0	0	2	0	2
	小計		16	42	81	40	179
二部	経済	経済	－	－	－	0	0
	法	法律	－	－	－	0	0
	商	マーケティング	－	－	－	0	0
	小計		－	－	－	0	0
合計			16	42	81	40	179
科目等履修生			－	－	－	－	2
大学院生			－	－	－	－	0
総合計			16	42	81	40	181

1　４年次には，５年次以上も含む。

司書教諭課程

区分	学部	学科	１年次	２年次	３年次	４年次	合計
一部	経済	経済	－	－	－	0	0
		現代経済	0	0	1	1	2
		生活環境経済	0	0	0	0	0
		国際経済	0	0	0	0	0
	法	法律	0	1	0	2	3
		政治	0	1	1	0	2
	経営	経営	0	0	0	0	0
	商	マーケティング	0	1	0	0	1
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	－	－	－	0	0
		日本文学文化	2	11	7	1	21
		英語英米文	1	2	0	1	4
		哲	1	3	3	0	7
		歴史	0	3	1	0	4
		環境地理	0	0	0	0	0
		人文・ジャーナリズム	－	－	－	0	0
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	2	1	6	9
	人間科	心理	0	0	0	1	1
		社会	0	1	1	4	6
	国際コミュニケーション	日本語	0	4	2	0	6
	小計		4	29	17	16	66
二部	経済	経済	－	－	－	0	0
	法	法律	－	－	－	0	0
	商	マーケティング	－	－	－	0	0
	小計		－	－	－	0	0
合計			4	29	17	16	66
科目等履修生			－	－	－	－	0
大学院生			－	－	－	－	0
総合計			4	29	17	16	66

1　４年次には，５年次以上も含む。
2　経営学部ビジネスデザイン学科,文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は，履修できない。

学校司書課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	–	–	–	0	0
		現代経済	0	0	1	1	2
		生活環境経済	0	0	1	0	1
		国際経済	0	0	0	0	0
	法	法律	0	0	1	0	1
		政治	0	0	0	0	0
	経営	経営	0	0	0	0	0
		ビジネスデザイン	0	0	0	1	1
	商	マーケティング	0	0	1	0	1
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	–	–	–	0	0
		日本文学文化	0	7	13	2	22
		英語英米文	0	2	4	1	7
		哲	0	0	3	1	4
		歴史	0	1	6	0	7
		環境地理	0	0	0	0	0
		人文・ジャーナリズム	–	–	–	0	0
		ジャーナリズム	1	2	2	3	8
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	1	2	3	6
	人間科	心理	0	2	0	2	4
		社会	0	0	4	1	5
	国際コミュニケーション	日本語	0	1	0	0	1
		異文化コミュニケーション	0	0	0	0	0
	小計		1	16	38	15	70
二部	経済	経済	–	–	–	0	0
	法	法律	–	–	–	0	0
	商	マーケティング	–	–	–	0	0
	小計		–	–	–	0	0
合計			1	16	38	15	70
科目等履修生			–	–	–	–	2
大学院生			–	–	–	–	0
総合計			1	16	38	15	72

1　4年次には，5年次以上も含む。

学芸員課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	–	–	–	0	0
		現代経済	0	2	0	0	2
		生活環境経済	1	2	1	0	4
		国際経済	0	1	2	1	4
	法	法律	1	1	1	0	3
		政治	0	0	2	0	2
	経営	経営	0	0	1	0	1
		ビジネスデザイン	0	0	0	0	0
	商	マーケティング	0	0	1	0	1
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	–	–	–	0	0
		日本文学文化	8	6	8	2	24
		英語英米文	1	2	0	0	3
		哲	7	3	5	3	18
		歴史	25	22	29	4	80
		環境地理	1	2	0	0	3
		人文・ジャーナリズム	–	–	–	0	0
		ジャーナリズム	3	6	4	3	16
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	3	2	0	0	5
	人間科	心理	2	4	4	0	10
		社会	2	3	2	0	7
	国際コミュニケーション	日本語	0	0	0	0	0
		異文化コミュニケーション	0	0	1	0	1
	小計		54	56	61	13	184
二部	経済	経済	–	–	–	0	0
	法	法律	–	–	–	0	0
	商	マーケティング	–	–	–	0	0
	小計		–	–	–	0	0
合計			54	56	61	13	184
科目等履修生			–	–	–	–	1
大学院生			–	–	–	–	1
総合計			54	56	61	13	186

1　4年次には，5年次以上も含む。

令和７年度　教育職員免許状取得件数

区分	学部	学科	取得人数	中学１種 教科	中学１種 件数	高校１種 教科	高校１種 件数	中学専修 教科	中学専修 件数	高校専修 教科	高校専修 件数	合計
一部	経済	経済	0	社会	0	地理歴史	0	－	－	－	－	0
						公民	0					
						商業	0					
		現代経済	4	社会	2	公民	4	－	－	－	－	6
		生活環境経済	6	社会	5	公民	6	－	－	－	－	11
		国際経済	3	社会	2	地理歴史	3	－	－	－	－	7
						公民	2					
						商業	0					
	法	法律	21	社会	18	地理歴史	18	－	－	－	－	56
						公民	20					
		政治	9	社会	7	地理歴史	9	－	－	－	－	24
						公民	8					
	経営	経営	7	社会	4	公民	3	－	－	－	－	10
						商業	3					
						情報	0					
	商	マーケティング	7	社会	0	地理歴史	0	－	－	－	－	8
						公民	2					
						商業	5					
						情報	1					
		会計	3	－	－	商業	3	－	－	－	－	3
	文	日本語	0	国語	0	国語	0	－	－	－	－	0
		日本文学文化	11	国語	6	国語	11	－	－	－	－	17
						書道	0					
		英語英米文	24	外国語(英語)	23	外国語(英語)	24	－	－	－	－	47
		哲	6	社会	5	地理歴史	5	－	－	－	－	16
						公民	6					
		歴史	27	社会	26	地理歴史	25	－	－	－	－	76
						公民	25					
		環境地理	1	社会	1	地理歴史	1	－	－	－	－	3
						公民	1					
		人文・ジャーナリズム	0	社会	0	地理歴史	0	－	－	－	－	0
						公民	0					
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	16	数学	12	数学	13	－	－	－	－	32
						情報	7					
	人間科	心理	2	社会	2	公民	2	－	－	－	－	4
		社会	12	社会	11	地理歴史	10	－	－	－	－	32
						公民	11					
	国際コミュニケーション	日本語	19	国語	15	国語	19	－	－	－	－	34
	小計		178	－	139	－	247	－	－	－	－	386
二部	経済	経済	0	社会	0	地理歴史	0	－	－	－	－	0
						公民	0					
						商業	0					
	法	法律	0	社会	0	地理歴史	0	－	－	－	－	0
						公民	0					
	商	マーケティング	0	社会	0	地理歴史	0	－	－	－	－	0
						公民	0					
						商業	0					
	小計		0	－	0	－	0	－	－	－	－	0
科目等履修生			3	国語	2	国語	2	－	－	－	－	6
						書道	0					
				外国語(英語)	0	外国語(英語)	0					
				社会	1	地理歴史	0					
						公民	1					
						商業	0					
						情報	0					
				数学	0	数学	0					
小計			3	－	3	－	3	－	－	－	－	6
大学院生			4	－	－	－	－	国語	0	国語	0	7
				－	－	－	－	外国語(英語)	0	外国語(英語)	0	
				－	－	－	－	社会	3	地理歴史	2	
										公民	2	
										商業	0	
										情報	0	
小計			4	－	－	－	－	－	3	－	4	7
合計			185	－	142	－	250	－	3	－	4	399

1　この表は，教員免許状一括申請をした数である。
2　経済学部経済学科の 2019 年度以降入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
3　経済学部国際経済学科の 2019 年度以降入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
4　商学部マーケティング学科の 2019 年度以降入学者は高等学校地理歴史の免許状を取得できない。

令和７年度　司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学部	学科	司書	司書教諭	学校司書	学芸員
一部	経済	経済	0	0	0	0
		現代経済	2	0	1	0
		生活環境経済	0	1	0	0
		国際経済	2	0	1	1
	法	法律	1	1	0	0
		政治	0	0	0	0
	経営	経営	0	1	0	0
		ビジネスデザイン	1	－	1	0
	商	マーケティング	0	0	0	0
		会計	0	0	0	0
	文	日本語	0	0	0	0
		日本文学文化	21	0	9	10
		英語英米文	0	1	0	3
		哲	2	0	2	4
		歴史	3	0	1	25
		環境地理	0	0	0	1
		人文・ジャーナリズム	0	0	0	0
		ジャーナリズム	9	－	7	5
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	1	2	2	0
	人間科	心理	2	0	1	0
		社会	4	2	1	2
	国際コミュニケーション	日本語	6	3	1	0
		異文化コミュニケーション	0	－	0	0
	小計		54	11	27	51
二部	経済	経済	0	0	0	0
	法	法律	0	0	0	0
	商	マーケティング	0	0	0	0
	小計		0	0	0	0
科目等履修生			0	0	2	0
大学院生			0	0	0	1
合計			54	11	29	52

令和 7 年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実　習　学　生		
				学　部	学　科	専　攻
北海道・東北	北海道	北海道室蘭清水丘高等学校	地理歴史	文	歴史	
	北海道	札幌市立前田中学校	社会	人間科	社会	
	青森県	八戸市立白山台中学校	社会	経済	国際経済	
	宮城県	東北学院榴ケ岡高等学校	公民	文	哲	
	宮城県	宮城県仙台東高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	宮城県	宮城県気仙沼高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	山形県	山形県立山形南高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	福島県	白河市立東中学校	英語	文	英語英米文	
	福島県	矢祭町立矢祭中学校	社会	文	歴史	
	福島県	福島県立白河高等学校	地理歴史	文	環境地理	
関東	茨城県	坂東市立岩井中学校	社会	経済	現代経済	
	茨城県	水戸市立見川中学校	社会	文	歴史	
	茨城県	常陸大宮市立第二中学校	社会	人間科	社会	
	茨城県	茨城県立鉾田第一高等学校	地理歴史・公民	人間科	社会	
	栃木県	宇都宮短期大学附属高等学校	公民	経済	現代経済	
	栃木県	國學院大學栃木高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	栃木県	宇都宮市立河内中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	経営	経営	
	埼玉県	埼玉県立秩父高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	埼玉県	秩父市立南小学校	全科	経済	生活環境経済	
	埼玉県	ふじみ野市立福岡中学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	埼玉県立和光国際高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	埼玉県立川口高等学校	公民	文	哲	
	埼玉県	川口市立安行中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	春日部共栄高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	さいたま市立泰平中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	さいたま市立八王子中学校	社会	人間科	社会	
	埼玉県	川越市立霞ケ関東中学校	社会	人間科	社会	
	埼玉県	埼玉県立蕨高等学校	公民	人間科	社会	
	千葉県	千葉市立打瀬中学校	社会	経済	生活環境経済	
	千葉県	クラーク記念国際高等学校	国語	文	日本文学文化	
	千葉県	日出学園中学・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	千葉県	木更津市立木更津第二中学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉市立稲毛中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	市川市立第三中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	銚子市立第二中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	昭和第一高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	東京都	町田市立忠生中学校	社会	経済	生活環境経済	
	東京都	府中市立府中第五中学校	社会	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	実践学園中学・高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	世田谷区立玉川中学校	社会	経営	経営	
	東京都	東京都立小平南高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	渋谷区立原宿外苑中学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	飛鳥未来高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立富士高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立清瀬高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立成瀬高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立成瀬高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	渋谷区立渋谷本町学園中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	三鷹市立第二中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	町田市立町田第三中学校	英語	文	英語英米文	

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実　習　学　生		
				学　部	学　科	専　攻
関東	東京都	東京都市大学等々力中学校・高等学校	社会・地理歴史・公民	文	哲	
	東京都	東京大学教育学部附属中等教育学校	社会・地理歴史・公民	文	哲	
	東京都	町田市立町田第二中学校	社会	文	歴史	
	東京都	多摩市立多摩中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立田園調布高等学校	地理歴史（日本史）	文	歴史	
	東京都	八王子実践高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	実践学園高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	宝仙学園中学校・高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京都立田園調布高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	田園調布学園中等部・高等部	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	新宿区立新宿中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	立川市立立川第一中学校	社会	人間科	心理	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史・公民	人間科	社会	
	東京都	八王子学園八王子中学校・高等学校	社会・地理歴史・公民	人間科	社会	
	東京都	工学院大学附属中学校・高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	東京都	明法中学・高等学校	社会・地理歴史・公民	人間科	社会	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文学研究科		英語英米文学
	神奈川県	神奈川県立茅ケ崎北陵高等学校	公民	経済	現代経済	
	神奈川県	神奈川県立秦野曽屋高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	神奈川県	桐光学園中学高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	神奈川県	川崎市立西中原中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	桐蔭学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立大道中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立横須賀大津高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立菅生中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立厚木北高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	小田原市立城北中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立大磯高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市立六角橋中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立有馬中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	大和市立引地台中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	北鎌倉女子学園中学校高等学校	地理歴史	文	哲	
	神奈川県	川崎市立犬蔵中学校	社会	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立茅ケ崎高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	平塚市立江陽中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	鵠沼高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立元石川高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立秦野高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	茅ヶ崎市立赤羽根中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	南足柄市立南足柄中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	横須賀市立久里浜中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	向上高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	桐蔭学園中等教育学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立横須賀大津高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	海老名市立大谷中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

令和７年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実　習　学　生		
				学　部	学　科	専　攻
関東	神奈川県	神奈川県立相模原中等教育学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	藤沢市立大庭中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	座間市立栗原中学校	社会	人間科	心理	
	神奈川県	神奈川県立元石川高等学校	地理歴史	人間科	社会	
甲信越	新潟県	新潟県立新潟中央高等学校	国語	文	日本文学文化	
	新潟県	新潟市立鳥屋野中学校	英語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟第一高等学校	地理歴史	文	歴史	
	山梨県	山梨県立富士河口湖高等学校	英語	文	英語英米文	
	山梨県	山梨県立青洲高等学校	英語	文	英語英米文	
	長野県	松商学園高等学校	商業	経営	経営	

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実　習　学　生		
				学　部	学　科	専　攻
甲信越	長野県	駒ヶ根市立赤穂中学校	英語	文	英語英米文	
	長野県	長野県豊科高等学校	英語	文	英語英米文	
東海	静岡県	菊川市立菊川東中学校	社会	経営	経営	
	静岡県	浜松日体中・高等学校	英語	文	英語英米文	
	静岡県	磐田市立竜洋中学校	社会	文	歴史	
	三重県	三重高等学校	地理歴史	文	歴史	
近畿	兵庫県	甲陽学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
九州・沖縄	福岡県	筑陽学園中学高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	長崎県	長崎県立長崎北高等学校	公民	経済	現代経済	
	宮崎県	延岡学園高等学校	公民	経営	経営	
	鹿児島県	鹿児島玉龍高等学校	国語	文	日本文学文化	
	沖縄県	うるま市立あげな中学校	英語	文	英語英米文	

令和７年度　教育実習先一覧（神田）

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実　習　学　生	
				学　部	学　科
北海道・東北	青森県	青森県立弘前実業高等学校	商業	商	マーケティング
	秋田県	秋田市立秋田商業高等学校	商業	商	マーケティング
	山形県	山形県立酒田光陵高等学校	商業	商	マーケティング
	福島県	日本大学東北高等学校	地理歴史・公民	法	法律
関東	茨城県	常総学院高等学校	公民	法	法律
	茨城県	ひたちなか市立田彦中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	埼玉県	東京農業大学第三高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	埼玉県熊谷市立富士見中学校	社会	法	法律
	埼玉県	埼玉県立川口北高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	戸田市立喜沢中学校	社会	法	政治
	埼玉県	埼玉県ふじみ野市立大井中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	埼玉県	埼玉県熊谷市立別府中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	千葉県	成田市立吾妻中学校	社会	法	法律
	千葉県	専修大学松戸中学校・高等学校	公民	法	法律
	千葉県	専修大学松戸中学校・高等学校	地理総合	法	法律
	千葉県	君津市立八重原中学校	社会	法	政治
	千葉県	千葉県立国分高等学校	歴史総合	法	政治
	千葉県	千葉経済大学附属高等学校	商業	商	会計
	千葉県	千葉市立高洲中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	千葉県	千葉県立長生高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	千葉県	松戸市立旭町中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	東京都	新宿区立西新宿中学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	三鷹市立第六中学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	関東国際高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	白金の丘学園白金の丘中学校	社会	法	法律
	東京都	立正大学付属立正中学校・高等学校	公共	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	政治

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実　習　学　生	
				学　部	学　科
関東	東京都	大東文化大学第一高等学校	地理歴史・公民	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	商	マーケティング
	東京都	東京都立芝商業高等学校	商業	商	会計
	東京都	清瀬市立清瀬第二中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	東京都	東京都立南平高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	東京都	目黒区立第十中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	横浜市立舞岡中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	歴史総合	法	法律
	神奈川県	横浜市立市ヶ尾中学校	社会	法	法律
	神奈川県	藤沢市立湘洋中学校	社会	法	法律
	神奈川県	桐蔭学園高等学校	公共	法	法律
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	公民	法	政治
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史	法	政治
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	公民	商	マーケティング
	神奈川県	神奈川県立追浜高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	横浜市立岩崎中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	神奈川県立鶴嶺高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	相模原市立相原中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
北陸	富山県	滑川市立早月中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
甲信越	長野県	長野県長野商業高等学校	商業	商	会計
	長野県	長野県長野西高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	長野県	茅野市立東部中学校	国語	科目等履修生	
東海	静岡県	静岡県立駿河総合高等学校	商業	商	マーケティング
四国	高知県	高知市立高知商業高等学校	商業	商	マーケティング
九州・沖縄	長崎県	海星高等学校	公民	法	法律
	熊本県	九州学院高等学校	公民	法	政治
	宮崎県	宮崎市立大塚中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語

令和７年度　図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	埼玉県	所沢市立所沢図書館	文	日本文学文化	
	埼玉県	小川町立図書館	文	英語英米文	
	東京都	葛飾区立中央図書館	人間科	社会	
	神奈川県	専修大学図書館	法	政治	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	藤沢市総合市民図書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	海老名市立中央図書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	専修大学図書館	文	歴史	
甲信越	新潟県	燕市立吉田図書館	文	哲	

令和７年度　博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道・東北	青森県	弘前市立博物館・高岡の森弘前藩歴史館	文	ジャーナリズム	
	福島県	郡山市立美術館	文	日本文学文化	
	福島県	福島県文化財センター白河館（まほろん）	文	歴史	
関東	茨城県	鹿嶋市どきどきセンター	文	歴史	
	茨城県	茨城県立歴史館	文	歴史	
	茨城県	予科練平和記念館	文	歴史	
	茨城県	日立市郷土博物館	文	ジャーナリズム	
	栃木県	小山市立博物館	人間科	心理	
	群馬県	館林市立資料館・田山花袋記念文学館	文	日本文学文化	
	群馬県	群馬県立歴史博物館	文	歴史	
	埼玉県	熊谷市立熊谷図書館　美術・郷土資料展示室	経済	国際経済	
	埼玉県	久喜市立郷土資料館	文	日本文学文化	
	埼玉県	入間市博物館	文	歴史	
	埼玉県	富士見市立難波田城資料館	文	歴史	
	千葉県	茂原市立美術館・郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	千葉県立房総のむら	文	歴史	
	千葉県	千葉市立加曽利貝塚博物館	文	歴史	
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文	歴史	
	千葉県	野田市郷土博物館	人間科	心理	
	東京都	昭島市郷土資料室	法	政治	
	東京都	日野市郷土資料館	法	政治	
	東京都	パルテノン多摩	経営	経営	
	東京都	NHK 放送博物館	商	マーケティング	
	東京都	進化生物学研究所	文	哲	
	東京都	進化生物学研究所	文	哲	
	東京都	大田区立郷土博物館	文	哲	
	東京都	杉並区立郷土博物館	文	哲	
	東京都	物流博物館	文	哲	
	東京都	進化生物学研究所	文	哲	
	東京都	青梅きもの博物館	文	歴史	
	東京都	板橋区立美術館	文	歴史	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	町田市立国際版画美術館	文	歴史	
	東京都	昭和のくらし博物館	文	歴史	
	東京都	郵政博物館	文	ジャーナリズム	
	東京都	東京都多摩動物公園	人間科	心理	
	東京都	古代オリエント博物館	人間科	心理	
	東京都	東京富士美術館	人間科	社会	
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センターこども館	経済	国際経済	
	神奈川県	ロマンスカーミュージアム	法	法律	
	神奈川県	神奈川県立大船フラワーセンター	文	日本文学文化	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	日本文学文化	
	神奈川県	理科ハウス	文	哲	
	神奈川県	横浜市八聖殿郷土資料館	文	歴史	
	神奈川県	シルク博物館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立大船フラワーセンター	文	歴史	
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	歴史	
	神奈川県	横浜ユーラシア文化館	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	歴史	
	神奈川県	はだの歴史博物館	文	歴史	
	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	人間科	社会	
甲信越	新潟県	新潟県立植物園	経済	生活環境経済	
	山梨県	山梨県立美術館	文	日本文学文化	
	山梨県	山梨県立博物館	文	歴史	
北陸	富山県	黒部市美術館	文	歴史	
東海	静岡県	静岡市立登呂博物館	文	歴史	
	静岡県	藤枝市郷土博物館・文学館	文	歴史	
	愛知県	愛知県美術館	文	日本文学文化	
中国	岡山県	津山洋学資料館	文	ジャーナリズム	
九州・沖縄	長崎県	対馬博物館	文	歴史	
	宮崎県	都城島津邸	文	日本文学文化	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和3年度	平29 経済・経済	神奈川県立白山高等学校	専任	地理歴史
	平31 経済・経済	横須賀市立粟田小学校	専任	全科
	平31 経済・経済	目黒区立油面小学校	専任	全科
	令2 経済・経済	鹿嶋市立大野中学校	専任	社会
	令3 経済・経済	学校法人上田学園（上田西高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令3 経済・経済	川崎市立枡形中学校	専任	社会
	令3 経済・経済	川崎市立はるひ野小学校	専任	全科
	令3 経済・経済	盛岡市立仙北中学校	専任	社会
	令3 経済・経済	山梨県立上野原高等学校	非常勤（実習助手）	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来きずな高等学校　神戸キャンパス）	常勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平17 法・法律	神奈川県立津久井養護学校	専任	特別支援
	平31 法・法律	神奈川県立永谷高等学校	専任	地理歴史
	令3 法・法律	千葉県立京葉工業高等学校	専任	地理歴史・公民
	令3 経営・経営	学校法人足利大学（足利大学附属高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平27 商・マーケティング	岐阜県立郡上北高等学校	専任	商業
	令3 商・マーケティング	静岡市立末広中学校	常勤	社会
	令3 商・マーケティング	学校法人時任学園（樟南第二高等学校）	常勤	商業
	令2 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園中学校・高等学校）	常勤	国語
	令3 文・日本語	藤沢市立御所見中学校	臨時的任用	国語
	令3 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校 ）	常勤	国語
	令3 文・日本語	秩父市立高篠中学校	専任	国語
	令3 文・日本語	学校法人明徳学園（相洋高等学校）	非常勤	国語
	令3 文・日本語	岡谷市立岡谷西部中学校	常勤	国語
	令3 文・日本語	長野県茅野高等学校	専任	国語
	令3 文・日本語	鴨川市立安房東中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	筑西市立下館南中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	大阪市立加美中学校	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立橘中学校	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	東京都教育委員会	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立東高等学校	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	町田市立南中学校	産休代替	国語
	平30 文・英語英米文	学校法人山形電波学園（創学館高等学校）	常勤	英語
	令2 文・英語英米文	目黒区立第七中学校	専任	英語
	令3 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専任	英語
	令3 文・英語英米文	小金井市立南中学校	専任	英語
	令3 文・英語英米文	学校法人向上学園（向上高等学校）	常勤	英語
	令3 文・英語英米文	埼玉県立上尾橘高等学校	非常勤	英語
	平30 文・哲	相模原市立田名小学校	専任	全科
	平31 文・哲	神奈川県立大和西高等学校	専任	地理歴史・公民
	平28 文・歴史	東京都立井草高等学校	専任	地理歴史
	平30 文・歴史	杉並区立泉南中学校	専任	社会
	平31 文・歴史	佐倉市立西志津中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	学校法人土佐女子高等学校（土佐女子中学高等学校）	常勤	社会・地理歴史
	令3 文・歴史	網走市立第一中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	山形県立遊佐高等学校	常勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	板橋区立西台中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	上越市立八千浦中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	学校法人早稲田学園（わせがく高等学校 勝田台キャンパス）	常勤	地理歴史
	令3 文・歴史	大田区立赤松小学校	その他（教員支援員）	
	令3 文・歴史	八王子市立鑓水中学校	産休代替	社会
	令3 文・歴史	学校法人矢野学園（八王子実践高等学校）	非常勤	地理歴史
	令3 文・環境地理	青森県立北斗高等学校	非常勤	地理歴史・公民
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	富士吉田市立富士見台中学校	専任	数学
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横須賀市立岩戸中学校	非常勤	特別支援
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	平塚市立大住中学校	臨時的任用	数学・特別支援
	令3 人間科・社会	大田区立田園調布小学校	その他（学校特別支援員）	
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	常勤	社会
	令3 人間科・社会	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	令3 人間科・社会	島田市立六合中学校	常勤	社会
	平27 院文・修士	学校法人ＮＨＫ学園（ＮＨＫ学園高等学校）	非常勤	公民
	平29 院文・修士	学校法人堀井学園（横浜翠陵中学・高等学校）	常勤	英語
	平31 院文・修士	小金井市立緑中学校	専任	英語
	平29 院文・博士	学校法人昭和学院（昭和学院秀英高等学校）	専任	地理歴史
令和4年度	令4 経済・経済	品川区立日野学園	専任	社会
	令4 経済・経済	相模原市立くぬぎ台小学校	常勤	全科
	平28 経済・国際経済	江戸川区立南篠崎小学校	専任	全科
	令2 経済・国際経済	神奈川県立住吉高等学校	専任	地理歴史
	平28 法・法律	茨城県立多賀高等学校	専任	地理歴史・公民
	令4 法・法律	綾瀬市立綾瀬中学校	臨時的任用	社会
	令4 法・法律	あきる野市立五日市中学校	専任	社会
	令4 法・政治	七ヶ浜町立向洋中学校	常勤	社会
	令4 経営・経営	山形県立天童高等学校	専任	商業
	令2 商・マーケティング	横須賀市立鴨居中学校	常勤	国語
	令3 商・マーケティング	静岡市立清水第七中学校	専任	社会

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和4年度	令4 商・マーケティング	浦添市立浦添中学校	非常勤	社会
	令4 商・マーケティング	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校　札幌キャンパス）	常勤	公民
	令4 商・会計	静岡県立浜松東高等学校	常勤	商業
	令4 商・会計	神奈川県立厚木商業高等学校	期限付	商業
	令2 文・日本語	神奈川県立岸根高等学校	専任	国語
	令4 文・日本語	鎌倉市立御成中学校	常勤	国語
	令4 文・日本語	学校法人上野塾（東京高等学校）	非常勤	国語
	令4 文・日本語	神奈川県立鶴見高等学校	専任	国語
	令4 文・日本語	学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	専任	国語
	令4 文・日本語	学校法人有明学園（有明高等学校）	常勤	国語
	令4 文・日本語	習志野市立第四中学校	臨時的任用	国語
	令3 文・日本文学文化	八王子市立中山中学校	専任	国語
	令4 文・日本文学文化	富岡市立西中学校	期限付	国語
	令4 文・日本文学文化	平塚市立神田中学校	常勤	国語
	令4 文・日本文学文化	神奈川県立藤沢清流高等学校	非常勤	国語
	令4 文・日本文学文化	山形県立新庄北高等学校	常勤	国語
	令4 文・日本文学文化	埼玉県立草加かがやき特別支援学校中学部	臨時的任用	国語（全科）
	令4 文・日本文学文化	横浜市立日吉台中学校	専任	国語
	令2 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常勤	英語
	令3 文・英語英米文	埼玉県立鳩ケ谷高等学校	専任	英語
	令4 文・英語英米文	前橋市立城東小学校	専任	英語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	令4 文・英語英米文	高崎市立箕輪小学校	専任	全科
	令4 文・英語英米文	神奈川県立鶴見総合高等学校	専任	英語
	令4 文・英語英米文	鎌ケ谷市立第三中学校	専任	英語
	令2 文・哲	柏崎市立田尻小学校	臨時的任用	音楽・書写
	令4 文・哲	海老名市立柏ケ谷中学校	臨時的任用	特別支援（社会）
	令2 文・歴史	神奈川県立西湘高等学校	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	神奈川県立新羽高等学校	常勤	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	東京都立蒲田高等学校	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	諏訪市立上諏訪中学校	常勤	社会
	令4 文・歴史	学校法人湘南学院（湘南学院高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	埼玉県立羽生高等学校	常勤	地理歴史
	令4 文・歴史	千葉県立市川昂高等学校	専任	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	御殿場市立御殿場中学校	常勤	社会
	令4 文・歴史	学校法人関東学園（関東学園大学附属高等学校）	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	神奈川県立田奈高等学校	専任	地理歴史・公民
	令2 文・環境地理	柏崎市立第一中学校	専任	社会
	令4 文・環境地理	学校法人堀井学園（横浜創英中学・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	令4 文・人文・ジャーナリズム	学校法人西海学園（西海学園高等学校）	期限付	地理歴史・公民
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立高津高等学校	専任	数学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立愛川高等学校	専任	情報
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田高等学校	専任	数学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立舞岡高等学校	専任	情報
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立南瀬谷中学校	期限付	数学
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	専任	社会
	令4 人間科・社会	横浜市立神奈川中学校	臨時的任用	社会
	令4 人間科・社会	土浦市立都和中学校	専任	社会
	平24 院文・修士	学校法人駒澤大学（駒澤大学高等学校）	専任	地理歴史
	令2 院文・修士	千葉県立我孫子東高等学校	専任	英語
	令4 院文・修士	学校法人鳥取学園（鳥取城北高等学校）	常勤	国語
令和5年度	平31 経済・経済	神奈川県立保土ケ谷支援学校	専任	特別支援
	令3 経済・経済	東京都立山崎高等学校	専任	公民
	令4 経済・経済	学校法人宇都宮海星学園（星の杜中学校高等学校）	常勤	保健体育
	令5 経済・経済	福島県立喜多方桐桜高等学校	常勤	公民
	令5 経済・経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校　池袋キャンパス）	常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	学校法人君津学園（市原中央高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	静岡市立西奈小学校	専任	全科
	令5 経済・経済	学校法人金剛学園（桜林高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	学校法人静岡理工科大学（星陵高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	平31 経済・国際経済	石川県立明和特別支援学校	専任	特別支援
	平25 法・法律	日野市立三沢中学校	専任	社会
	平27 法・法律	札幌市立西岡小学校	専任	特別支援・全科
	令5 法・法律	神奈川県立上矢部高等学校	期限付	地理歴史・公民
	令5 法・法律	松阪市立西中学校	専任	社会
	令5 法・法律	学校法人八洲学園（八洲学園高等学校　池袋キャンパス）	常勤	地理歴史
	令5 法・法律	神奈川県立伊勢原高等学校	専任	地理歴史
	令5 経営・経営	高知市立一宮中学校	臨時的任用	社会・特別支援
	令5 経営・経営	群馬県立二葉高等特別支援学校	専任	特別支援
	令5 商・マーケティング	山形県立米沢商業高等学校	専任	商業
	令5 商・マーケティング	千葉県立君津商業高等学校	専任	商業
	令5 商・マーケティング	静岡県立伊豆伊東高等学校	専任	商業
	令5 文・日本語	神奈川県立茅ケ崎高等学校	専任	国語
	令5 文・日本語	座間市立栗原中学校	専任	国語
	令5 文・日本語	世田谷区立駒留中学校	産休代替	国語
	令5 文・日本語	秦野市立南中学校	専任	国語
	令5 文・日本語	大分市立滝尾中学校	専任	国語
	令5 文・日本語	東京都立五日市高等学校	専任	国語
	令5 文・日本語	神奈川県立大和東高等学校	専任	国語
	令5 文・日本文学文化	川崎市立菅生中学校	期限付	国語
	令5 文・英語英米文	神奈川県立上溝南高等学校	専任	英語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和5年度	令5 文・英語英米文	大和市立上和田中学校	期限付	英語
	令5 文・英語英米文	練馬区立光が丘第三中学校	専任	英語
	令5 文・英語英米文	狛江市立狛江第三中学校	専任	英語・特別支援
	令5 文・哲	埼玉県立豊岡高等学校	常勤	地理歴史
	令2 文・歴史	前橋市立桃瀬小学校	専任	社会
	令3 文・歴史	下野市立国分寺中学校	専任	社会
	令4 文・歴史	神奈川県立上鶴間高等学校	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	埼玉県立久喜高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・歴史	春日部市立緑中学校	期限付	社会
	令5 文・歴史	横浜市立浜中学校	非常勤	社会
	令5 文・歴史	学校法人長戸路学園（敬愛大学八日市場高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令5 文・歴史	埼玉県立川越西高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・歴史	大田区立蓮沼中学校	専任	社会・特別支援
	令5 文・歴史	ひたちなか市立田彦中学校	専任	社会
	令5 文・歴史	川崎市立東橘中学校	非常勤	社会
	令5 文・歴史	横須賀市立鴨居中学校	専任	社会
	令5 文・歴史	横浜市立仲尾台中学校	常勤	社会
	令5 文・環境地理	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・環境地理	長野県中野西高等学校	常勤	地理歴史
	令5 文・環境地理	鎌倉市立大船中学校	非常勤	社会
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	専任	数学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	専任	数学
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	寒川町立旭が丘中学校	専任	数学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立万騎が原中学校	専任	数学
	令5 ネットワーク情報・ネットワーク情報	町田市立町田第二中学校	専任	数学
	平29 人間科・社会	多摩市立落合中学校	専任	社会
	令3 人間科・社会	東京都立矢口特別支援学校	専任	特別支援・社会
	令3 人間科・社会	柏崎市立北条小学校	専任	全科
	令5 人間科・社会	厚木市立南毛利中学校	常勤	社会
	令5 院文・修士	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非常勤	地理歴史
令和6年度	令5 ネットワーク情報・ネットワーク情報	町田市立町田第二中学校	専任	数学
	平29 人間科・社会	多摩市立落合中学校	専任	社会
	令3 人間科・社会	東京都立矢口特別支援学校	専任	特別支援・社会
	令3 人間科・社会	柏崎市立北条小学校	専任	全科
	令5 人間科・社会	厚木市立南毛利中学校	常勤	社会
	令5 院文・修士	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非常勤	地理歴史
	平29 経済・経済	宮城県仙台第二高等学校	専任	地理
	令5 経済・経済	学校法人武陽学園（西武台高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令6 経済・現代経済	長野県中野西高等学校	期限付	公民
	令6 経済・現代経済	世田谷区立東深沢中学校	非常勤	社会
	令6 経済・現代経済	横浜市立緑小学校	専任	全科
	令6 経済・生活環境経済	座間市立南中学校	常勤	社会
	令6 経済・国際経済	山口県立田布施総合支援学校	常勤	地理歴史・公民
	令6 経済・国際経済	千葉市立千草台東小学校	常勤	全科
	令6 法・法律	さいたま市立尾間木小学校	期限付	全科
	令6 法・法律	学校法人日本工業大学（日本工業大学駒場中学・高等学校）	非常勤	社会公民
	令6 法・法律	西東京市立保谷中学校	非常勤	社会
	令6 法・政治	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）	常勤	社会・地理歴史・公民
	令6 経営・経営	学校法人水城高等学校（水城高等学校）	常勤	公民
	令2 商・マーケティング	小笠原村立母島中学校	専任	英語
	令6 商・マーケティング	栃木県立栃木商業高等学校	常勤	商業
	令6 商・マーケティング	茨城県立古河第一高等学校	専任	商業
	令6 商・会計	福島県立小高産業技術高等学校	専任	商業
	令6 文・日本文学文化	神奈川県立元石川高等学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	埼玉県立川越初雁高等学校	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	小平市立花小金井南中学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人岩尾昭和学園（昭和学園高等学校）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校　名古屋キャンパス）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	石川県白山市立鶴来中学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	葛飾区立葛見中学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	川崎市立南生田中学校	期限付	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人稲葉学園（稲葉学園高等学校）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人北上学園（専修大学北上高等学校）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非常勤	国語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	専任	英語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	専任	英語
	令5 文・英語英米文	大和市立つきみ野中学校	専任	英語
	令6 文・英語英米文	東京都立忍岡高等学校	専任	英語
	令6 文・英語英米文	神奈川県立厚木北高等学校	専任	英語
	令6 文・英語英米文	多摩市立青陵中学校	専任	英語
	平30 文・哲	東京都立水元小合学園	専任	特別支援
	令6 文・哲	学校法人日本体育大学（日本体育大学柏高等学校）	非常勤	地理歴史
	令6 文・哲	日立市立豊浦中学校	期限付	社会
	令6 文・歴史	神奈川県立津久井高等学校	非常勤	地理歴史・公民
	令6 文・歴史	千葉県立東金高等学校	専任	地理歴史・公民
	令6 文・歴史	学校法人東洋高等学校（東洋高等学校）	常勤	地理歴史
	令6 文・歴史	八王子市立椚田中学校	専任	社会
	令6 文・歴史	秦野市立北中学校	専任	社会
	令6 文・歴史	唐津市立浜玉中学校	専任	社会
	令6 文・歴史	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	専任	地理歴史
	令6 文・歴史	学校法人東京聖徳学園（光英 Veritas 中学校・高等学校）	常勤	社会地理・歴史
	令6 文・歴史	池田町立高瀬中学校	常勤	社会

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和6年度	令5　文・環境地理	長野県赤穂高等学校	専任	地理歴史・公民
	令6　文・環境地理	学校法人角川ドワンゴ学園（N高等学校・S高等学校　沖縄伊計本校）	専任	地理歴史・公民
	令6　文・環境地理	坂祝町立坂祝中学校	常勤	社会
	令6　文・環境地理	さいたま市立道祖土小学校	常勤	全科
	令6　ネットワーク情報・ネットワーク情報	新潟県立新潟工業高等学校	常勤	情報
	令6　ネットワーク情報・ネットワーク情報	羽村市立羽村第三中学校	期限付	数学
	令6　ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立住吉中学校	臨時的任用	数学
	令6　ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立桶川西高等学校	専任	数学
	令6　人間科・心理	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非常勤	公民
	令6　人間科・心理	仙台市立幸町中学校	常勤	社会
	令6　人間科・社会	川崎市立王禅寺中央小学校	専任	全科
	令6　国際コミュニケーション・日本語	江東区立有明中学校	専任	国語
	令6　国際コミュニケーション・日本語	世田谷区立玉川中学校	育休代替	国語
	令6　国際コミュニケーション・日本語	杉並区立高井戸第二小学校	専任	全科
	令6　国際コミュニケーション・日本語	学校法人 湘南工科大学（湘南工科大学附属高等学校）	非常勤	国語
	令6　国際コミュニケーション・日本語	相模原市立上鶴間中学校	専任	国語
	令6　国際コミュニケーション・日本語	神奈川県立上溝高等学校	非常勤	国語
	令6　国際コミュニケーション・日本語	東京都立中央ろう学校	専任	国語
	令6　国際コミュニケーション・日本語	埼玉県立羽生実業高等学校	専任	国語
	令6　国際コミュニケーション・日本語	町田市立南成瀬中学校	専任	国語
	平29　院文・修士	学校法人大谷学園（秀英高等学校）	常勤	英語
	令5　院文・修士	品川区立伊藤学園	専任	社会
	令6　院文・博士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
	令6　院文・修士	東京都立富士森高等学校	専任	地理歴史
	令6　院文・修士	静岡市立東中学校	常勤	社会
	令6　院文・修士	東京共育学園高等部	常勤	特別支援
令和7年度	令7　経済・生活環境経済	横浜市立生麦中学校	専任	社会
	令7　経済・国際経済	横浜市立東高等学校	専任	地理歴史・公民
	令7　法・法律	江戸川区立松江第三中学校	専任	社会
	令7　法・法律	江戸川区立二之江中学校	専任	社会
	令7　法・法律	学校法人八雲学園八雲学園中学校高等学校	専任	社会
	令7　法・政治	学校法人鹿島学園鹿島学園高等学校	非常勤	地理歴史・公民
	令7　商・マーケティング	学校法人千葉経済学園千葉経済大学附属高等学校	非常勤	情報
	令7　商・マーケティング	太田市立太田高等学校	臨時的任用	商業
	令7　商・マーケティング	山梨県立富士北稜高等学校	専任	商業
	令7　文・日本文学文化	世田谷区立駒留中学校	臨時的任用	国語
	令7　文・日本文学文化	東京都立千早高等学校	専任	国語
	令7　文・日本文学文化	横浜市立老松中学校	専任	国語
	令7　文・日本文学文化	川崎市立はるひ野小学校	専任	全科
	令5　文・英語英米文	東京都立若葉総合高等学校	専任	英語
	令7　文・英語英米文	小田原市立城山中学校	専任	英語
	令7　文・英語英米文	神奈川県立元石川高等学校	専任	英語
	令7　文・英語英米文	学校法人明星学園浦和学院高等学校	常勤	英語
	令7　文・英語英米文	学校法人千葉黎明学園千葉黎明高等学校	常勤	英語
	令7　文・英語英米文	相模原市立鳥屋学園	専任	英語
	令7　文・英語英米文	神奈川県立大磯高等学校	専任	英語
	令7　文・哲	長野県蘇南高等学校	常勤	地理歴史
	令7　文・哲	学校法人島田学園島田樟成高等学校	専任	地理歴史・公民
	令7　文・哲	埼玉県立狭山工業高等学校	専任	地理歴史
	令3　文・歴史	学校法人佐藤栄学園埼玉栄中学・高等学校	専任	社会・地理歴史・公民
	令5　文・歴史	横浜市立岡村中学校	専任	社会
	令7　文・歴史	柏市立高柳西小学校	常勤	社会
	令7　文・歴史	小田原市立白山中学校	期限付	社会
	令7　文・歴史	海老名市立杉久保小学校	専任	全科
	令7　文・歴史	神奈川県立金沢総合高等学校	専任	地理歴史・公民
	令7　文・歴史	千葉県立千葉北高等学校	専任	地理歴史・公民
	令7　文・歴史	世田谷区立用賀中学校	専任	社会
	令7　文・歴史	江戸川区立小岩第五中学校	専任	社会
	令7　文・環境地理	川崎市立上作延小学校	専任	全科
	令7　ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人東海大学東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部	特任	数学・情報
	令7　ネットワーク情報・ネットワーク情報	相模原市立鳥屋学園	常勤代替	数学
	令7　ネットワーク情報・ネットワーク情報	長野県岩村田高等学校	常勤	数学・情報
	令7　ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立岡村中学校	専任	数学
	令7　ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立港南台第一中学校	常勤	数学
	令7　人間科・心理	東京都立永福学園	専任	特別支援
	令7　人間科・心理	厚木市立睦合東中学校	常勤	社会
	令7　人間科・心理	東京都立大崎高等学校	専任	地理歴史
	令6　国際コミュニケーション・日本語	学校法人豊川閣妙厳寺豊川学園豊川高等学校	常勤	国語
	令7　国際コミュニケーション・日本語	神奈川県立港北高等学校	専任	国語
	令7　国際コミュニケーション・日本語	千葉県立市川南高等学校	専任	国語
	令7　院文・修士	長野県伊那弥生ヶ丘高等学校	専任	英語

1　就職先・職名・教科は、ご本人からの申し出により記載しています。

司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤　　務　　先	
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学付属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	埼玉県立高等学校図書館
武蔵大学図書館	国士舘大学鶴川図書館
東京大学法学部図書館	追手門学院大学附属図書館
日外アソシエーツ（株）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
見附市立図書館（新潟県）	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
ドルトン東京学園中等部・高等部ラーニングコモンズ	神奈川県立高等学校図書館
女子栄養大学図書館	横須賀市立中央図書館
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	（株）三省堂書店
東京医科大学図書館	神奈川県立図書館
杉並区中央図書館（東京都）	江東区立亀戸図書館
横浜市立図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
キハラ（株）	法政大学多摩図書館
専修大学図書館	西東京市立図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤　　務　　先	
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館　福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
ＭＯＡ美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
坂戸市立歴史民俗資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	国士舘大学国士舘史資料室
島根県教育委員会文化財課	横須賀市自然・人文博物館
深谷市教育委員会	千葉県教育庁教育振興部文化財課
（公財）横浜市ふるさと歴史財団	たましん歴史・美術館　歴史資料室
（公財）石川県埋蔵文化財センター	市原市教育委員会文化財課

令和７年度　資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程 学校司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次
４月	上旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※一部３月 前期・通年科目履修登録および履修修正（全学年）							
		介護等の体験事前オリエンテーション	３・４						
		実習希望校との内諾交渉	３						
	中旬	介護等の体験事前講習会	３・４						
	下旬	教育実習事前ガイダンス	４						
５月	上旬	教育実習 （４月～11月）	４						
	中旬	介護等の体験開始 （５月中旬～２月下旬）	３・４					博物館実習事前ガイダンス	３・４
	下旬							博物館実習（館務実習） （５月～12月）	３・４
６月	上旬	教育実習登録ガイダンス	３					博物館見学実習	３・４
		教育実習内諾書の提出	３						
	下旬	教員免許状一括申請ガイダンス	４			司書教諭修了証書申請ガイダンス（３年次までに司書教諭の単位をすべて修得した者）	４		
７月	上旬			図書館実習事前ガイダンス	３・４				
	下旬	前期試験（全学年）							
８月	上旬	夏期休暇（８月上旬～９月中旬）							
	下旬	前期追試験（全学年）							
				図書館実習 （８月～11月）	３・４				
９月	中旬	後期科目履修登録および履修修正（全学年）							
	下旬	教員免許状授与申請書確認ガイダンス	４			司書教諭修了証書申請ガイダンス（４年次で司書教諭の科目を履修した者）	４	館務実習登録ガイダンス（第１回）	２・３
10月	上旬	教職公開講座（オンライン）	１～４						
11月	上旬							館務実習登録ガイダンス（第２回）	２・３
								実習希望博物館との内諾交渉	２・３
	下旬	教育学会	１～４						
12月	上旬			図書館実習報告会（オンライン）	１～４				
				司書課程就職（進路）懇談会（オンライン）	１～４				
１月	下旬			学校司書課程講演会・受講説明会（オンライン）	１～４				
		後期試験（全学年）							
２月	中旬	後期追試験（全学年）							
								館務実習承諾書の提出	２・３
３月	22日	教員免許状の交付	４						

令和７年度　教職相談実施結果

1. 実施期間

令和７年４月～令和８年１月

2. 実施日・担当者

場　所	担 当 者	相 談 日（４月～８月）	相 談 日（９月～１月）
生　田	肝付　俊朗	月曜日　12:30～14:30	—
		火曜日　10:45～12:00	火曜日　10:45～12:00
		金曜日　12:00～14:00	金曜日　12:00～14:00
	齋藤　博志	月曜日　11:30～13:00	月曜日　11:30～13:00
	宮崎三喜男	水曜日　12:30～14:30	水曜日　12:30～14:30
神　田	肝付　俊朗	水曜日　12:00～14:00	—
	池田　宏史	木曜日　12:00～14:00	木曜日　12:00～14:00
オンライン	肝付　俊朗	—	月曜日　12:00～14:00
		—	水曜日　12:00～14:00
	嶺井　正也	希望者と相談の上決定	—
	宮崎三喜男	—	希望者と相談の上決定

3. 実施結果

（1）肝付　俊朗　文学部特任教授、齋藤　博志　商学部客員教授、池田　宏史　商学部講師、宮崎　三喜男　経済学部講師

①月別曜日別相談者数

場　所	曜日＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
生　田	月曜日	13	9	16	10	1	1	6	1	1	2	60
	火曜日	7	4	6	8	0	1	0	2	0	1	29
	水曜日	1	2	3	6	0	0	1	2	2	0	17
	金曜日	6	10	7	10	2	1	6	3	2	5	52
神　田	水曜日	3	2	3	4	0	0	0	0	1	0	13
	木曜日	5	2	4	2	0	0	0	0	1	0	14
合　計		35	29	39	40	3	3	13	8	7	8	185

※メールやオンラインでの対応を含む

②学部学科別相談者数

学部	経済				法		経営	商		文						ﾈｯﾄﾜｰｸ職	人間科		国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	卒業生	科目等履修生	合 計
学科	経済	現代経済	生活環境経済	国際経済	法律	政治	経営	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	会計	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲	歴史	環境地理	ﾈｯﾄﾜｰｸ職	心理	社会	日本語			
人数	0	2 (2)	8 (5)	21 (4)	3 (1)	0	0	1 (1)	0	0	6 (6)	30 (7)	2 (2)	62 (22)	1 (1)	16 (7)	0	12 (5)	18 (3)	2 (1)	1 (1)	185 (68)

※（　）内の人数は実数

③相談者学年

学　年	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	卒業生	科目等履修生	合　計
人　数	0	5	39	138	0	2	1	185

④相談内容

内容	一次試験対策	論作文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合 計
人数	4	68	20	14	7	11	4	30	34	220

※１回で複数の相談内容があるため、相談者数と相談内容数は一致しない。

⑤その他の内容

・非常勤講師のなり方について
・よこはま教育実践ボランティア志願理由書の添削
・大学院卒業後の大学教員と小中高教員への進路選択について
・面接票の添削
・教育実習校への実習申請書（「実習希望理由」）の書き方及び添削
・論文試験の復元答案の講評
・教育実習の報告と成果の活かし方
・教育実習に向けての指導案作成について指導・助言
・大学推薦に値するかの判断のための面接と、推薦書作成のための聞き取り
・私学教員就職の相談
・教育実習内諾のための校長面談用レポートの添削
・教育実習辞退の仕方
・私立学校教員に内定したが公立学校の非常勤と比べてどうか
・４月から教諭としてスタートするにあたり、今から準備しておくことは何か
・４月までのスケジュール管理・報告
・複数内定を得た学生より、どの自治体を選択するかの相談

⑥相談日数

場　所	曜日＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
生　田	月曜日	3	4	5	3	1	2	4	3	4	1	30
	火曜日	3	4	3	4	—	1	4	2	4	2	27
	水曜日	3	4	4	4	—	1	5	4	3	2	30
	金曜日	3	4	1	4	2	1	4	3	3	3	28
神　田	水曜日	3	4	3	4	—	1	4	4	3	2	28
	木曜日	3	4	4	4	—	1	5	3	3	3	30
合　計		18	24	20	23	3	7	26	19	20	13	88

（2）嶺井　正也　専修大学名誉教授（４月～８月）、宮崎　三喜男　経済学部講師（９月～１月）

①相談者数

４月～８月　　16 名（在学生：３年生２名、４年生 12 名、卒業生：１名、その他：１名）
９月～１月　　26 名（在学生：２年生７名、３年生 17 名、大学院生１名、卒業生：１名）

②内容

一次・二次試験対策（教育時事学習、面接練習、小論文対策、模擬授業練習などを基本）

③実施回数

４月～８月
・小論文添削　12 回
・個人面接（場面指導含む）練習　10 回
・集団面接練習　４回
・模擬授業練習　３回

９月～１月
・Zoom 教育時事学習会　４回
・第一次試験対策（問題・解答の送付）　24 回
・小論文対策　５回

④その他

４月～８月の面接・模擬授業練習には福山文子先生他、卒業生の真壁直人先生、宮坂恵美子先生に加え、池田宏史先生、宮崎三喜男先生が加わり充実した支援活動ができた。またバンビ OG /OB メンバーにも協力を得た。
９月～１月は、嶺井正也先生、福山文子先生、池田宏史先生、真壁直人先生、宮坂恵美子先生等と協働して実施した。

令和７年度　教員採用試験対策特別講義実施結果

・出願書類作成指導および個人面接指導

種　別	出　願　書　類　作　成		個　人　面　接		
実 施 日	第１回 令和７年２月 20 日（木） 10：00 ～ 11：00	第２回 令和７年２月 26 日（水） 14：00 ～ 15：00	第１回 令和７年３月５日（水） 14：00 ～ 17：00	第２回 令和７年３月７日（金） 9：00 ～ 12：00	第３回 令和７年３月 10 日（金） 9：00 ～ 12：00
実施場所	専修大学生田校舎 ２号館１階　スタジオ 211	専修大学生田校舎 ４号館２階　４２０教室	専修大学生田校舎 ４号館２階 ４２０教室・４２２教室・ ４２３教室・４２４教室	専修大学生田校舎 ４号館２階 ４２０教室・４２２教室・ ４２３教室・４２４教室	専修大学生田校舎 ４号館２階　423 教室
対 象 者	令和７（2025）年度実施　教員採用試験受験予定者				
担当講師	肝付 俊朗　文学部特任教授		肝付　俊朗　文学部特任教授 齋藤　博志　商学部客員教授 池田　宏史　商学部講師	肝付　俊朗　文学部特任教授 齋藤　博志　商学部客員教授	肝付　俊朗　文学部特任教授
内　　容	（1）出願書類の作成について （2）教員採用試験に臨む心構え		30 分程度の個人面接指導		
持 ち 物	教育委員会（私学の場合は出願時に学校に提出する願書等）に提出する願書、面接票等				
参 加 者	50 名（第１回または第２回のいずれか）		35 名（全３回のうちいずれか）		
主　　催	エクステンションセンター・教職課程協議会				

・教員採用試験二次試験対策特別講義

実 施 日	第１回 令和７年７月３１日（木） 10：00 ～ 15：30	第２回 令和７年８月１日（金） 10：00 ～ 15：30	第３回 令和７年８月６日（水） 10：30 ～ 16：00	第４回 令和７年８月８日（金） 11：00 ～ 16：00
実施場所	専修大学生田校舎　４号館２階 420 教室・423 教室・424 教室・ 426 教室・427 教室・428 教室	専修大学生田校舎　４号館２階 420 教室・423 教室・424 教室・ 426 教室・427 教室・428 教室	専修大学生田校舎　２号館１階 スタジオ 211・222 教室 223 教室・224 教室	専修大学神田校舎　１号館２階 205 教室・ゼミ 41 教室・ ゼミ 42 教室・ゼミ 43 教室・ ゼミ 45 教室・ゼミ 46 教室
対 象 者	今年度（令和７（2025）年度）教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和７（2025）年度）教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和７（2025）年度）教員採用試験受験者 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）	今年度（令和７（2025）年度）教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）
担当講師	①肝付　俊朗　文学部特任教授 ②齋藤　博志　商学部客員教授 ③角田真紀子　経済学部准教授 ④片桐　一彦　文学部教授	①肝付　俊朗　文学部特任教授 ②齋藤　博志　商学部客員教授 ③福山　文子　経営学部准教授 ④佐藤　由美　商学部教授	①長船　孝明　経済学部兼任講師 （昭和 53 年　商学部会計学科卒） （元東京都立荒川商業高等学校長） ②池田　宏史　商学部講師 ③砂原　由和　ネットワーク情報学部教授	①肝付　俊朗　文学部特任教授 ②齋藤　博志　商学部客員教授 ③森田　司郎　法学部教授 ④池田　宏史　商学部講師
内　　容	（1）面接票、指導案等の作成指導 （2）個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	（1）面接票、指導案等の作成指導 （2）個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	（1）主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義（東京、千葉、神奈川、埼玉の二次試験のポイント、評価方法等） （2）個別指導（主に個人面談）	（1）個人面接 （2）集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
提 出 物	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	特になし	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
参 加 者	15 名（内卒業生０名）	18 名（内卒業生１名）	12 名（内卒業生１名）	15 名（内卒業生０名）
主　　催	教職課程協議会・ エクステンションセンター	教職課程協議会・ エクステンションセンター	エクステンションセンター・ 教職課程協議会	教職課程協議会・ エクステンションセンター

・教員採用試験対策特別講義

実 施 日	第１回 令和７年６月 14 日（土） 10：00 ～ 12：30	第２回 令和７年 11 月 22 日（土） 10：00 ～ 13：00
実施場所	専修大学生田校舎 １号館２階　122 教室	専修大学生田校舎 １号館２階　122 教室
対 象 者	教員採用試験受験予定者 １年次～３年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）	教員採用試験受験予定者 １年次～３年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
担当講師	伊藤　雅夫　先生（昭和 54 年　経済学部経済学科卒） 江東区教育委員会教育支援センター主任相談員 （元江東区立第二砂町中学校長）	ＴＡＣ講師 樋口　良太　氏（ＴＡＣ教員採用試験対策講座　講師） 令和７（2025）年度教員採用試験最終試験合格者 ①宮下　優希　（東京都教育委員会　中学・高等学校英語文学部英語英米文学科４年） ②青柳　　拓　（東京都教育委員会　中学・高等学校社会文学部歴史学科４年） ③根本　蒼大　（千葉県・千葉市教育委員会　中学・高等学校数学ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科４年）
内　　容	（1）自己紹介および現在の学校現場について （2）求められる教師像（役職の立場から思うこと） （3）人物試験（二次試験）の学習の仕方とその実際	（1）ＴＡＣ講師から各教育委員会の教員採用試験の概要説明 （2）令和７（2025）年度教員採用試験最終試験合格者の体験談および質疑応答（司会：森田 司郎 法学部教授）
参 加 者	25 名（内卒業生０名）	17 名（内卒業生１名）
主　　催	エクステンションセンター・教職課程協議会	エクステンションセンター・教職課程協議会

令和７年度　教員採用候補者選考試験（教員採用試験）説明会開催結果

実　施　日	事　　項	開催形態	参加者数
令和７年 ４ 月 28 日（月）12：20～13：00	埼玉県公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	７名
令和７年 11 月 21 日（金）12：20～13：00		オンライン	２名
令和７年 ４ 月 17 日（木）12：20～13：00	千葉県・千葉市公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	９名
令和７年 11 月 17 日（月）12：20～13：00		オンライン	３名
令和７年 11 月 12 日（水）12：20～13：00	東京都公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	３名
令和７年 ４ 月 16 日（水）12：20～13：00	神奈川県公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	１９名
令和７年 11 月 26 日（水）12：20～13：00		オンライン	１３名
令和７年 ４ 月 18 日（金）12：20～13：00	横浜市公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	４名
令和７年 12 月 ３ 日（水）12：20～13：00		オンライン	５名
令和７年 ４ 月 24 日（木）12：20～13：00	川崎市立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	２名
令和７年 11 月 14 日（金）12：20～13：00		オンライン	１名
令和７年 ４ 月 30 日（水）12：20～13：00	相模原市立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	３名
令和７年 11 月 20 日（木）12：20～13：00		オンライン	０名
令和７年 ５ 月 ９ 日（金）12：20～13：00	私立学校の教員採用試験説明会	オンライン	１３名
令和７年 12 月 ４ 日（木）12：20～13：00		オンライン	４名

令和７年度　教職公開講座開催結果

１．開 催 日　　令和７年 10 月４日（土）
２．時　　間　　14 時 00 分 ～ 17 時 10 分
３．開催形態　　Google Classroom「 2025 教職公開講座」および Google Meet によるオンライン開催
４．参加人数　　第１部：325 名　第２部：312 名
５．内　　容

（１）今の教育現場について 、現職教員とのディスカッション（専修大学ＯＢ・ＯＧ）

講　　師 （卒業年･学部･学科）	勤　務　先	科 目
高　平　澄　佳　先生 （令和５年３月　文学部日本語学科　卒業）	東京都立五日市高等学校	国　語
尾　島　康　平　先生 （平成 27 年３月 文学部英語英米文学科　卒業）	長野県伊那北高等学校	英　語
泉　　颯　人　先生 （令和６年３月　文学部歴史学科　卒業）	唐津市立浜玉中学校	社　会
佐　藤　康　平　先生 （令和４年３月　文学部歴史学科　卒業）	神奈川県立田奈高等学校	地歴・公民
田　沼　素　毅　先生 （令和６年３月　商学部マーケティング学科　卒業）	茨城県立古河第一高等学校	商　業
大　橋　勇　太　先生 （令和３年３月　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科　卒業）	神奈川県立愛川高等学校	情　報
鷲　崎　伶　央　先生 （令和２年３月　文学部歴史学科　卒業）	前橋市立桃瀬小学校	小学校

（２）求められる教師像

講　師	府中市立府中第一中学校　校長　山　本　周　一　先生

（３）タイムテーブル

	時　間	内　　容	形　態
第１部 14：00 ～ 16：00	14：00～14：10	全体のスケジュール確認および講師紹介	Google Meet
	14：10～14：55 （45分）	－今の教育現場について－	
		国　語　高　平　澄　佳　先生	Google Meet
		英　語　尾　島　康　平　先生	Google Meet
		社　会　泉　　颯　人　先生 地歴・公民　佐　藤　康　平　先生	Google Meet
		商　業　田　沼　素　毅　先生	Google Meet
		情　報　大　橋　勇　太　先生	Google Meet
		小 学 校　鷲　崎　伶　央　先生	Google Meet
	14：55～15：15	休憩	
	15：15～16：00 （45分）	－現職教員とのディスカッション－	
		国　語　高　平　澄　佳　先生	Google Meet
		英　語　尾　島　康　平　先生	Google Meet
		社　会　泉　　颯　人　先生 地歴・公民　佐　藤　康　平　先生	Google Meet
		商　業　田　沼　素　毅　先生	Google Meet
		情　報　大　橋　勇　太　先生	Google Meet
		小 学 校　鷲　崎　伶　央　先生	Google Meet
第２部 16：00 ～ 17：10	16：00～16：10	休憩	
	16：10～17：10 （60分）	－求められる教師像－ 府中市立府中第一中学校 校　長　山　本　周　一　先生	Google Meet

令和７年度　司書課程図書館実習報告会開催結果

開 催 日　令和７年12月８日（月）
時　　間　18：15 ～ 19：20
開催形態　Google Meet によるオンライン開催
参加人数　10 名
内　　容：今年度、図書館実習を行った４名の学生が、実習館の概要や特徴、実習期間中に経験した業務（選書業務、レファレンスサービス、児童サービス、展示など）、印象的な出来事、職員の方から伺った図書館の課題、全体を通しての感想などを報告し、参加者とやり取りをした。

令和７年度　司書課程就職（進路）懇談会開催結果

開 催 日　令和７年 12 月８日（月）
時　　間　19：30 ～ 20：30
開催形態　Google Meet によるオンライン開催
参加人数　10 名
内　　容：八潮市立八條図書館・八條公民館（りらーと八條）で統括責任者として勤務されている駒田紘史氏より、在学中の就職活動、これまでの図書館での業務経験、現在の業務内容とやりがいや苦労している点などを話していただいた。また、在学生への助言として、卒業後も学び続ける姿勢が大切であることや、多様な人々との関係構築の必要性などが示された。参加者からの質問に対しても、丁寧に回答していただき、和やかな雰囲気のなかで終了した。

令和７年度　学校司書課程講演会・受講説明会開催結果

開 催 日　令和８年１月 30 日（金）
時　　間　18：00 ～ 20：00
開催形態　Zoom ミーティングによるオンライン開催
参加人数　57 名（一般・本学学生含む）
内　　容：吉澤小百合氏による講演「学校図書館と学校図書館専門職の役割に対する認知・認識の差」では、ご自身の司書教諭としての経験による問題意識のもとに実施された、学校図書館と学校図書館専門職の役割への認知・認識の差に関する数々の研究の成果が説明された。また、現場の実践において、認知・認識の差が比較的小さい業務から着手することが効果的ではないかとの助言が示されたほか、今後に向けて、学校図書館活用の実践事例を全国的に増やすことや、教育効果に関するエビデンスを明らかにする必要性が示された。短時間ではあったが、参加者とのやり取りがあり、その後、荻原幸子教授が専修大学の科目等履修生制度を紹介した。本学の学生、現職の学校司書や公共図書館の職員など、幅広い立場の参加者を得て滞り無く終了した。

令和７年度　学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告

生田校舎２号館の博物館実習室・展示実習室を活用し、学内実習の一環として、実習生による展示実習および展示の一般公開を行なっている。令和７年度は下記のとおり、授業の復習も含めた実践的展示実習を行ない、一般公開した。また「博物館展示論」の授業時間にも、公開の時間を設けた。

前期公開日　令和７年７月 21 ～ 24 日　11：30 ～ 13：30
・テーマ：「それぞれの博物館実習に向けて」
見学者：27 名

後期公開日　令和８年１月 13 ～ 15 日、19 ～ 22 日　11：30 ～ 13：30
・テーマ：「解説！博物館実習」
見学者：83 名
博物館実習履修者：61 名

＜前期＞展示の話し合い（博物館実習室）

＜後期＞ガラスケースでの展示（展示実習室）

令和７年度　資格課程活動報告

日　　付	事　　項	開催形態･場所	参加者
令和７年 ５月10日	令和７年度 全国大学博物館学講座協議会全国委員会	明治大学	職員１名
５月11日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2025年度 定期総会、東京地区教職課程研究連絡協議会との合同研究大会	二松学舎大学	教員３名
５月17日・ 18日	一般社団法人全国私立大学教職課程協会　第44回研究大会・令和７年度定時社員総会	松山大学	教員１名 職員１名
５月24日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	オンライン	職員１名
５月29日	令和７年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会議（神奈川県教育委員会）	神奈川県立総合教育センター	職員１名
６月 ７ 日	2025年度 第１回京私教協教員免許事務勉強会	オンライン	職員１名
６月21日	大学教務実践研究会セミナー　教務系職員初任者向け講習会	名古屋大学	職員２名
６月28日	令和７年度 全国大学博物館学講座協議会全国大会	淑徳大学	教員１名 職員１名
６月28日	令和７年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会研究会	大東文化大学	職員４名
６月20日	横浜市大学連携・協働協議会、及び、「横浜教育イノベーション・アカデミア」（横浜市教育委員会）	オンライン	教員１名
７月 ５ 日	令和７年度 資格課程懇談会	専修大学	教員16名 (内兼任３名) 職員４名
７月17日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第152回）傍聴	オンライン	職員１名
７月20日	関私教協 2025年度研究部総会・第１回研究部会ならびに第１回研究懇話	オンライン	教員１名
８月 ７ 日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第153回）傍聴	オンライン	職員１名
９月19日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第155回）傍聴	オンライン	職員１名
10月22日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ（第１回）」傍聴	オンライン	職員１名
10月25日	令和７年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会総会	中央大学	職員２名
10月25日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	共立女子大学	職員２名
11月 ８ 日	東京地区教職課程研究連絡協議会情報交換会	オンライン	教員１名
11月 ８ 日	令和７年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会総会	学習院大学	教員１名 職員１名
11月15日	全国私立大学教職課程協会　2025年度研究交流集会	千葉工業大学	教員１名 職員１名
11月19日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ（第２回）」傍聴	オンライン	職員１名
12月14日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2025年度 第２回研究懇話会	オンライン	教員１名
12月23日	令和７年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会（文部科学省）	オンライン	職員４名
令和８年 ２月16日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第158回）傍聴	オンライン	職員１名
２月21日	令和７年度 神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会	湘南工科大学	教員１名 職員２名
２月28日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	オンライン	職員１名

令和７年度　資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経済学部	准教授	角田真紀子	教育相談の理論と方法
経済学部	講師	宮崎三喜男	社会科・公民科教育法１・２
法 学 部	教授	森田　司郎	教育課程論
法 学 部	准教授	小場瀬琢磨	法律学ａ・ｂ
法 学 部	准教授	加藤　雄三	法律学ａ・ｂ
法 学 部	特任教授	黄　　順姫	教育原論
経営学部	准教授	福山　文子	公教育制度論
商 学 部	教授	佐藤　由美	社会科・地歴科教育法１・２
商 学 部	講師	池田　宏史	商業科教育法１・２
文 学 部	教授	赤坂　郁美	自然地理学概論ｂ
文 学 部	教授	伊藤　博明	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	教授	今井　　上	日本文学通史ａ
文 学 部	教授	江崎　雄治	人文地理学概論ｂ
文 学 部	教授	片桐　一彦	英語科教育法１・２
文 学 部	教授	苅谷　愛彦	自然地理学概論ａ
文 学 部	教授	鬼嶋　　淳	日本史ａ・ｂ
文 学 部	教授	佐藤　岳詩	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	教授	田邉　祐司	英語科教育法３・４
文 学 部	教授	蔦尾　和宏	国語科教育法２
文 学 部	教授	貫　　成人	哲学ａ・ｂ
文 学 部	教授	松尾　容孝	人文地理学概論ａ
文 学 部	教授	山口　政幸	日本文学通史ｂ
文 学 部	教授	米村みゆき	日本文学概論ｂ
文 学 部	准教授	鈴木　愛理	国語科教育法１・４
文 学 部	准教授	松尾　　治	書道科教育法１・２
文 学 部	助教	鈴木比奈子	地理学ａ・ｂ
文 学 部	特任教授	肝付　俊朗	教職入門
ネットワーク情報学部	教授	砂原　由和	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）
ネットワーク情報学部	准教授	鶴田　利郎	情報科教育法１・２
人間科学部	教授	秋吉　美都	社会学原論ｂ
人間科学部	教授	小峰　直史	生徒・進路指導論
人間科学部	准教授	後藤　吉彦	社会学原論ａ
国際コミュニケーション学部	教授	斎藤　達哉	日本語学入門ａ・ｂ
国際コミュニケーション学部	教授	山下　　直	国語科教育法１・２
経済学部	兼任講師	長船　孝明	商業科教育法１・２
経済学部	兼任講師	小島　道生	特別支援教育論
経済学部	兼任講師	崔　　玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科・地歴科教育法１・２
法 学 部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	玄　　在均	社会科・公民科教育法１・２
法 学 部	兼任講師	松村　芳明	法律学ａ・ｂ
法 学 部	兼任講師	山口　晶子	教職入門
経営学部	兼任講師	黒木　弘司	情報と職業
商 学 部	客員教授	齋藤　博志	教職実践演習（中・高）
商 学 部	兼任講師	泉　　貴久	地理学ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	加瀬きよ子	商業科教育法１・２
商 学 部	兼任講師	進士　勇介	職業指導ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	前川　明彦	人文地理学概論ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	皆川　雅樹	日本史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	新井　智一	地誌学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	石川　就彦	中国文学講義ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	太田　弘	自然地理学概論ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	小笠原　強	外国史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	後藤　康行	日本史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	寺戸　淳子	宗教学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	富永　裕子	英語科教育法１・２
文 学 部	兼任講師	長谷川　徹	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	日向　雅之	書道ａ
文 学 部	兼任講師	福島　大我	外国史ａ
文 学 部	兼任講師	穂積　謙吾	地誌学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	山田　朋子	外国史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	山本　幸博	書道ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	湯田　ミノリ	地理学ａ・ｂ
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚　慎太郎	数学科教育法１・２
人間科学部	兼任講師	渡辺　彰規	社会学原論ａ・ｂ
国際コミュニケーション学部	兼任講師	初谷　和行	国語科教育法３・４

《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曽根　匡	図書館情報技術論
経営学部	教授	荻原　幸子	図書館概論
文 学 部	教授	野口　武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生　純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	蟹瀬　智弘	情報サービス演習２
経営学部	兼任講師	青山比呂乃	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	斎藤　　純	学校図書館メディアの構成
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習２
経営学部	兼任講師	鴇田　拓哉	情報資源組織論
経営学部	兼任講師	蓑田　明子	図書館制度・経営論
経営学部	兼任講師	八木　晃二	図書館情報技術論
経営学部	兼任講師	萬谷ひとみ	児童サービス論
経営学部	兼任講師	渡辺　暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	勝亦あき子	読書と豊かな人間性
文 学 部	兼任講師	畔田　暁子	読書と豊かな人間性
文 学 部	兼任講師	中島　玲子	情報サービス演習２
文 学 部	兼任講師	中和　正彦	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	成松　一郎	図書館サービス特論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習１・２
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村　和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向　良和	情報サービス演習１

《学芸員》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田　欽三	博物館概論
文 学 部	教授	高島　裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本　和美	博物館資料保存論

アトリウム（生田キャンパス９号館）

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

令和７年度の資格課程年報『パッソ ア パッソ』28 号を皆様のお手元にお届けします。本学ならびに附属高等学校の先生方、卒業生、在校生の皆様から玉稿を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

教職課程、司書・司書教諭・学校司書課程、学芸員課程のいずれにおいても、その資格の取得のためには実習を経験せねばなりません。多くの学生の皆さんにとって、実習は未知の世界であり、どのような心構えでどのように準備して臨めばよいのか、わからないことばかりだと思います。そのような時、この『パッソ ア パッソ』をぜひ役立ててください。ここには、それぞれの資格課程でどのような実習を行ってきたのか、実際に実習を体験した先輩方の生の声が記されています。

教員採用試験の受験を考えている方には、採用試験体験記も大いに参考になることでしょう。ほかにも、教職実践演習、教職公開講座、専修大学教育学会の意義や価値を知ることもできます。

また、データ編にはさまざまな種類のデータがきめ細かく掲載されています。これらは、本学資格課程の誇るべき実績であると同時に、本学資格課程の動向などについて知るための貴重な資料ともなっています。

『パッソ ア パッソ』を読むことを通して、専修大学資格課程のさまざまな授業や行事、実習に大切な意味があることをあらためて認識してもらえば嬉しく思います。

編集委員長
山下　直
編集委員
福山　文子
松尾　治
野口　武悟
高島　裕之

令和７年度　専修大学
資格課程年報『パッソ　ア　パッソ』

発行日　令和８年３月31日
編　集　**専修大学**
生田校舎　教務課　資格課程係
〒214-8580　神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
TEL　044-911-1259　FAX　044-911-7163
神田校舎　教務課
〒101-8425　東京都千代田区神田神保町3-8
TEL　03-3265-5843　FAX　03-3265-7084
ＵＲＬ　https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/

印　刷　**株式会社賢工製版**
〒140-0002　東京都品川区東品川5-6-15
TEL　03-6712-8484

パッションアパッション

専修大学